

檜葉町 住民意向調査 報告書

平成27年3月

復 興 庁
福 島 県
檜 葉 町

檜葉町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	22
3-1-4 現在の住居形態	25
3-2 震災発生当時の住居形態	28
3-2-1 震災発生当時の住居形態	28
3-2-2 震災発生当時の持ち家の今後の予定	29
3-3 将来の意向	30
3-3-1 今後の職業についての意向	30
3-3-2 檜葉町への帰還意向	36
3-3-3 帰還する場合に求める支援	43
3-3-4 帰還する場合に行ってみたい地域活動	45
3-3-5 檜葉町への帰還を判断する上で考慮する情報	47
3-3-6 檜葉町への帰還を判断する上で参考とする情報	51
3-3-7 避難指示解除から帰還までの年数	55
3-3-8 帰還後の世帯構成	58
3-3-9 檜葉町へ帰還する場合の住居形態	60

3-3-10	檜葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	63
3-3-11	檜葉町へ帰還する場合に利用したい民間事業者のサービス	64
3-3-12	現時点で戻らないと決めている理由	67
3-3-13	帰還しない場合に居住したい自治体	70
3-3-14	帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態	73
3-3-15	帰還しない場合に今後の生活において求める支援	75
3-4	意見・要望	77
IV	参考資料	97
4-1	使用調査票	99

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、楡葉町民の避難生活の現況及び意向を把握し、町の復興及び生活再建に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	楡葉町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 3,458 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成26年10月3日（金）～平成26年10月17日（金）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、楡葉町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,923 世帯（有効回収率 55.6%）

1-5 報告書の見方

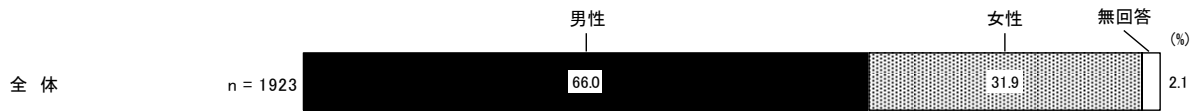
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の行政区別の分析は n 値が30を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

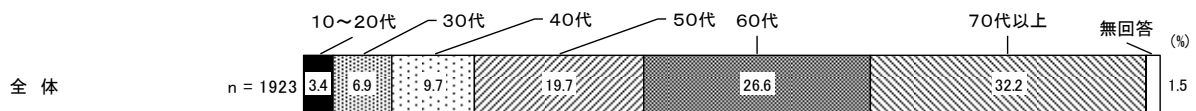
(1) 性別

<図表2-1-1>



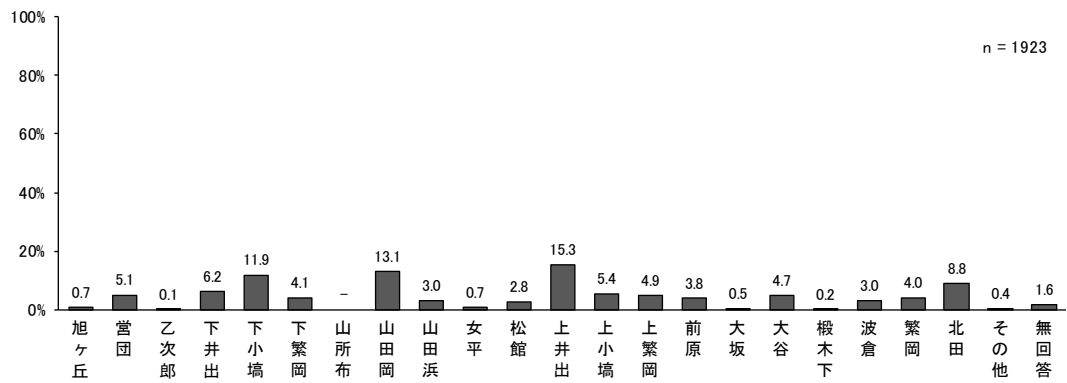
(2) 年齢

<図表2-1-2>



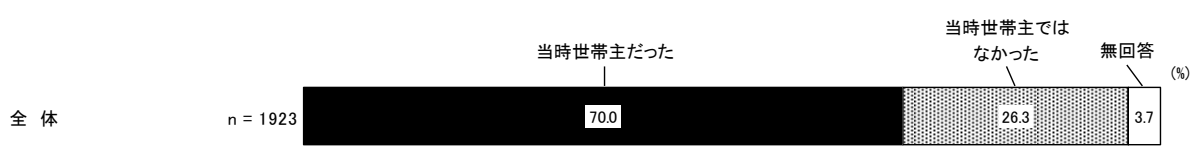
(3) 震災発生当時の行政区

<図表2-1-3>



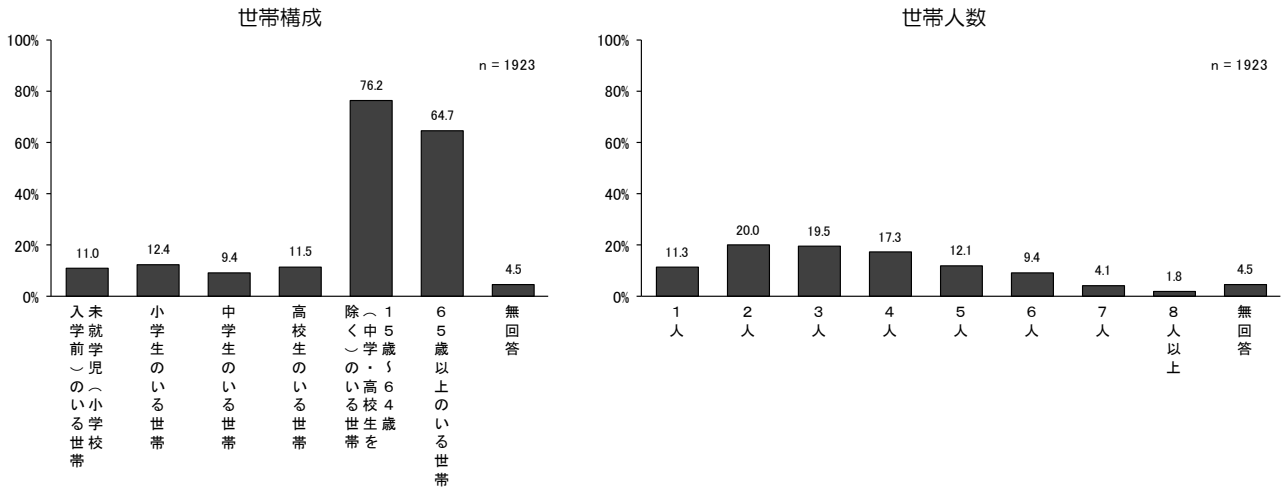
(4) 震災発生当時の世帯での立場

<図表2-1-4>



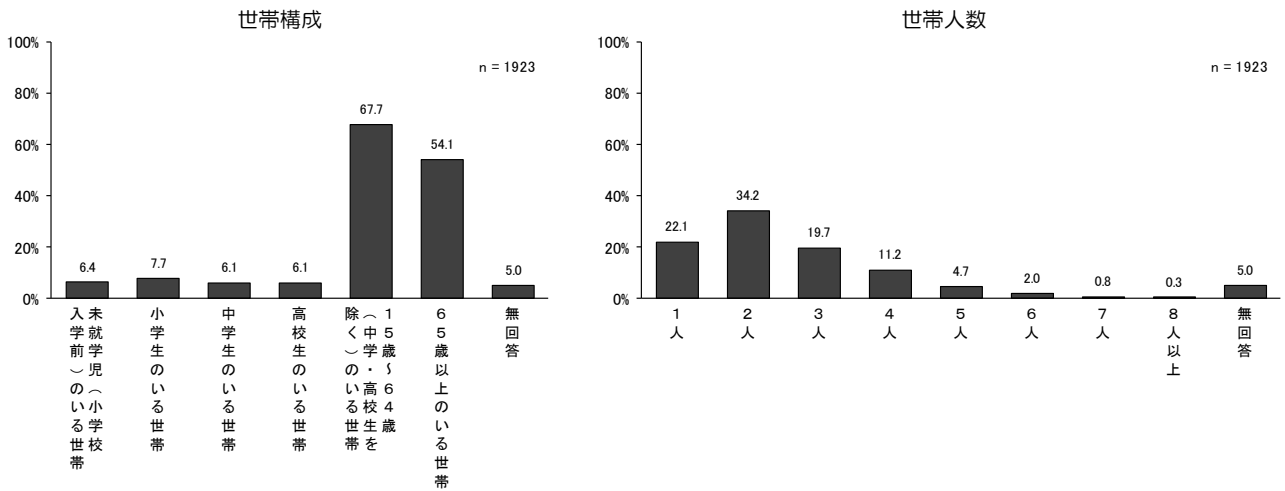
(5) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-5>



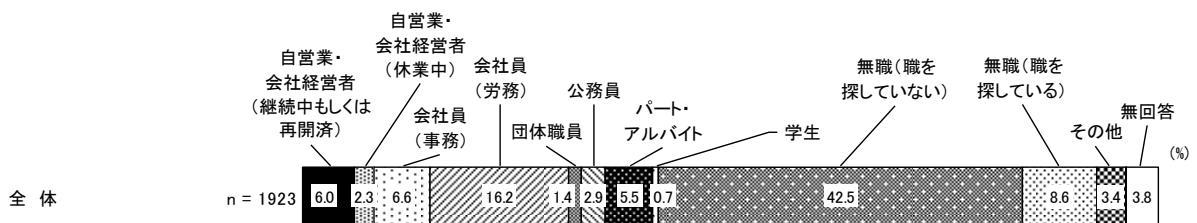
(6) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-6>



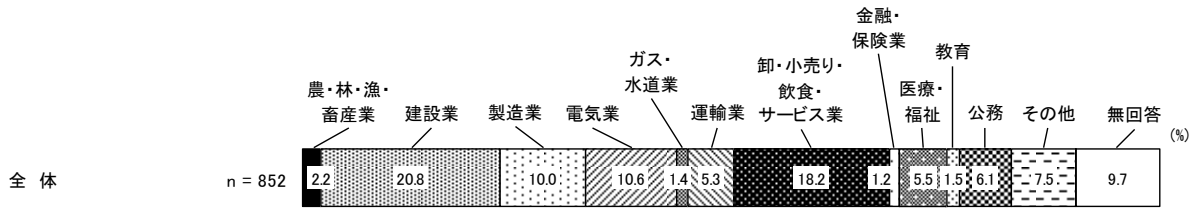
(7) 現在の職業（就業形態）

<図表2-1-7>



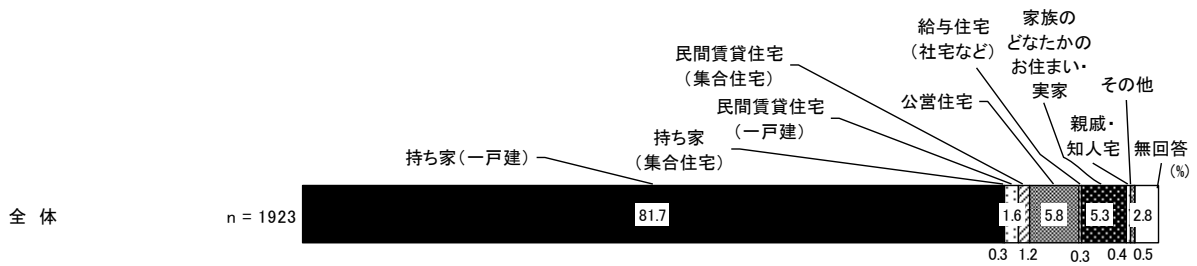
(8) 現在の職業（業種）

<図表2-1-8>



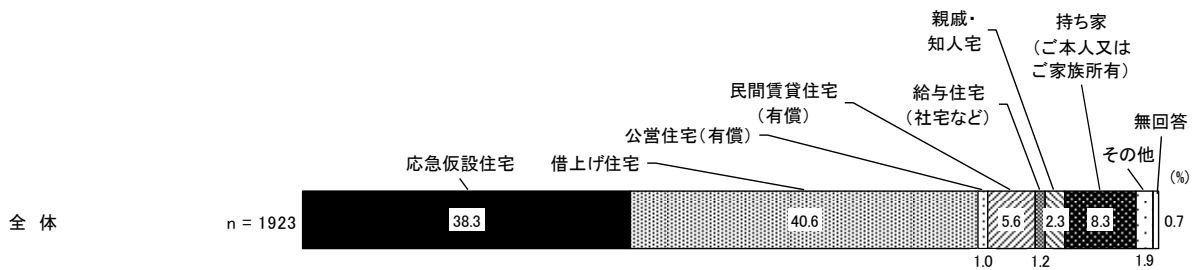
(9) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-9>



(10) 現在の住居形態

<図表2-1-10>



III 調査結果

3-1 現在の状況

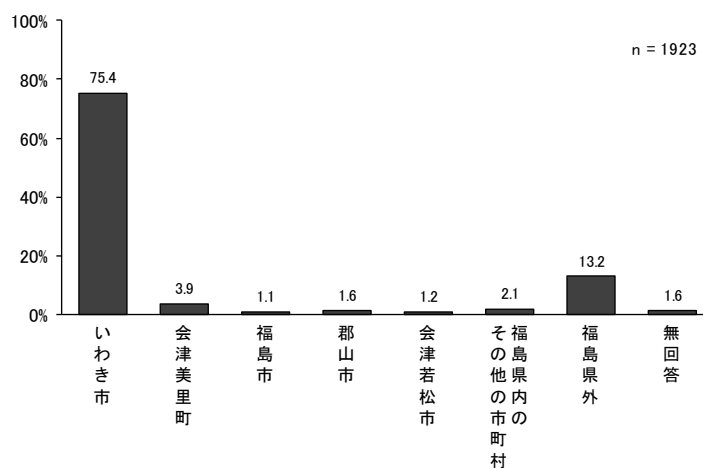
3-1-1 現在の避難先自治体

問6 あなたが現在避難されている自治体名を教えてください。(〇は1つ)

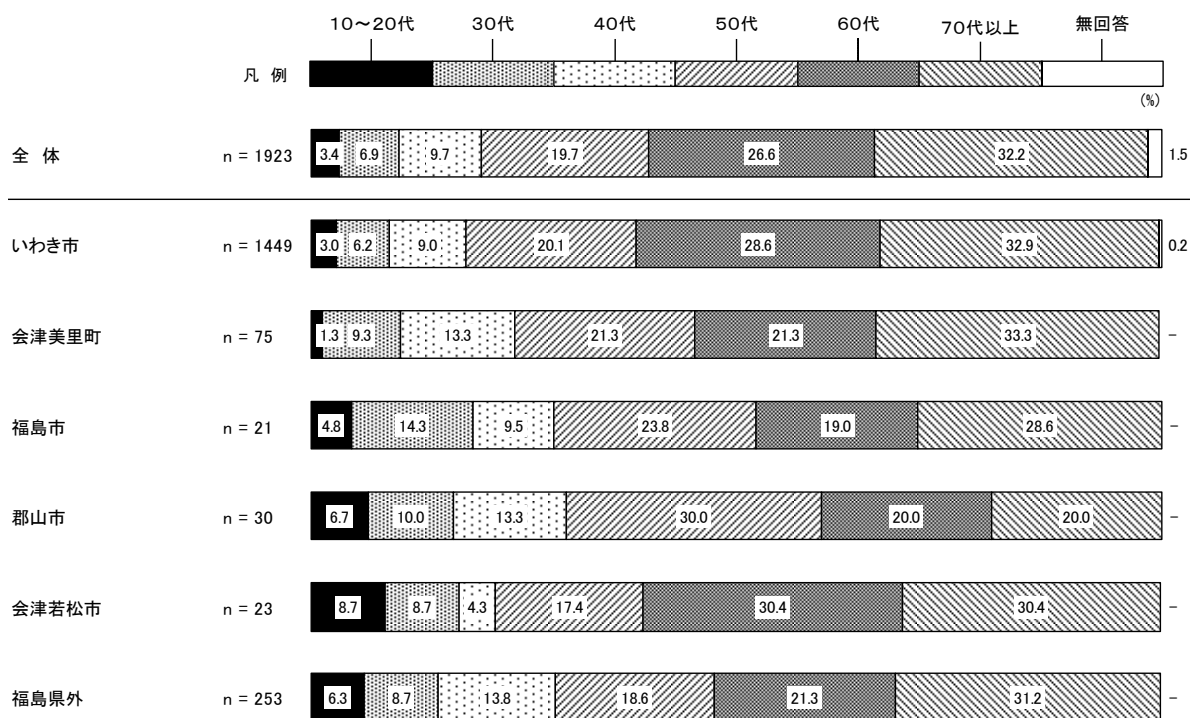
現在の避難先自治体については、「いわき市」が75.4%と最も高く、次いで「福島県外」が13.2%、「会津美里町」が3.9%となっている。

主な避難先自治体について回答者の年齢別にみると、「いわき市」は60代以上(61.5%)で約6割を占め、高齢層で割合が高い。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



震災発生当時の行政区別にみると、「いわき市」が過半数を占めている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の行政区別）>

	n	(%)					
		いわき市	会津美里町	福島市	郡山市	会津若松市	福島県外
全体	1923	75.4	3.9	1.1	1.6	1.2	13.2
旭ヶ丘	13	53.8	23.1	-	-	-	23.1
営団	98	65.3	6.1	-	4.1	1.0	18.4
乙次郎	2	50.0	50.0	-	-	-	-
下井出	119	69.7	1.7	-	1.7	1.7	21.0
下小埜	228	81.1	2.6	1.3	0.9	0.9	11.0
下繁岡	78	76.9	3.8	2.6	1.3	2.6	11.5
山所布	-	-	-	-	-	-	-
山田岡	252	79.0	4.4	0.8	1.2	-	12.7
山田浜	57	86.0	1.8	3.5	-	-	8.8
女平	13	92.3	7.7	-	-	-	-
松館	54	83.3	-	1.9	-	-	11.1
上井出	295	70.8	7.8	0.3	2.4	2.4	14.9
上小埜	103	74.8	3.9	2.9	1.9	1.9	13.6
上繁岡	94	80.9	3.2	-	2.1	-	9.6
前原	74	74.3	1.4	4.1	-	1.4	13.5
大坂	9	100.0	-	-	-	-	-
大谷	91	78.0	1.1	-	1.1	3.3	12.1
楢木下	3	100.0	-	-	-	-	-
波倉	57	73.7	3.5	1.8	1.8	1.8	15.8
繁岡	77	84.4	-	-	3.9	-	7.8
北田	169	76.9	3.6	1.2	1.2	1.2	14.8
その他	7	42.9	14.3	14.3	-	-	28.6

3-1-2 世帯構成・人数

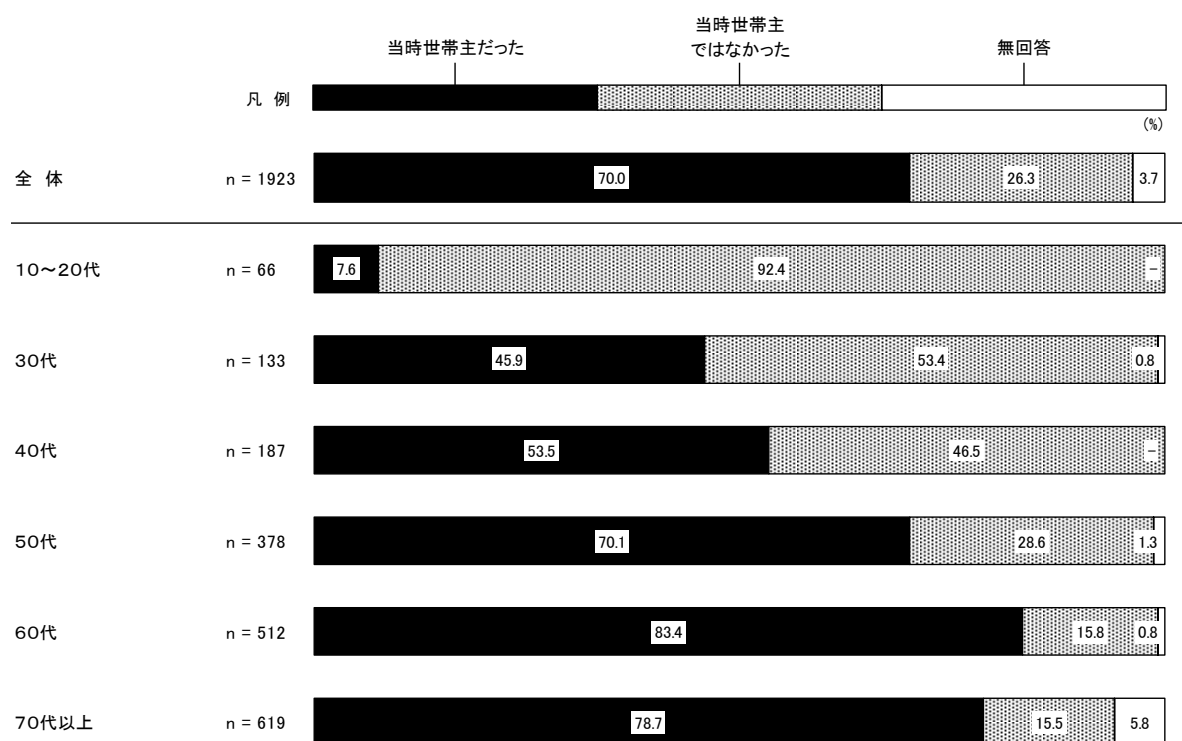
(1) 震災発生当時の世帯での立場

問4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の世帯での立場については「当時世帯主だった」が70.0%、「当時世帯主ではなかった」が26.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるに従い、「当時世帯主だった」方の割合が高くなっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯での立場（年齢別）>



(2) 震災発生当時の世帯構成・人数

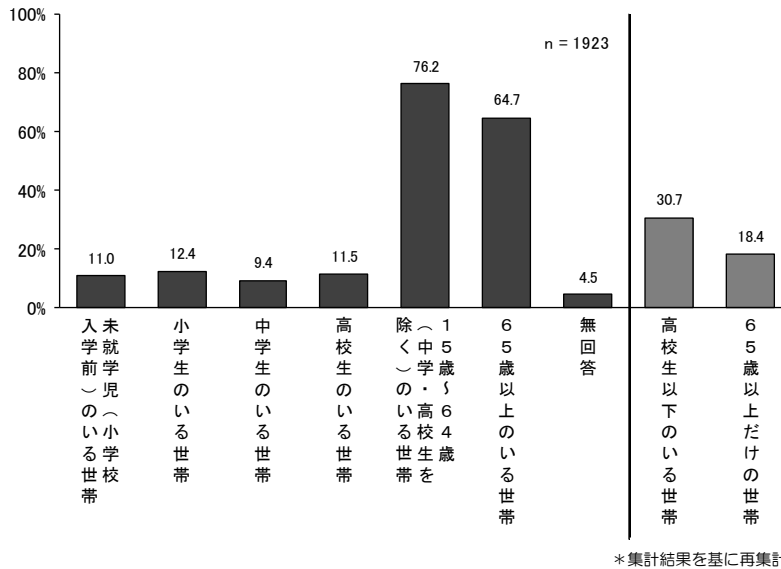
問5 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 震災発生当時の世帯構成

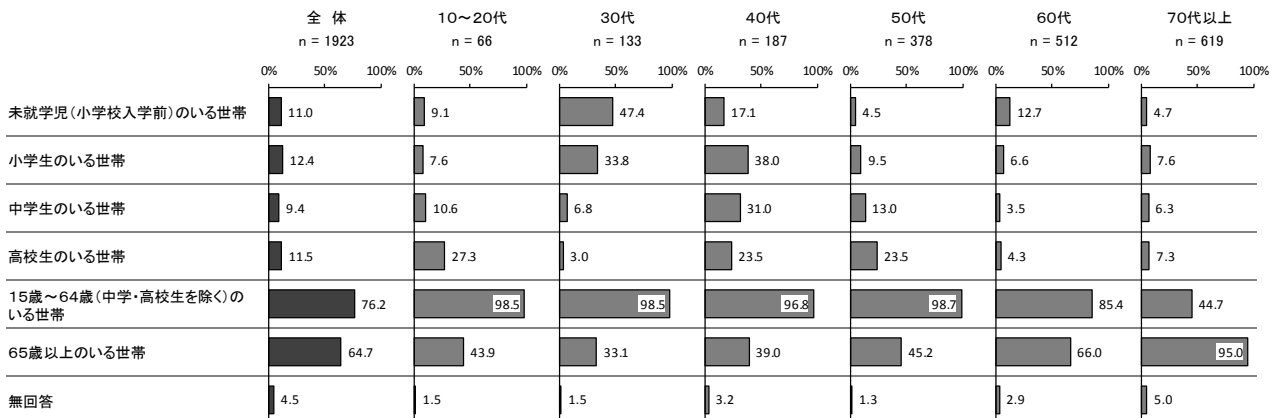
震災発生当時の世帯構成については「15歳～64歳(中学・高校生を除く)のいる世帯」が76.2%と最も高く、次いで「65歳以上のいる世帯」が64.7%となっている。

一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(11.0%)、「小学生のいる世帯」(12.4%)、「中学生のいる世帯」(9.4%)、「高校生のいる世帯」(11.5%)はいずれも概ね1割となっている。

<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

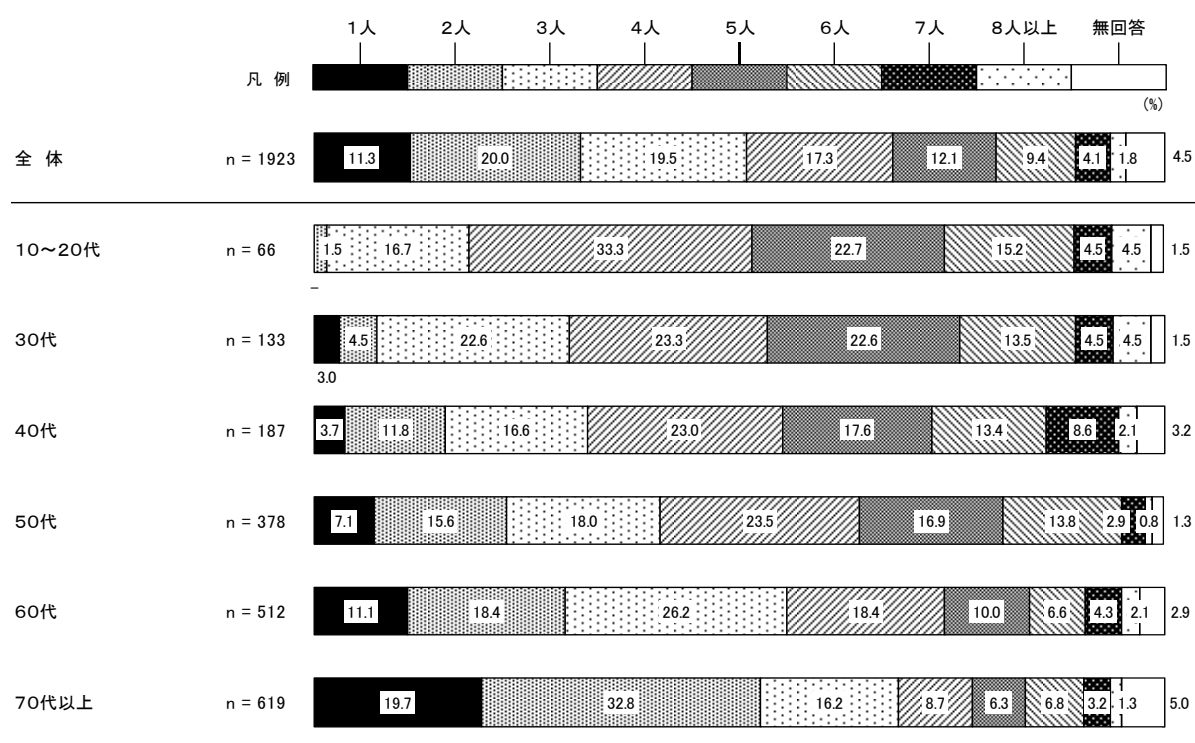


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数については「2人」が20.0%と最も高く、次いで「3人」が19.5%、「4人」が17.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「1人」は70代以上（19.7%）、「2人」は70代以上（32.8%）、「3人」は60代（26.2%）、「4人」は10～20代（33.3%）で、他の年齢と比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-2-4 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



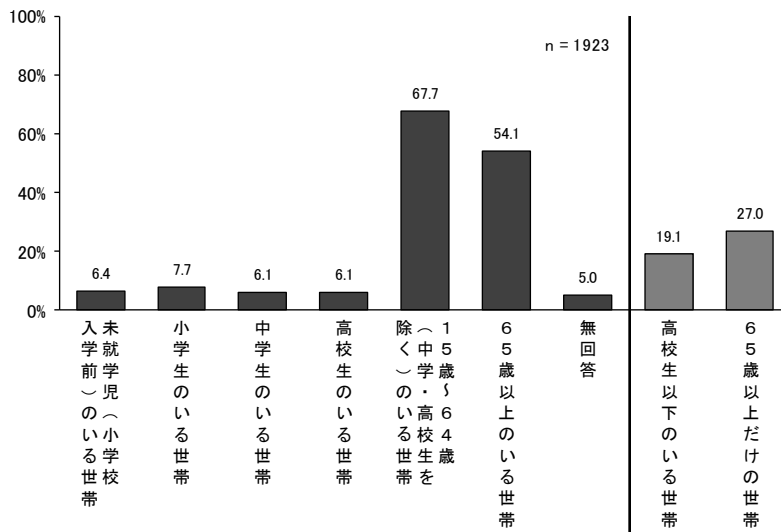
(3) 現在の世帯構成・人数

問7 現在の世帯構成についていかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 現在の世帯構成

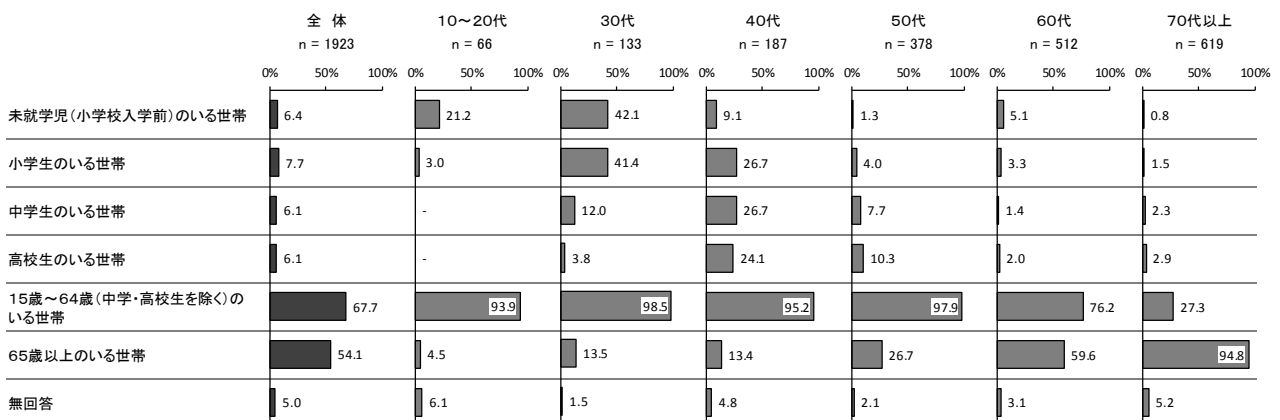
現在の世帯構成については「15歳～64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」が67.7%と最も高く、次いで「65歳以上のいる世帯」が54.1%、「小学生のいる世帯」が7.7%となっている。

<図表3-1-2-5 現在の世帯構成>



* 集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-6 現在の世帯構成(年齢別)>

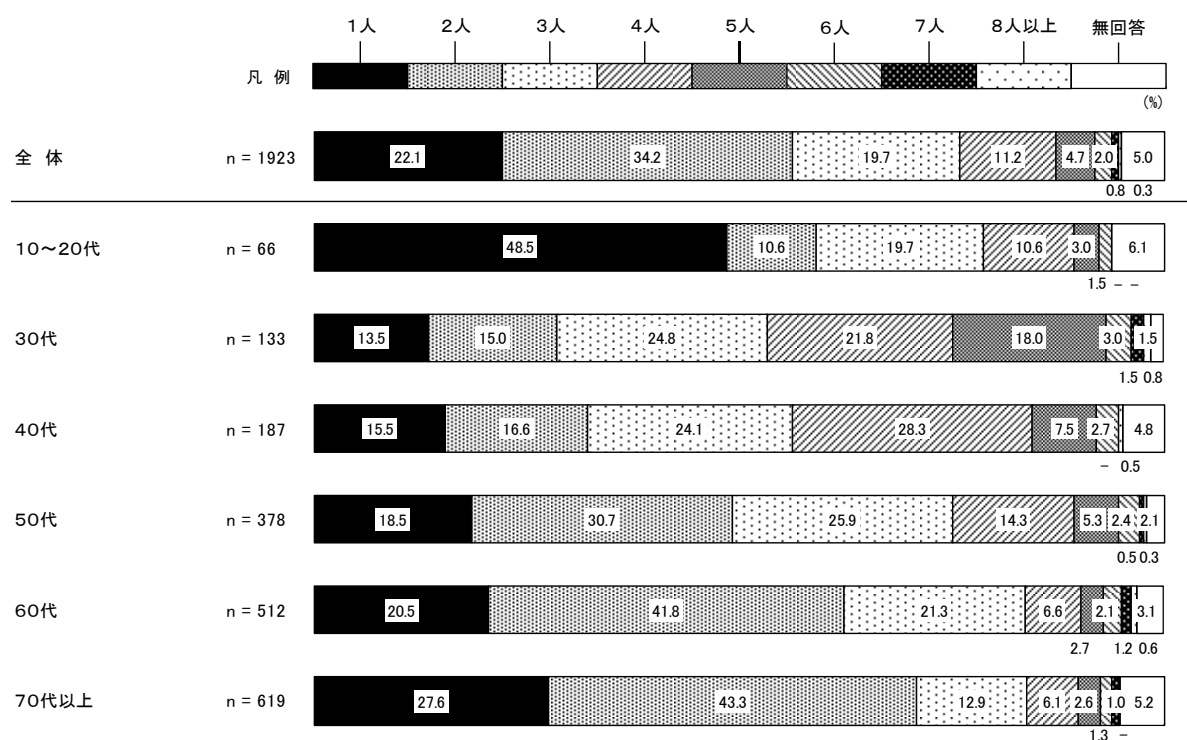


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数については「2人」が34.2%と最も高く、次いで「1人」(22.1%)、「3人」(19.7%)となっている。震災発生当時より単身世帯の割合が高くなっている。

回答者の年齢別にみると、「1人」は10~20代(48.5%)、「2人」は60代(41.8%)、70代以上(43.3%)で他の年齢と比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-2-7 現在の世帯人数(年齢別)>



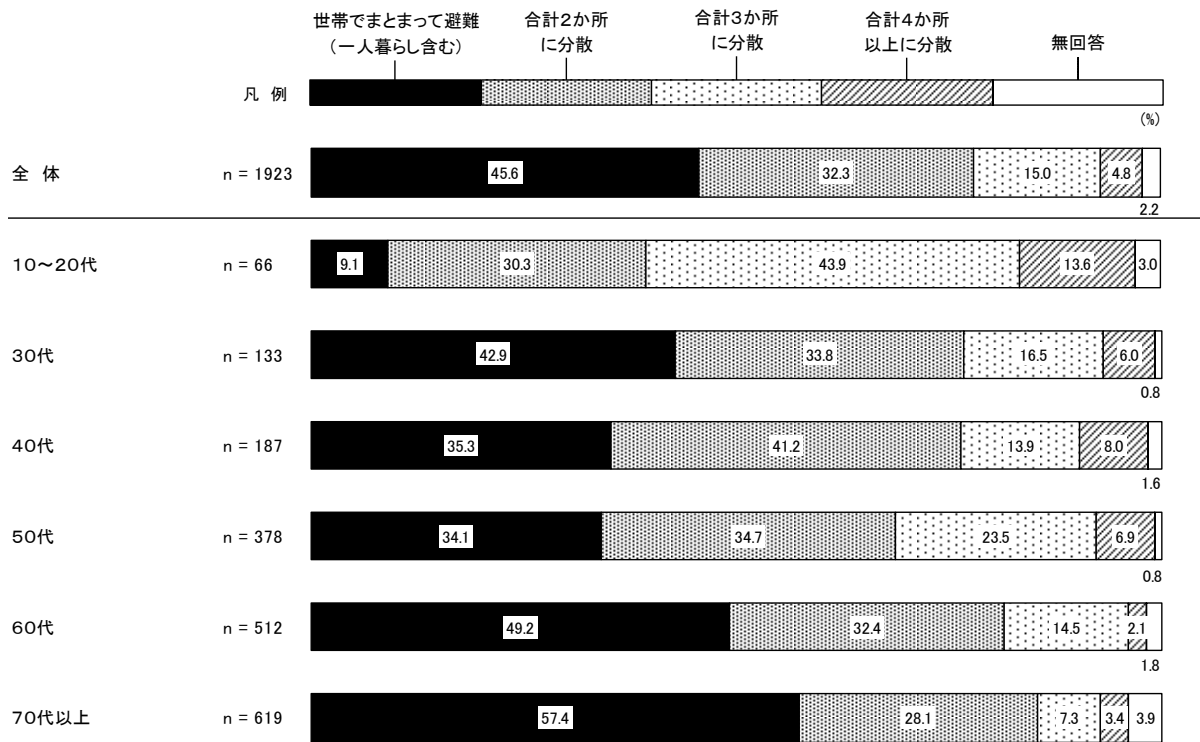
(4) 世帯の分散状況

問8 震災発生当時ご一緒にお住まいであった家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)

震災発生当時の世帯の分散状況については「世帯でまとまって避難(一人暮らし含む)」(45.6%)と最も高く、次いで「合計2か所に分散」(32.3%)、「合計3か所に分散」(15.0%)と続いており、分散している世帯が半数を超えている(52.1%)。

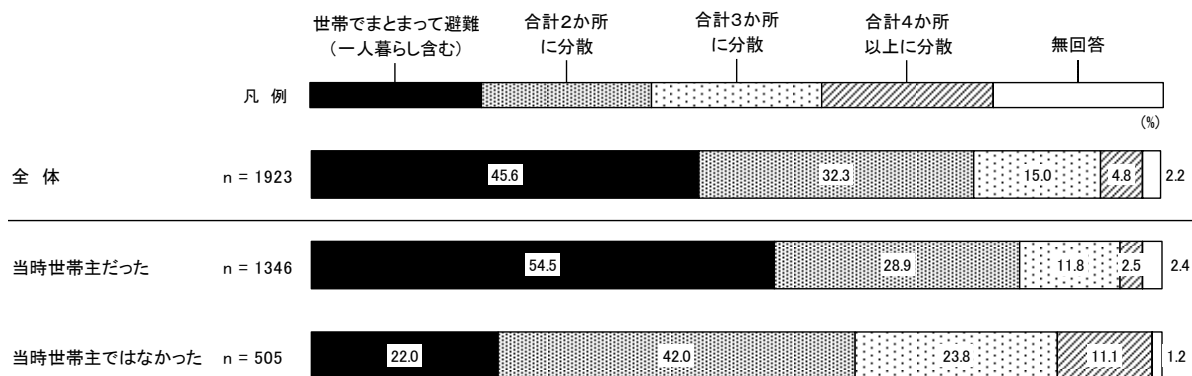
回答者の年齢別にみると、70代以上では「世帯でまとまって避難(一人暮らし含む)」が57.4%と他の年齢に比べて割合が高くなっている。一方、10~20代では「合計3か所に分散」が43.9%、「合計4か所以上に分散」が13.6%となっており、他の年齢と比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-2-8 世帯の分散状況(年齢別)>



震災発生当時の世帯での立場別にみると、当時世帯主だった方では「世帯でまとまって避難（一人暮らし含む）」（54.5%）が過半数となる一方、当時世帯主ではなかった方では「合計2か所に分散」が42.0%と最も高く、次いで「合計3か所に分散」が23.8%、「世帯でまとまって避難（一人暮らし含む）」が22.0%となっている。

<図表3-1-2-9 世帯の分散状況（震災発生当時の世帯での立場別）>



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

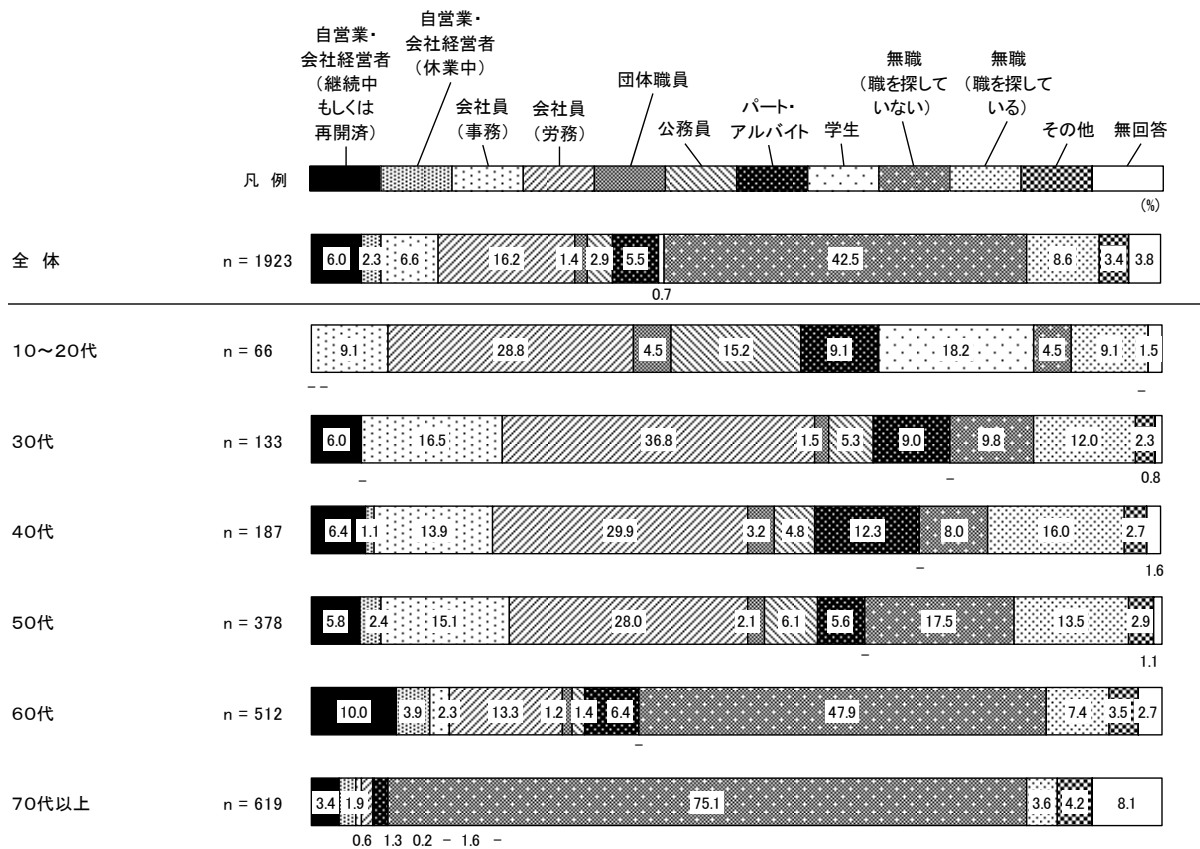
問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

現在の職業（就業形態）について、「無職（職を探していない・職を探している）以外では、「会社員（労務）」が16.2%と最も高く、次いで「会社員（事務）」が6.6%、「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」が6.0%となっている。

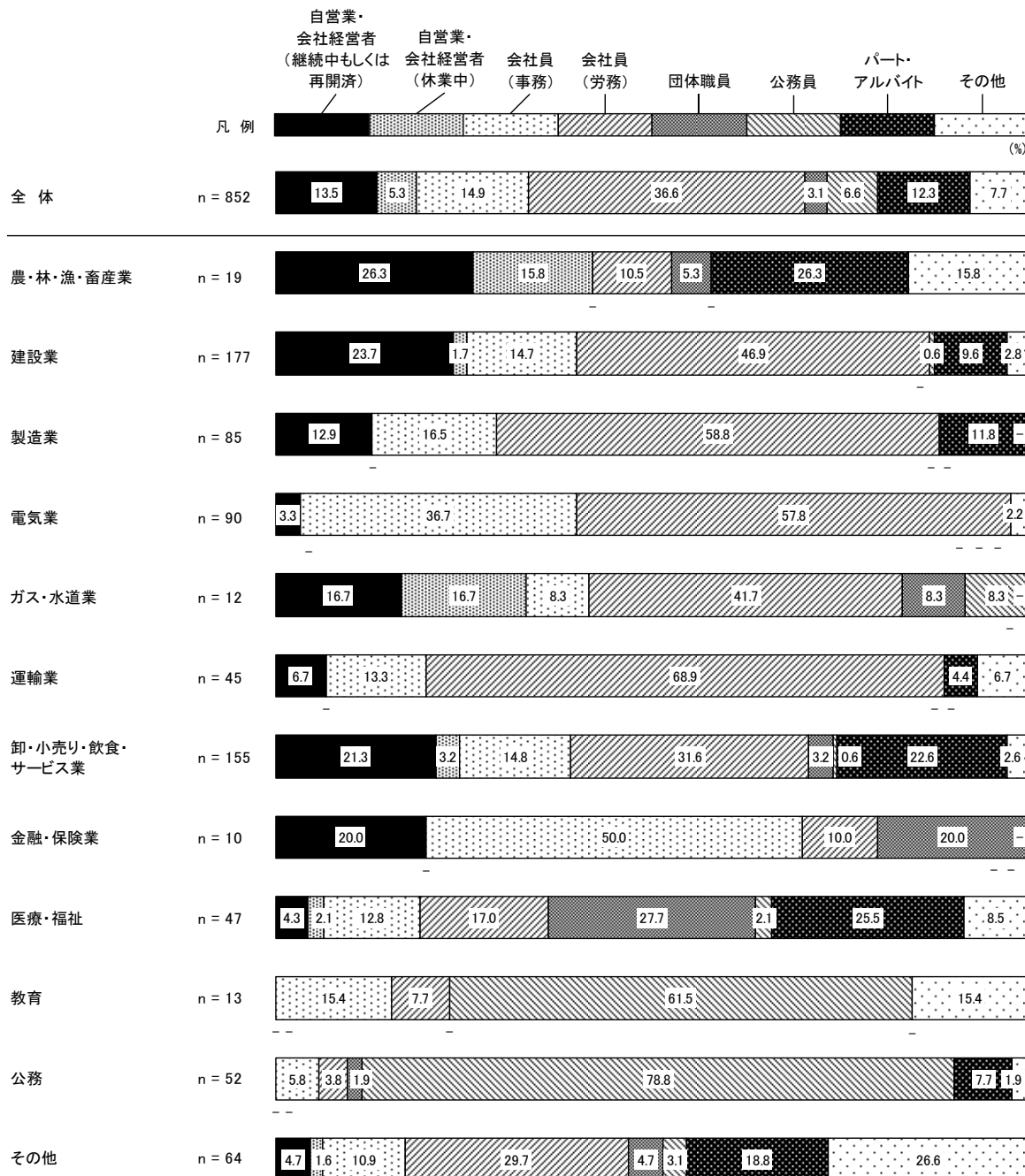
回答者の年齢別にみると、10～20代は「会社員（労務）」が28.8%、30代は「会社員（労務）」が36.8%、40代は「会社員（労務）」が29.9%、50代は「会社員（労務）」が28.0%、60代は「無職（職を探していない）」が47.9%、70代以上は「無職（職を探していない）」が75.1%とそれぞれの年齢で割合が高くなっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



業種別にみると、建設業、製造業、電気業、運輸業ではいずれも「会社員（労務）」が他の業種と比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）>



(2) 現在の業種

問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

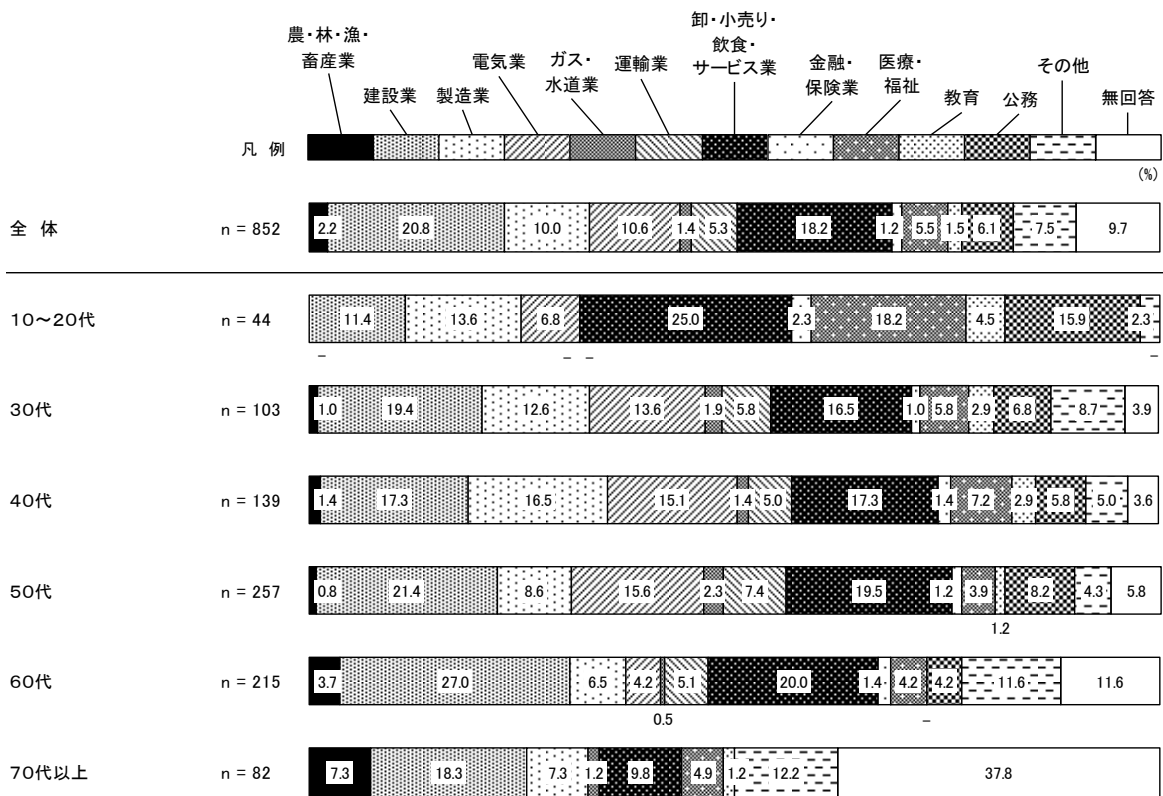
【就業している方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

業種については、「建設業」が20.8%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食・サービス業」が18.2%、「電気業」が10.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、50代(21.4%)、60代(27.0%)で、「卸・小売り・飲食・サービス業」は、10~20代(25.0%)、60代(20.0%)で他の年齢に比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-3-3 業種(年齢別)>



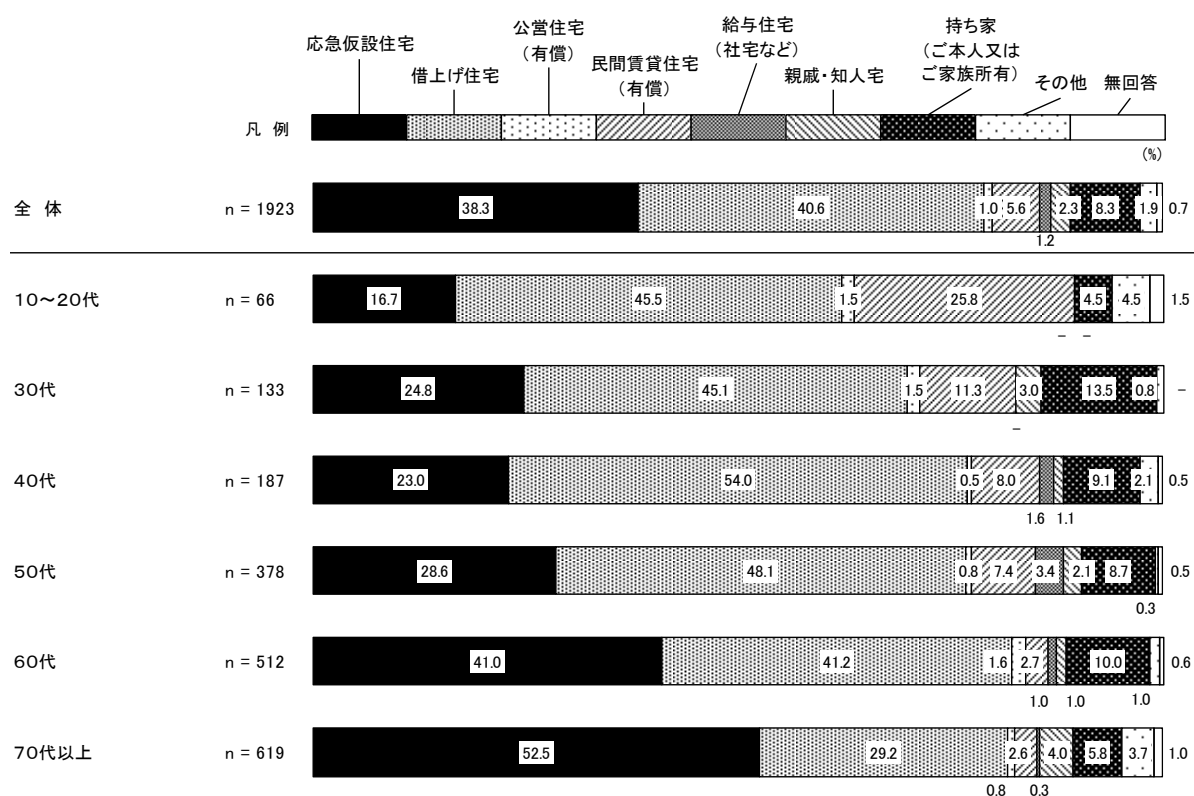
3-1-4 現在の住居形態

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「借上げ住宅」が40.6%と最も高く、次いで「応急仮設住宅」が38.3%、「持ち家(ご本人又はご家族所有)」が8.3%となっており、「応急仮設住宅」(38.3%)と「借上げ住宅」(40.6%)で全体の約8割程度を占めている。

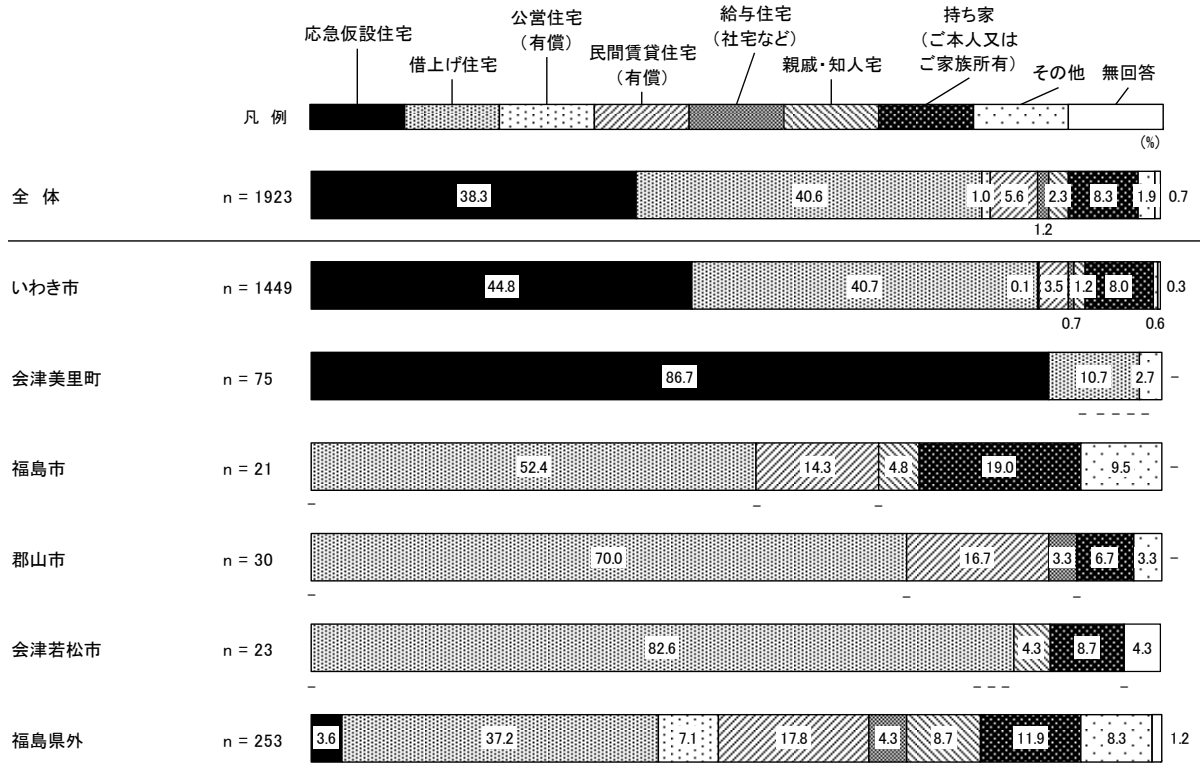
回答者の年齢別にみると、「民間賃貸住宅(有償)」は若年層で割合が高く、10~20代で25.8%となっている。一方で、「応急仮設住宅」は概ね年齢が高くなるにつれ割合も高くなり、70代以上では52.5%と過半数を占めている。

<図表3-1-4-1 現在の住居形態(年齢別)>



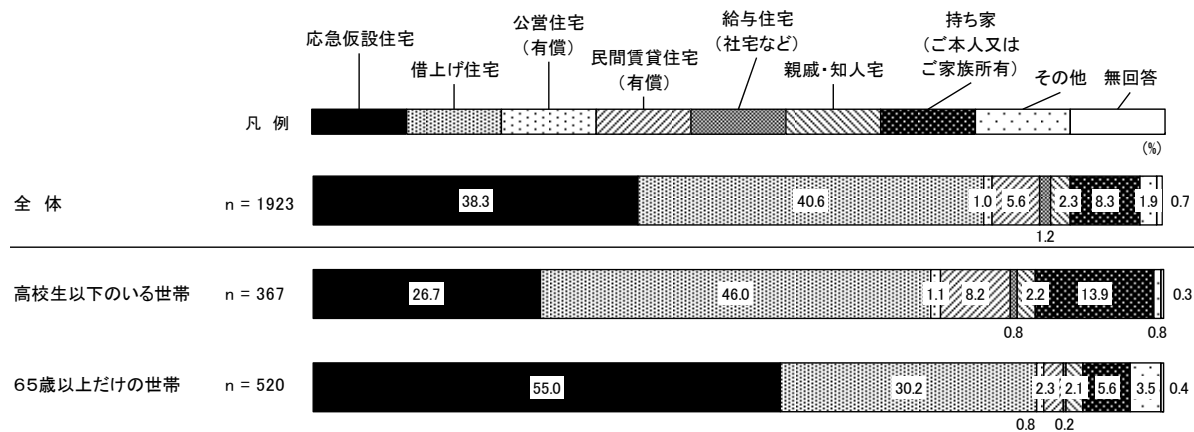
主な避難先自治体別にみると、会津美里町で「応急仮設住宅」(86.7%)が特に高くなっている。

<図表3-1-4-2 現在の住居形態(主な避難先自治体別)>



世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「借上げ住宅」の割合が46.0%と高くなっている。一方で65歳以上だけの世帯では「応急仮設住宅」の割合が55.0%と高くなっている。

<図表3-1-4-3 現在の住居形態（世帯構成別）>



3-2 震災発生当時の住居形態

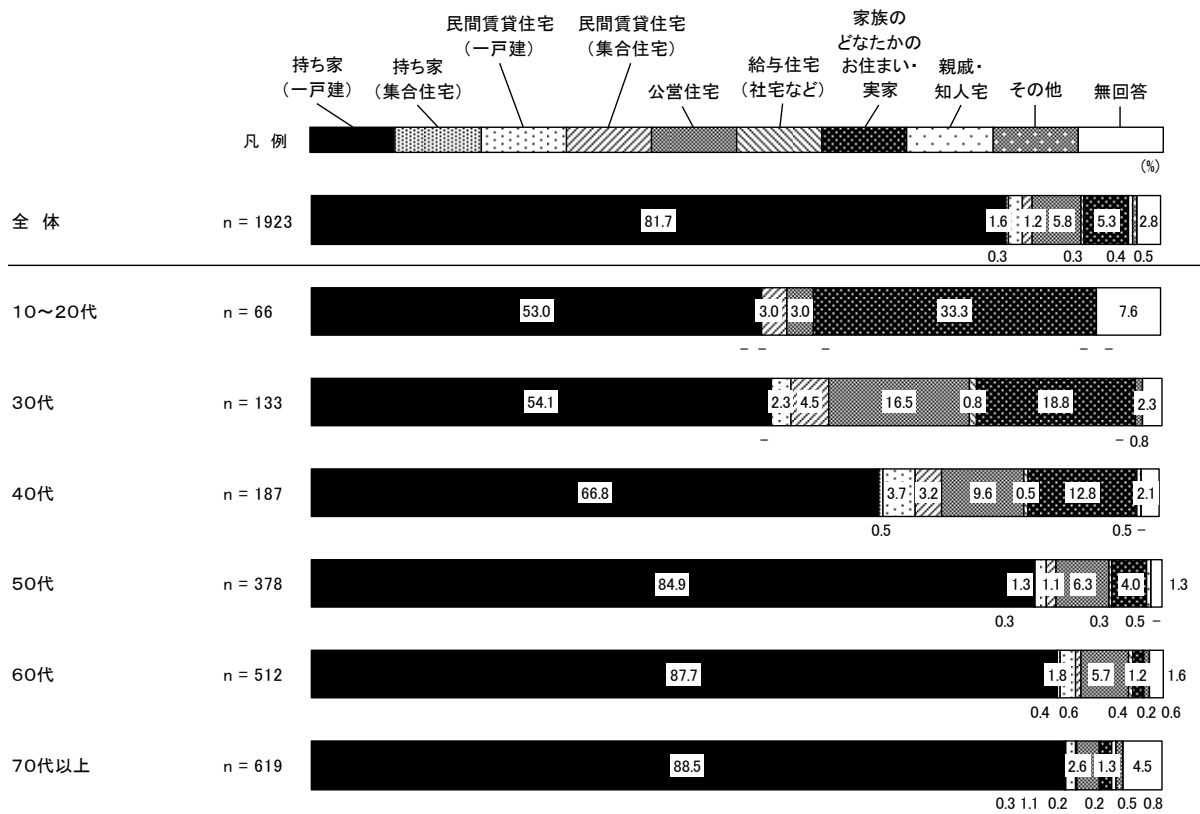
3-2-1 震災発生当時の住居形態

問 18 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が 81.7%と最も高く、次いで「公営住宅」が 5.8%、「家族のどなたかのお住まい・実家」が 5.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、50代以上では8割を超えている。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は 10～20代（33.3%）が他の年齢に比べて割合が高くなっている。

<図表3-2-1-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）>



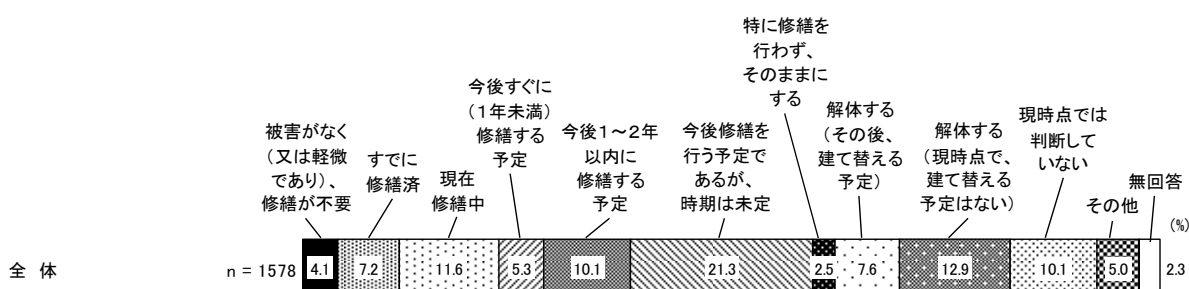
3-2-2 震災発生当時の持ち家の今後の予定

【問18で「1 持ち家（一戸建）」又は「2 持ち家（集合住宅）」と回答した方にうかがいます。】

問19 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）は、今後どのようにされる予定ですか。（〇は1つ）

震災発生当時の持ち家の今後の予定については、「今後修繕を行う予定であるが、時期は未定」が21.3%と最も高く、次いで「解体する（現時点で、建て替える予定はない）」が12.9%、「現在修繕中」が11.6%となっている。また、「すでに修繕済」（7.2%）と「現在修繕中」（11.6%）を合わせ、修繕を行っている世帯が2割弱となっている。

＜図表3-2-2-1 震災発生当時の持ち家の今後の予定＞



3-3 将来の意向

3-3-1 今後の職業についての意向

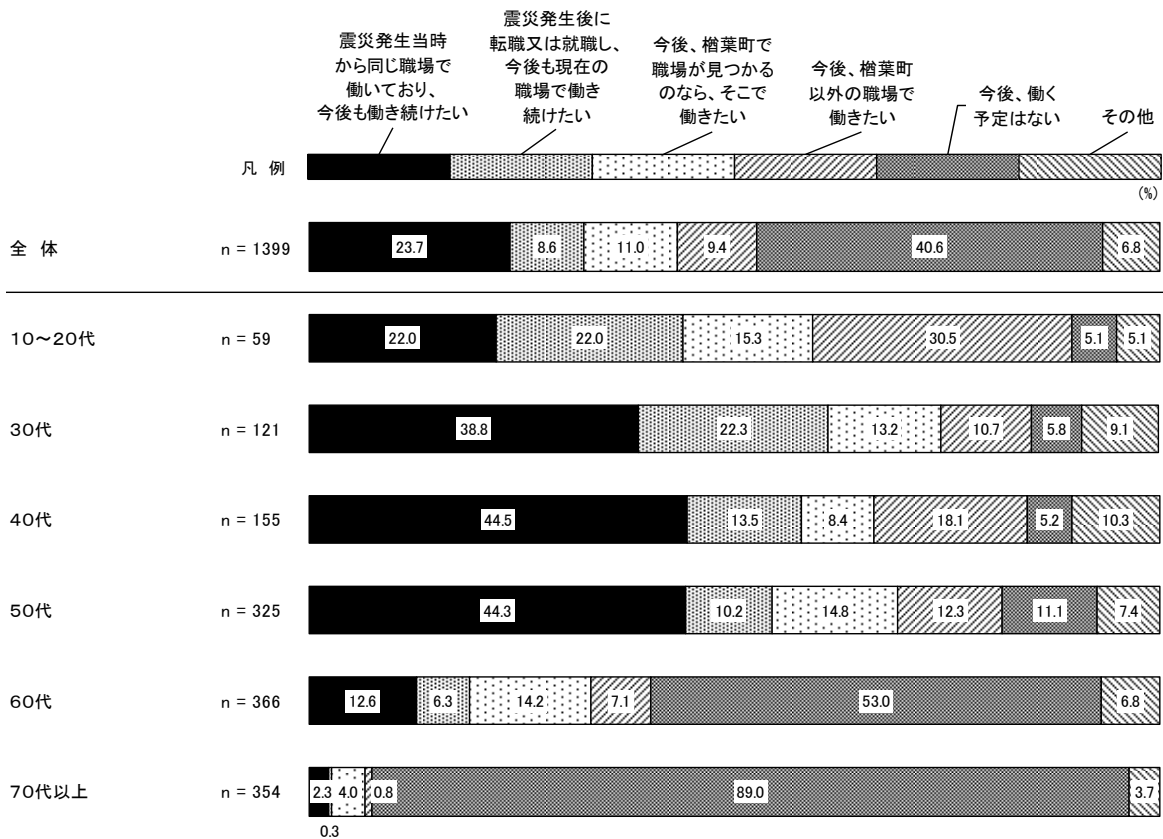
(1) 震災時の職業が自営業・会社経営者以外

問 11 今後の職業について、どのようにお考えですか。
 【A 震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外の方は下記にご回答ください】(〇は1つ)

震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外だった人の今後の職業についての意向は、「今後、働く予定はない」が40.6%と最も高く、次いで「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が23.7%、「今後、楢葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」が11.0%となっている。

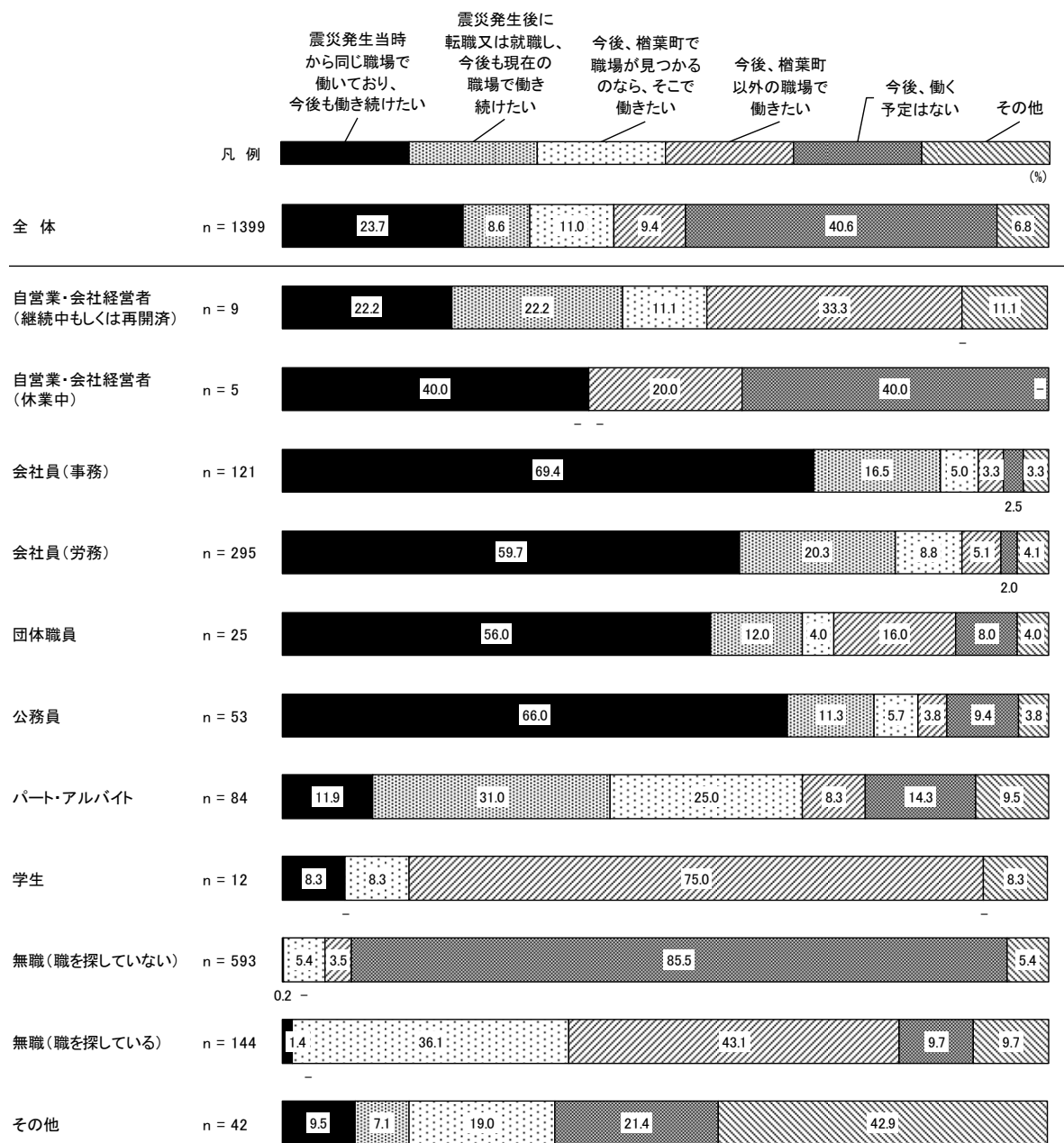
回答者の年齢別にみると、30代、40代、50代で「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」の割合が最も高くなっているが、10~20代では「今後、楢葉町以外の職場で働きたい」(30.5%)の割合が最も高い。

<図表3-3-1-1 今後の職業についての意向(自営業・会社経営者以外)(年齢別)>



職業別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は会社員（事務）（69.4%）、会社員（労務）（59.7%）、公務員（66.0%）で5割以上であり、他の職業に比べて割合が高くなっている。「今後、楢葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」はパート・アルバイト（25.0%）、無職（職を探している）（36.1%）が他の職業に比べて割合が高くなっている。

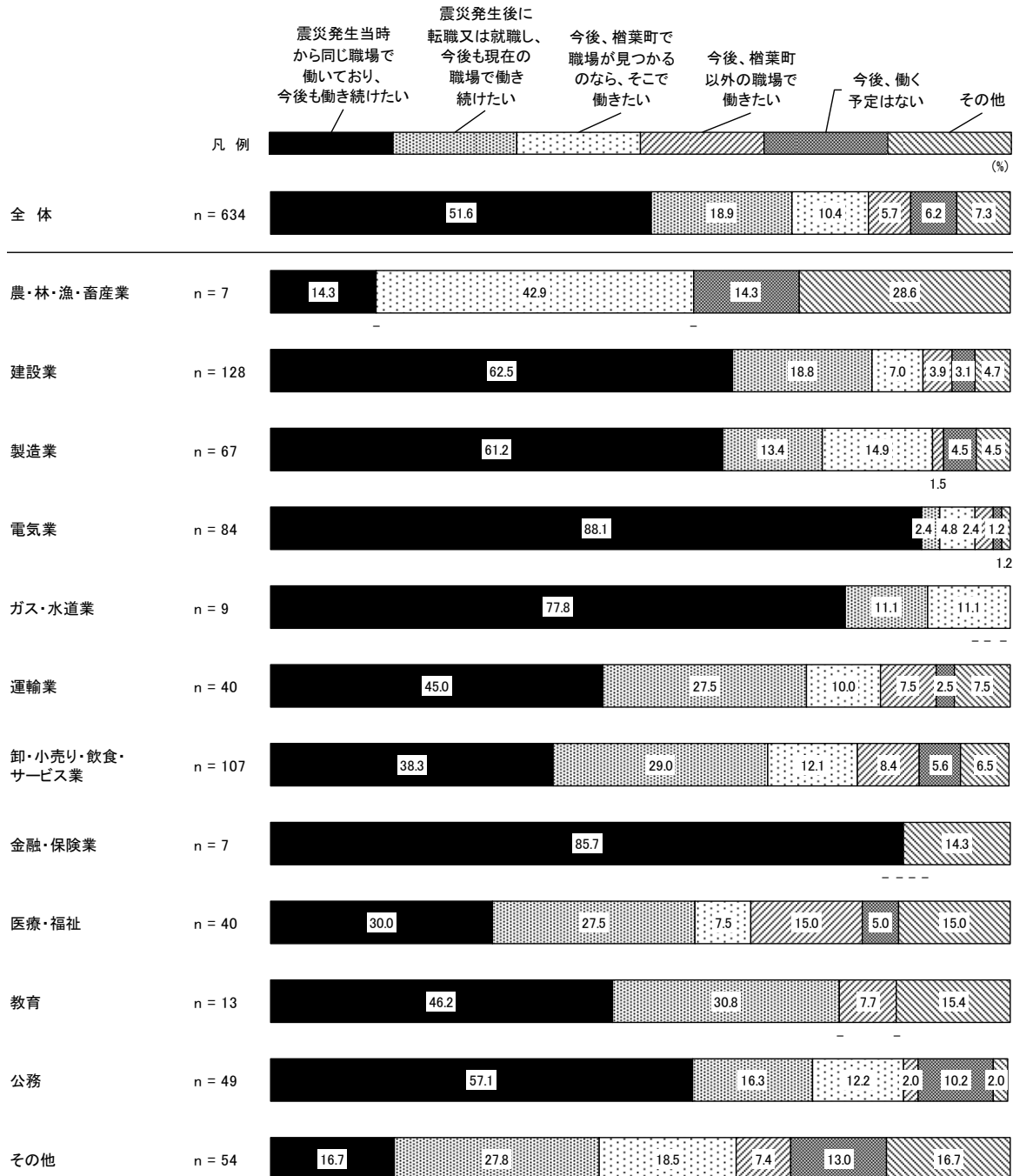
<図表3-3-1-2 今後の職業についての意向（自営業・会社経営者以外）（職業別）>



III 調査結果

業種別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は電気業（88.1%）と他の業種に比べて割合が高くなっている。一方、「震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働き続けたい」は運輸業（27.5%）、卸・小売り・飲食・サービス業（29.0%）、医療・福祉（27.5%）で約3割となっている。

＜図表3-3-1-3 今後の職業についての意向（自営業・会社経営者以外）（業種別）＞



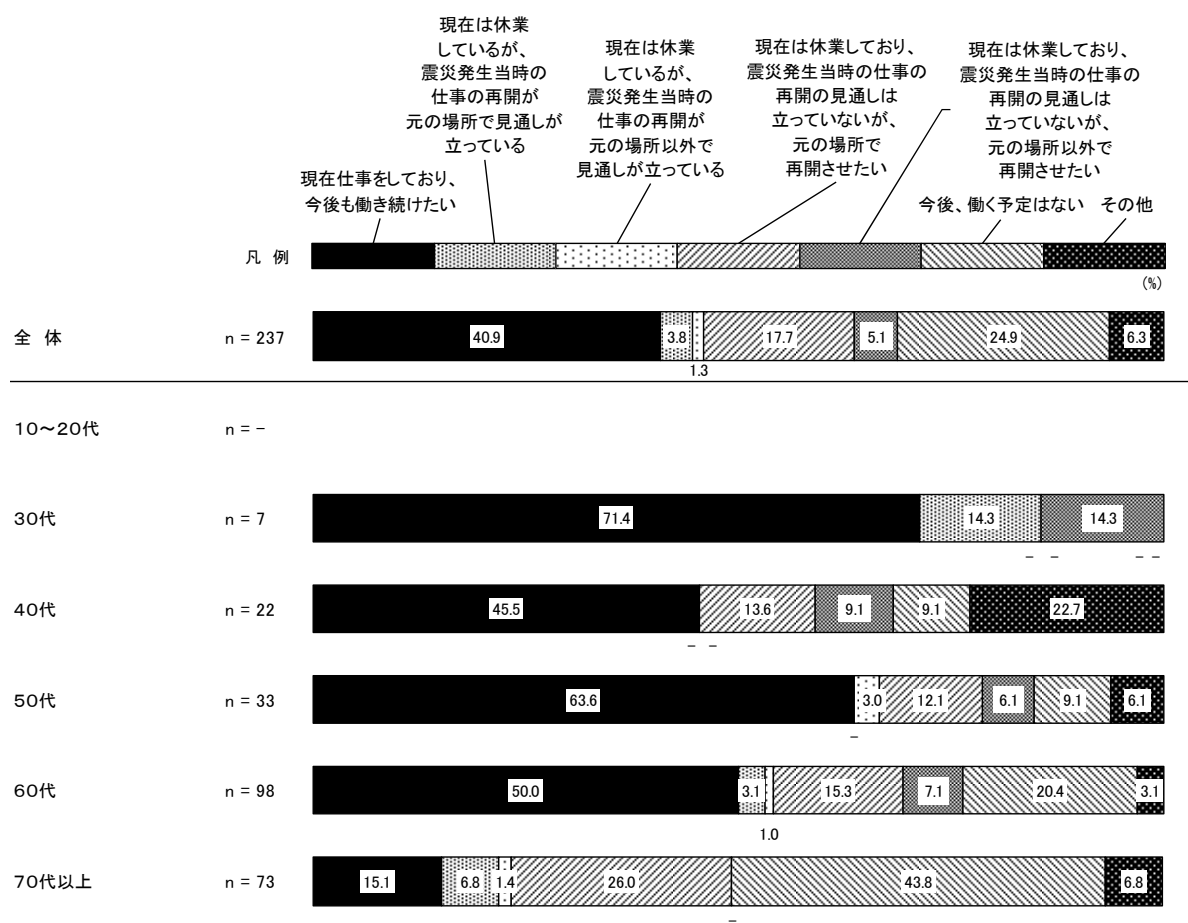
(2) 震災時の職業が自営業・会社経営者

問 11 今後の職業について、どのようにお考えですか。
 【B 震災発生当時の職業が自営業・会社経営者の方は下記にご回答ください】(〇は1つ)

震災発生当時の職業が自営業・会社経営者だった人の今後の職業の意向は、「現在仕事をしており、今後も働き続けたい」が40.9%で最も高く、次いで「今後、働く予定はない」が24.9%、「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」が17.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、50代~60代では「現在仕事をしており、今後も働き続けたい」が最も割合が高くなっている。

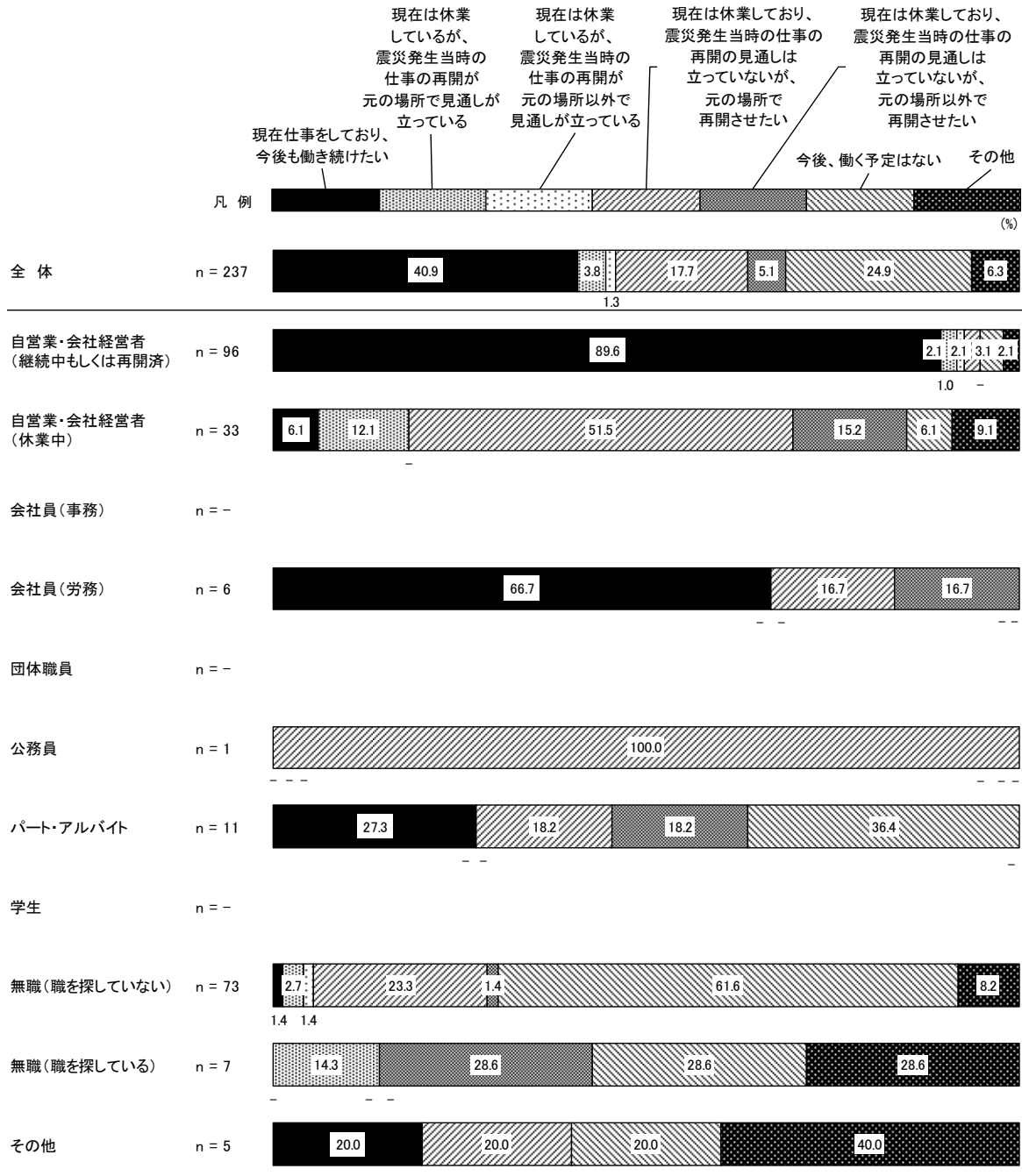
<図表3-3-1-4 今後の職業についての意向(自営業・会社経営者)(年齢別)>



III 調査結果

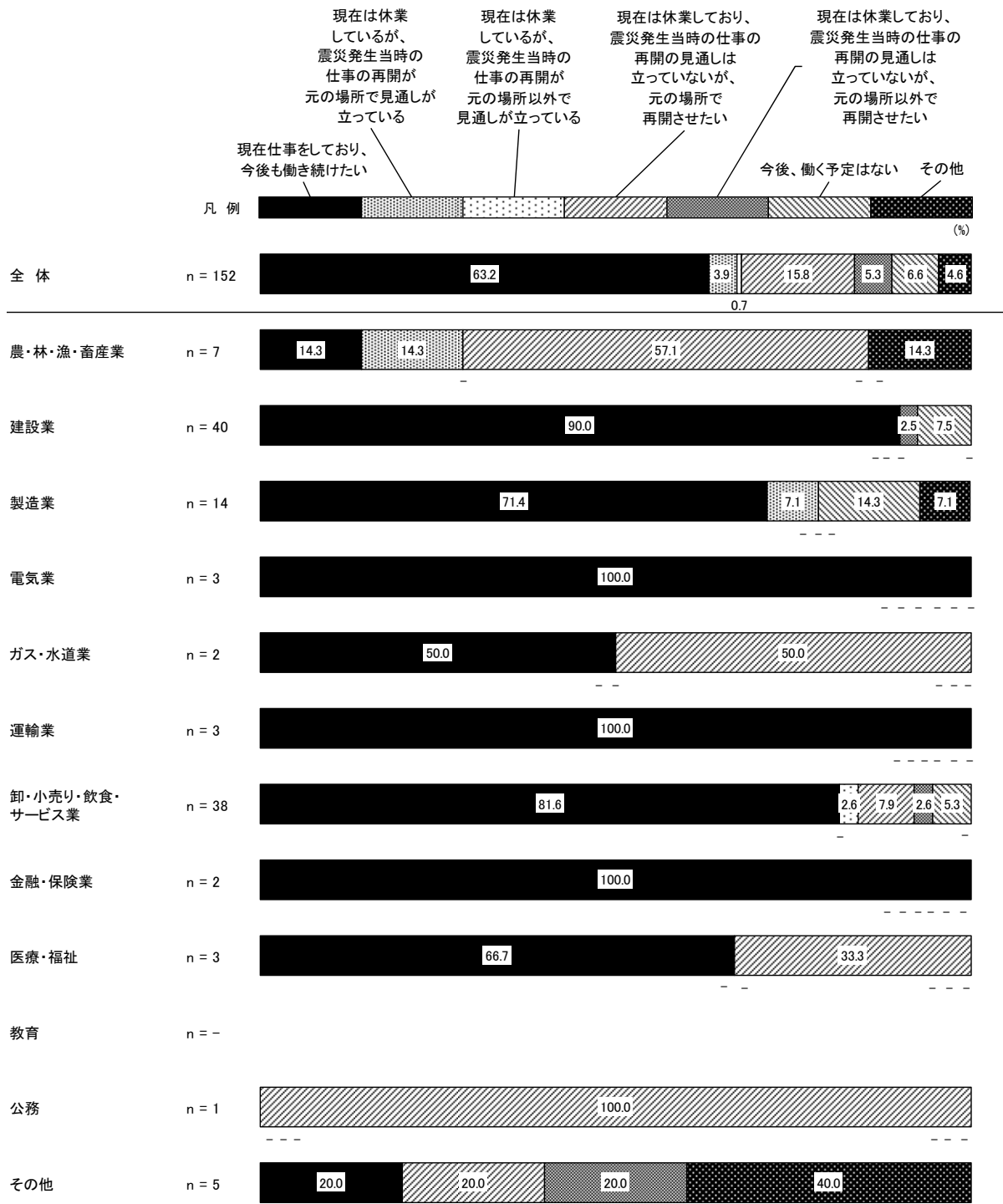
職業別にみると、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）は「現在仕事をしており、今後も働きたい」（89.6%）で最も割合が高くなっている。一方、自営業・会社経営者（休業中）では「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」（51.5%）と他の職業と比べて割合が最も高くなっている。

＜図表3-3-1-5 今後の職業についての意向（自営業・会社経営者）（職業別）＞



業種別にみると「現在仕事をしており、今後も働き続けたい」は建設業が90.0%、卸・小売・飲食・サービス業が81.6%となっている。

<図表3-3-1-6 今後の職業についての意向（自営業・会社経営者）（業種別）>



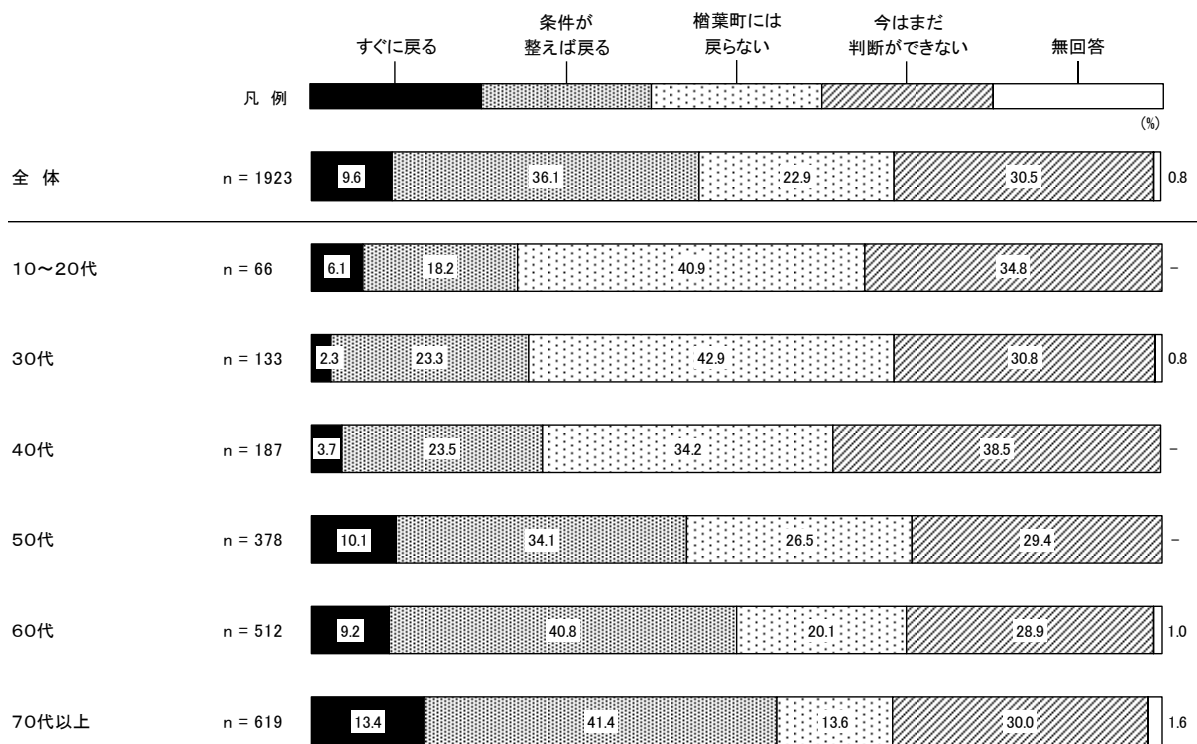
3-3-2 檜葉町への帰還意向

問 12 将来、檜葉町の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは檜葉町に戻りますか。(〇は1つ)

檜葉町への帰還意向については、「すぐに戻る」が9.6%、「条件が整えば戻る」が36.1%、「檜葉町には戻らない」が22.9%、「今はまだ判断できない」が30.5%となっている。

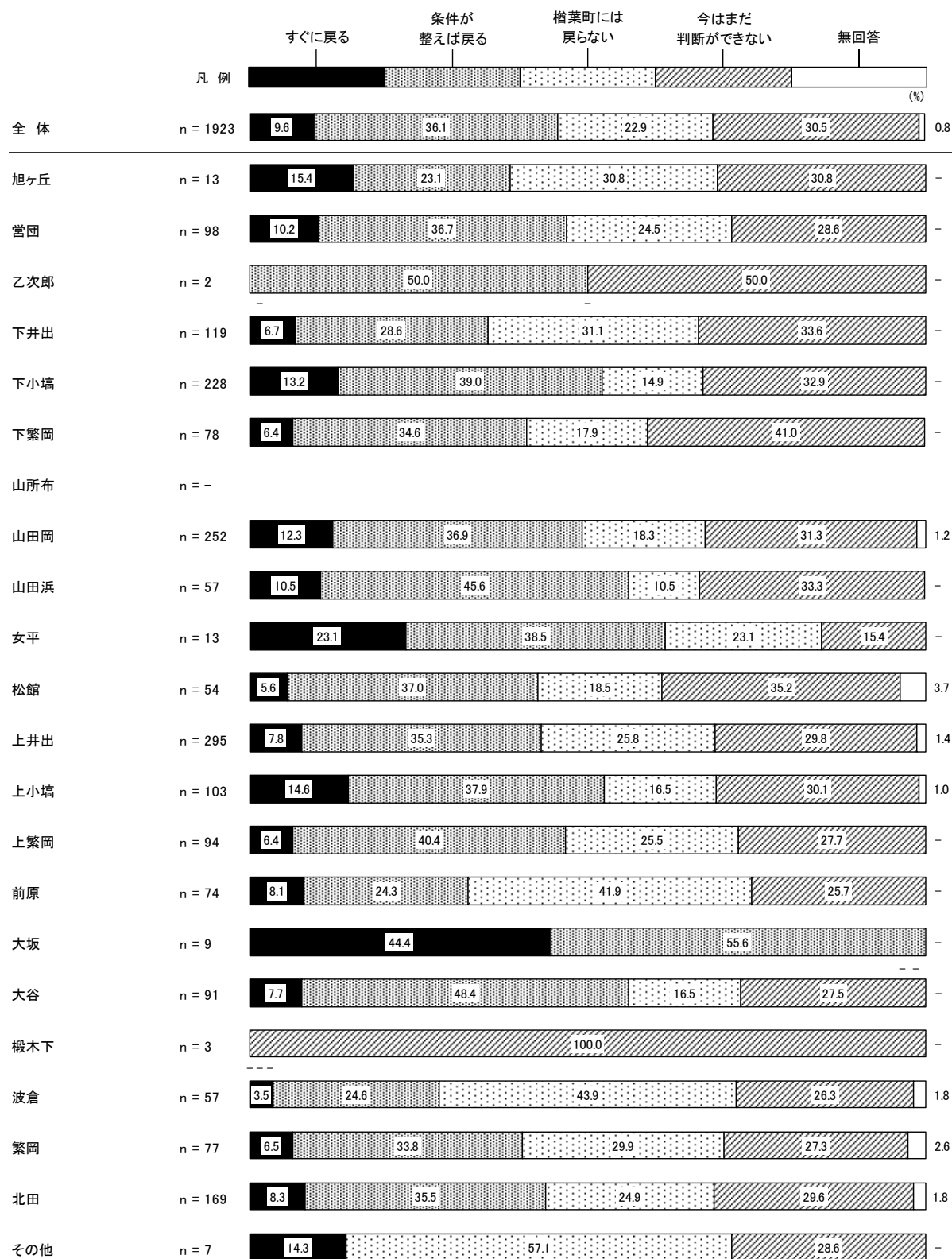
回答者の年齢別にみると、「条件が整えば戻る」は年齢が高くなるにつれて割合が高くなっている。一方で、「檜葉町には戻らない」は年齢が低くなるにつれて割合が高くなっている。また、概ねいずれの年齢においても「今はまだ判断できない」が3割程度となっている。

<図表3-3-2-1 檜葉町への帰還意向（年齢別）>



震災発生当時の行政区別にみると、「条件が整えば戻る」が4割程度の行政区が多数を占めている。

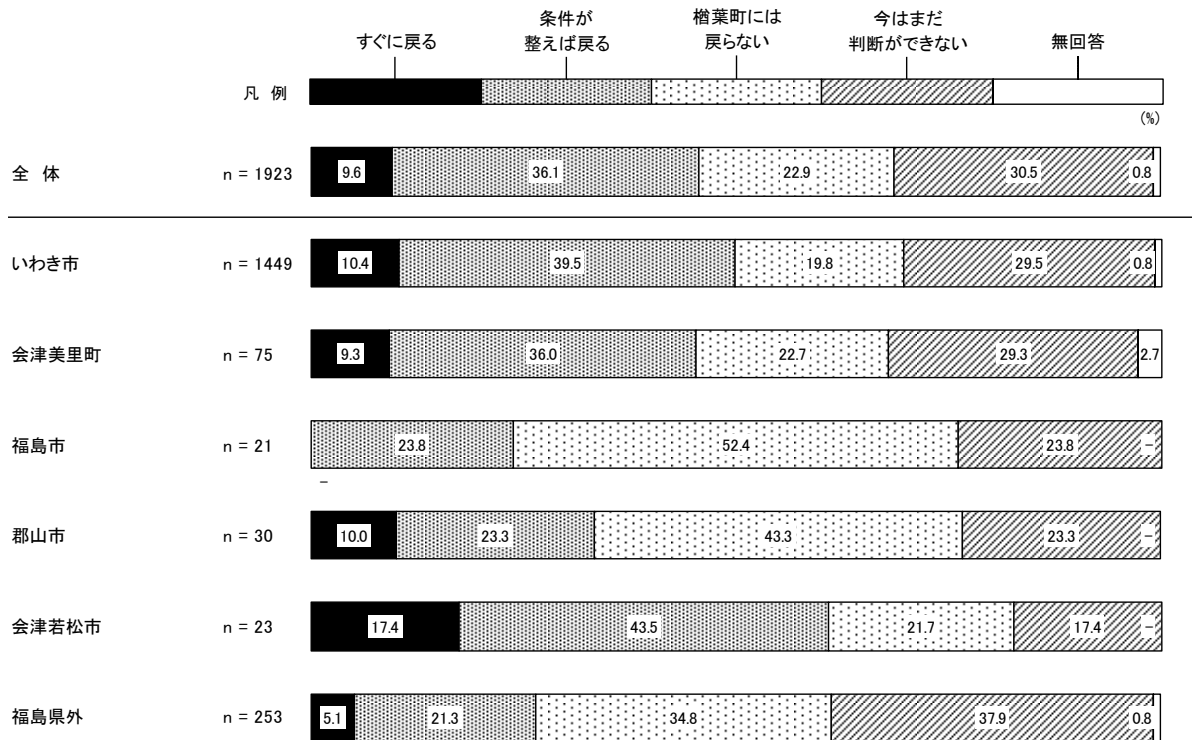
<図表3-3-2-2 檜葉町への帰還意向（震災発生当時の行政区別）>



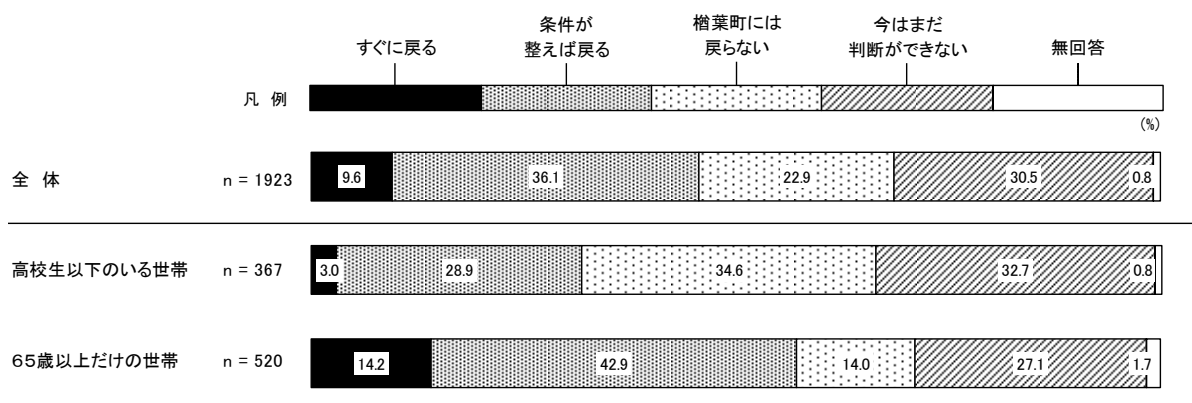
主な避難先自治体別にみると、「すぐに戻る」はいわき市では10.4%、会津美里町では9.3%、郡山市では10.0%となっている。また、「条件が整えば戻る」はいわき市で39.5%、会津美里町で36.0%と他の自治体に比べて割合が高くなっている。一方、「檜葉町には戻らない」は郡山市で43.3%となっている。

世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「すぐに戻る」と「条件が整えば戻る」が合わせて57.1%となっている。一方、高校生以下のいる世帯では「檜葉町には戻らない」が34.6%となっている。

<図表3-3-2-3 檜葉町への帰還意向（主な避難先自治体別）>

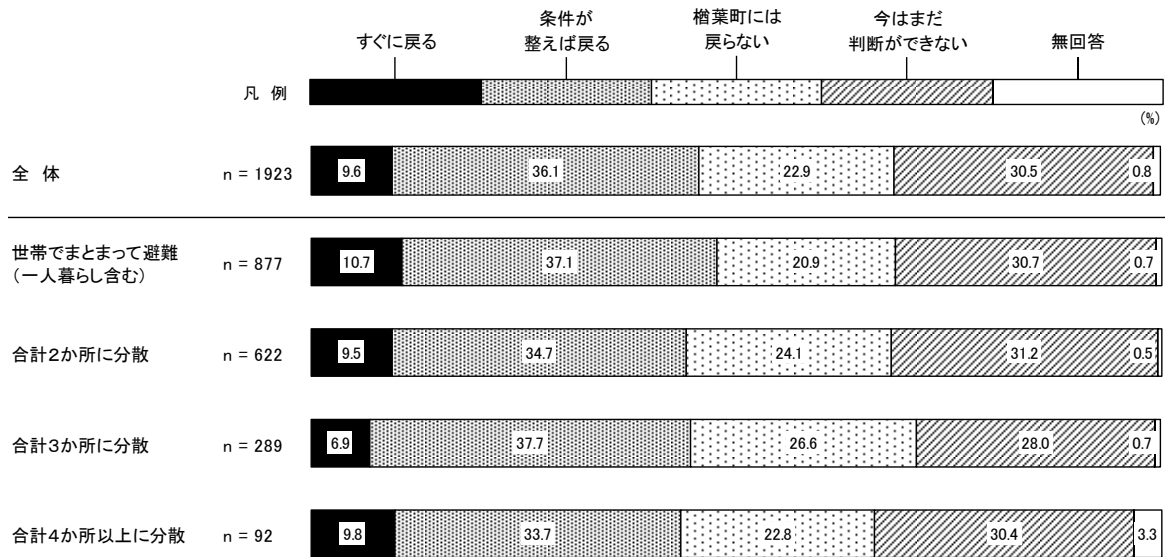


<図表3-3-2-4 檜葉町への帰還意向（世帯構成別）>



世帯の分散状況別にみると、どの分散状況においても「条件を整えば戻る」の割合が最も高くなっている。

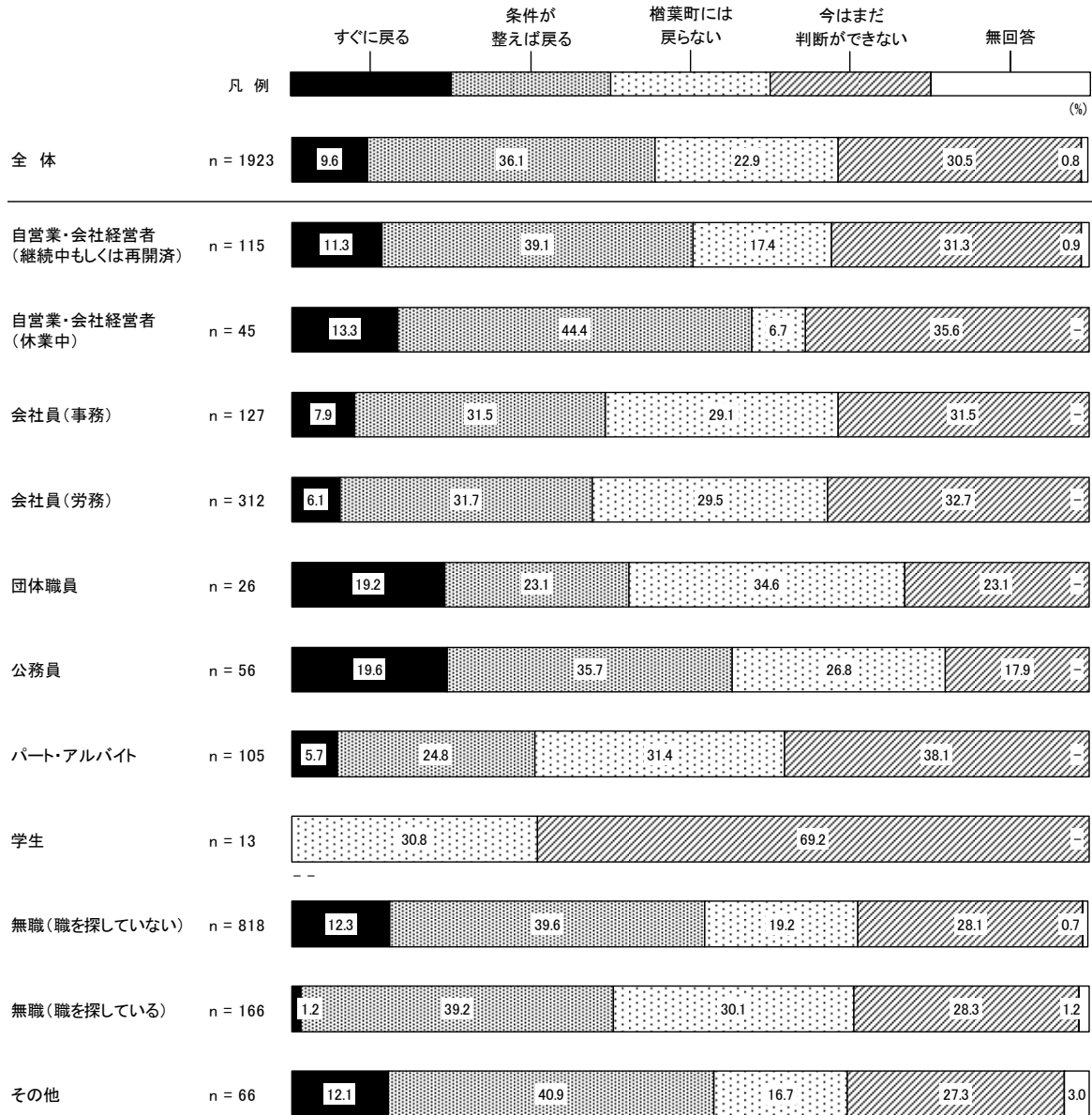
<図表3-3-2-5 檜葉町への帰還意向（世帯の分散状況別）>



III 調査結果

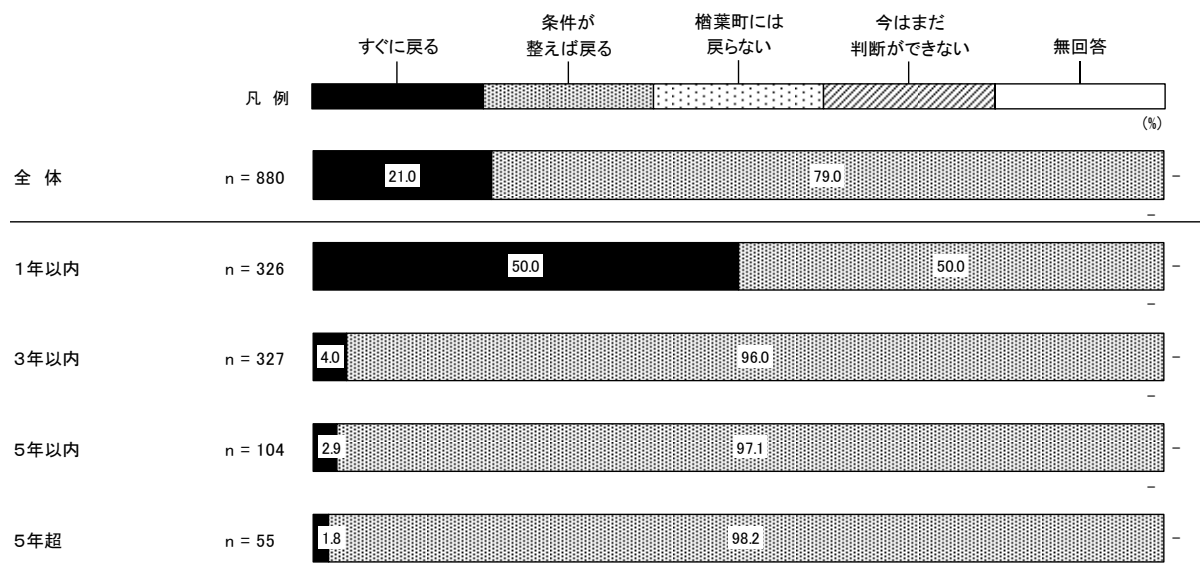
職業別にみると、「条件が整えば戻る」は自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）が39.1%、自営業・会社経営者（休業中）が44.4%、無職（職を探していない）が39.6%、無職（職を探している）が39.2%となっており、他の職業に比べて割合が高くなっている。一方、「檜葉町には戻らない」はパート・アルバイト（31.4%）が他の職業に比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-2-6 檜葉町への帰還意向（職業別）>



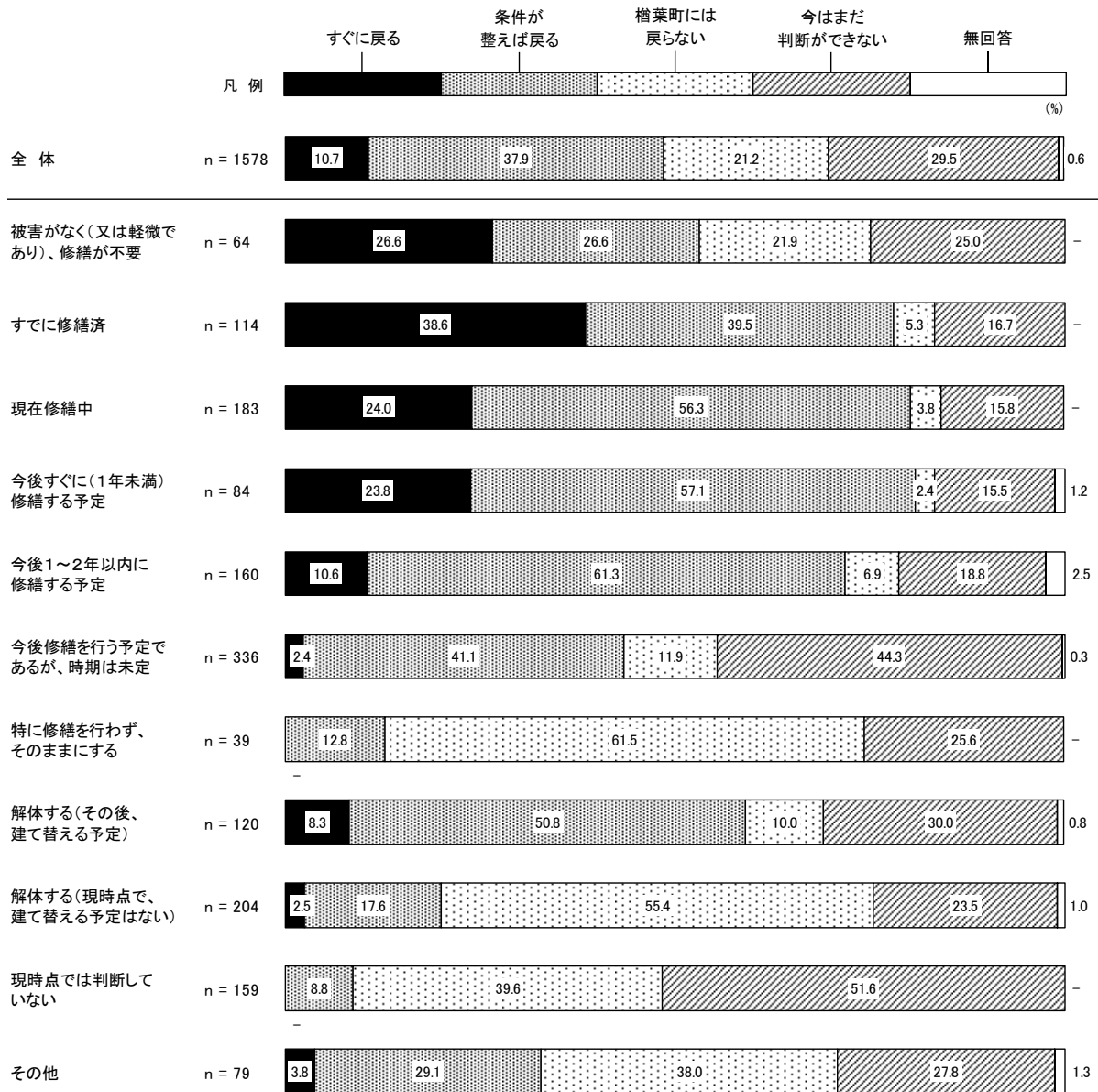
檜葉町への帰還時期別にみると、1年以内では「すぐに戻る」が5割を占めているが、3年以内、5年以内、5年超では「条件が整えば戻る」がほとんどの割合を占めている。

<図表3-3-2-7 檜葉町への帰還意向（檜葉町への帰還時期別）>



自宅修繕の進捗状況別に見ると、「すぐに戻る」の割合は、被害がなく（又は軽微であり）、修繕が不要（26.6%）、すでに修繕済（38.6%）、現在修繕中（24.0%）、今後すぐに（1年未満）修繕する予定（23.8%）で他の修繕の進捗状況と比較して割合が高くなっている。

＜図表3-3-2-8 櫛葉町への帰還意向（自宅修繕の進捗状況別）＞



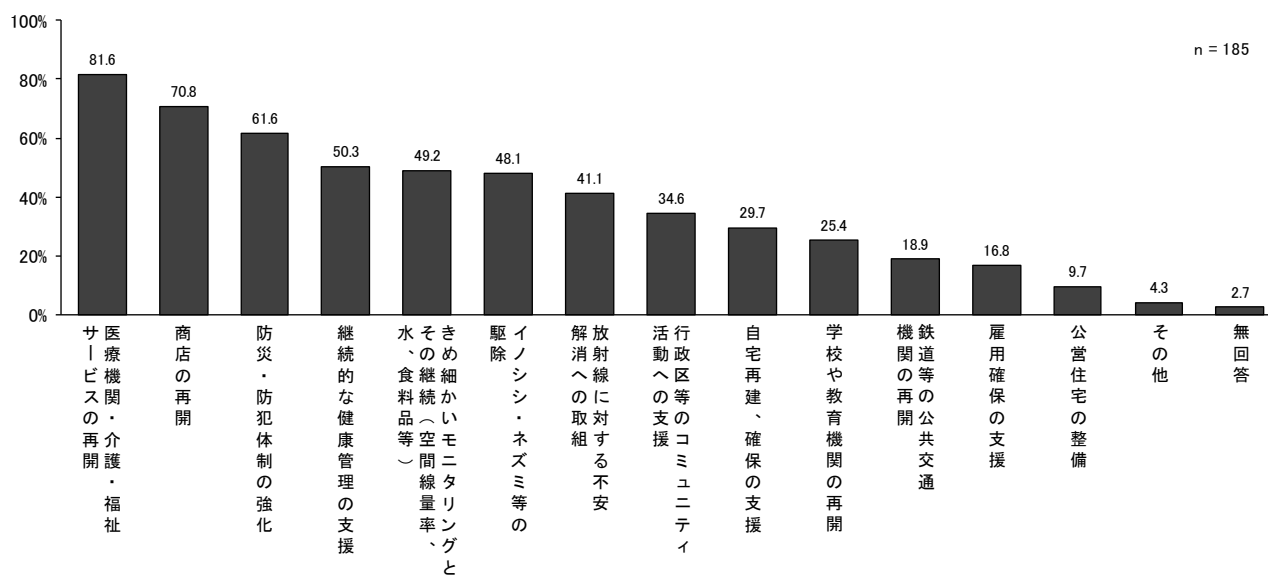
3-3-3 帰還する場合に求める支援

【問 12 で「1 すぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 13 (1) 避難指示が解除され檜葉町に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。(〇はいくつでも)

避難指示が解除され、檜葉町に帰還する場合に行政に求める支援は、「医療機関・介護・福祉サービスの再開」(81.6%) が最も高く、次いで「商店の再開」(70.8%)、「防災・防犯体制の強化」(61.6%) となっている。

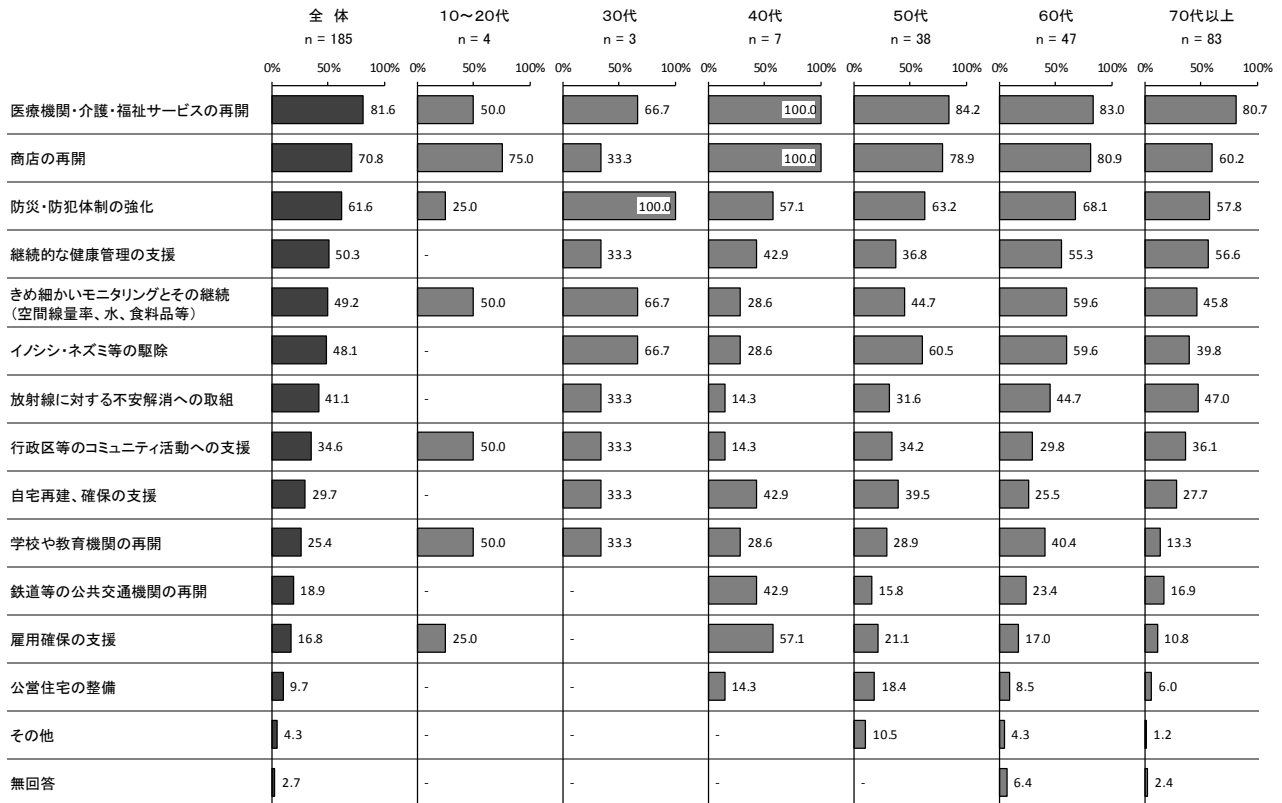
<図表3-3-3-1 帰還する場合に求める支援>



III 調査結果

回答者の年齢別にみると、50代から70代以上では「医療機関・介護・福祉サービスの再開」がそれぞれの年齢で最も割合が高く、8割を超えている。

<図表3-3-3-2 帰還する場合に求める支援（年齢別）>



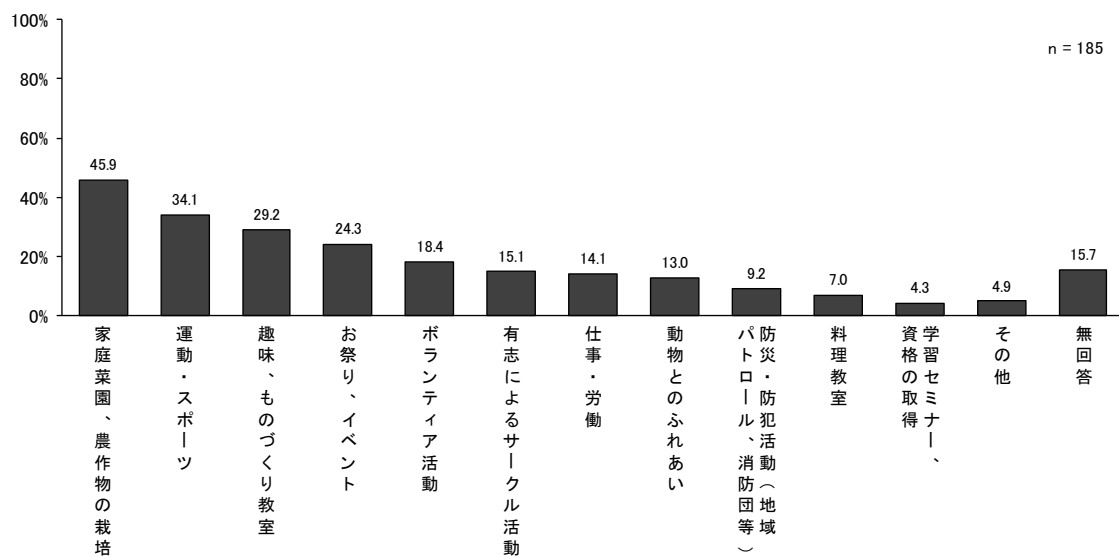
3-3-4 帰還する場合に行ってみたい地域活動

【問 12 で「1 すぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 13 (2) 檜葉町で豊かな日常生活や余暇を過ごすために、行ってみたい取組や参加したいと思う地域活動をお選びください。(〇はいくつでも)

避難指示が解除され、檜葉町に帰還する場合に行ってみたい地域活動は「家庭菜園、農作物の栽培」(45.9%)が最も高く、次いで「運動・スポーツ」(34.1%)、「趣味、ものづくり教室」(29.2%)となっている。

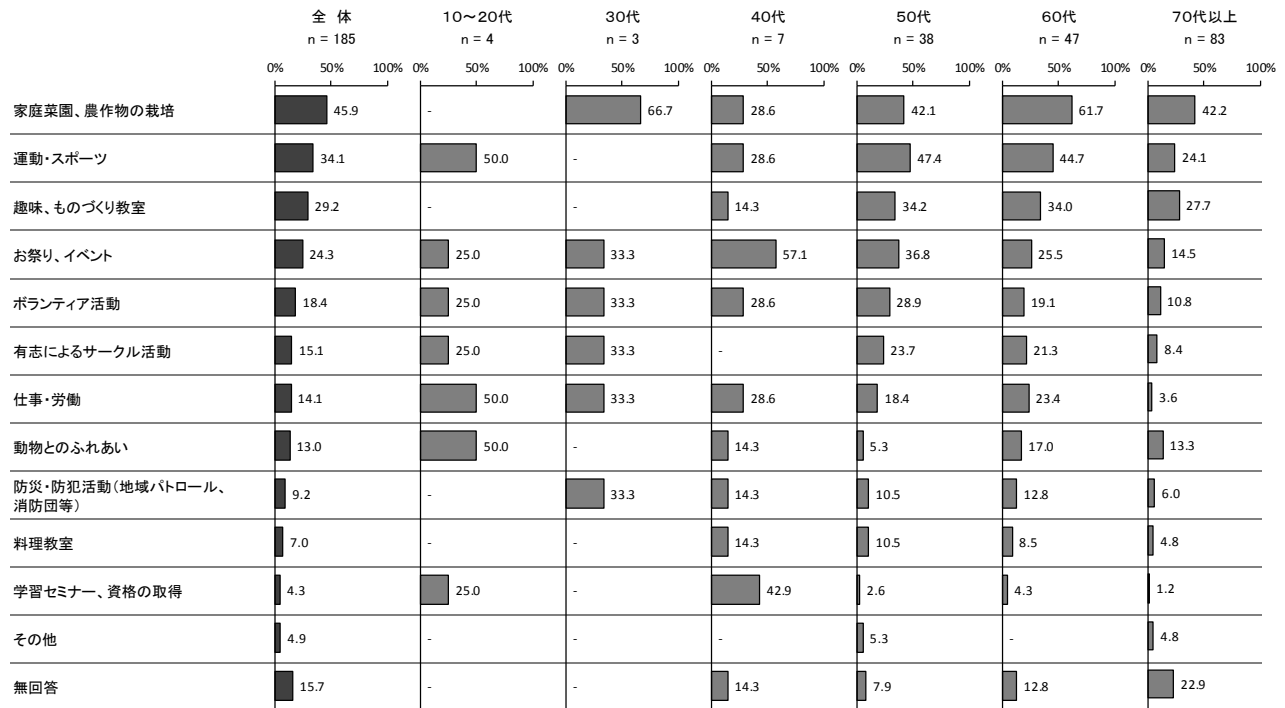
<図表3-3-4-1 帰還する場合に行ってみたい地域活動>



III 調査結果

回答者の年齢別にみると、60代では「家庭菜園、農作物の栽培」(61.7%)が他の年齢に比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-4-2 帰還する場合に行ってみたい地域活動(年齢別)>



3-3-5 楡葉町への帰還を判断する上で考慮する情報

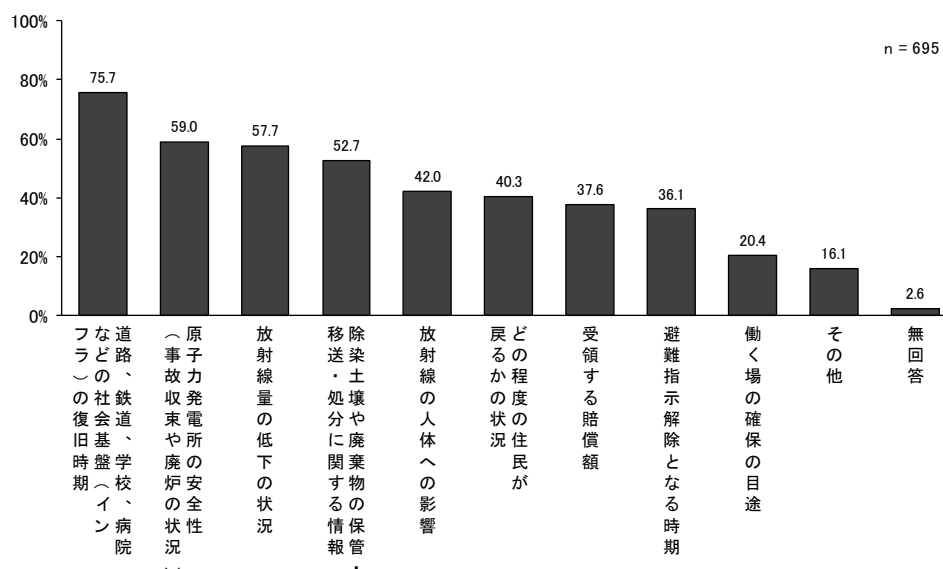
(1) 楡葉町への帰還を判断する上で考慮する情報

【楡葉町への帰還について、条件が整えば戻る方（問12で「2」と回答した方）にうかがいます。】

問14(1) 楡葉町に戻るにあたり、あなたがその条件として考慮する情報等について、あてはまるものをお選びください。（〇はいくつでも）

楡葉町への帰還について「条件が整えば戻る」と回答した方が、楡葉町に戻るに当たり、その条件として考慮する情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期」（75.7%）が最も高く、次いで「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）」（59.0%）、「放射線量の低下の状況」（57.7%）となっている。

<図表3-3-5-1 楡葉町への帰還を判断する上で考慮する情報>

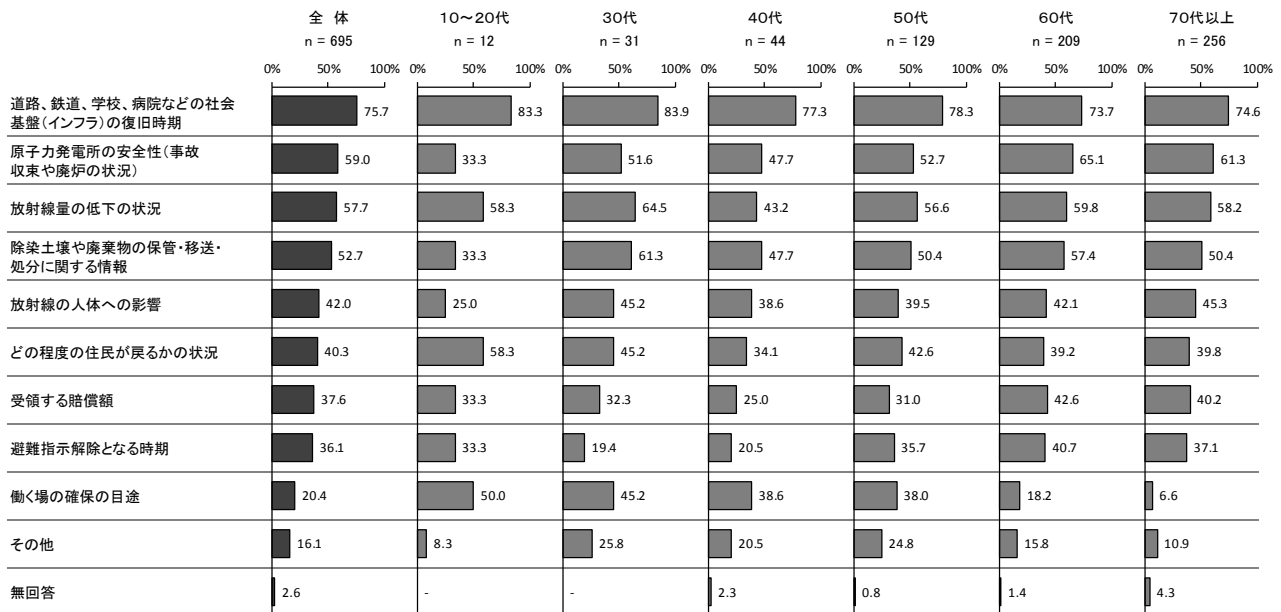


III 調査結果

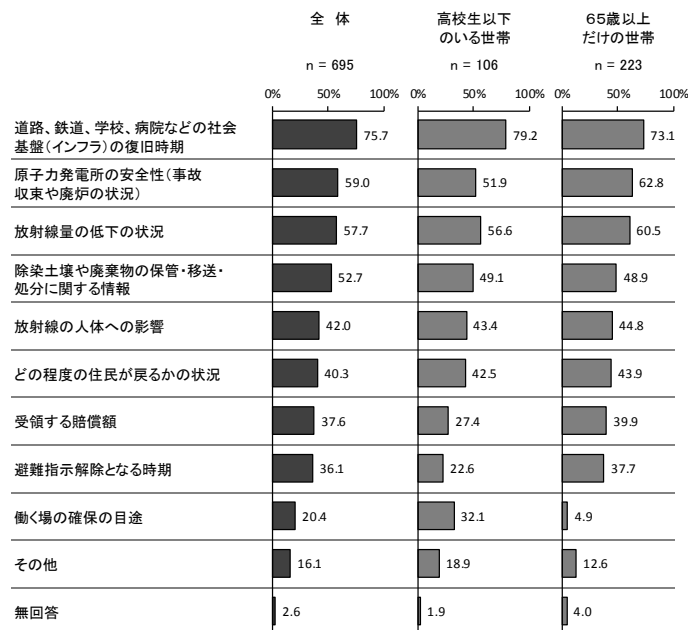
回答者の年齢別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期」は、いずれの年代も7割以上となっている。「働く場の確保の目途」では30～50代で概ね4割程度となっており、他の年齢と比べて割合が高くなっている。

世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「働く場の確保の目処」が32.1%と65歳以上の世帯と比較して大幅に割合が高くなっている。

＜図表3-3-5-2 檜葉町への帰還を判断する上で考慮する情報（年齢別）＞



＜図表3-3-5-3 檜葉町への帰還を判断する上で考慮する情報（世帯構成別）＞



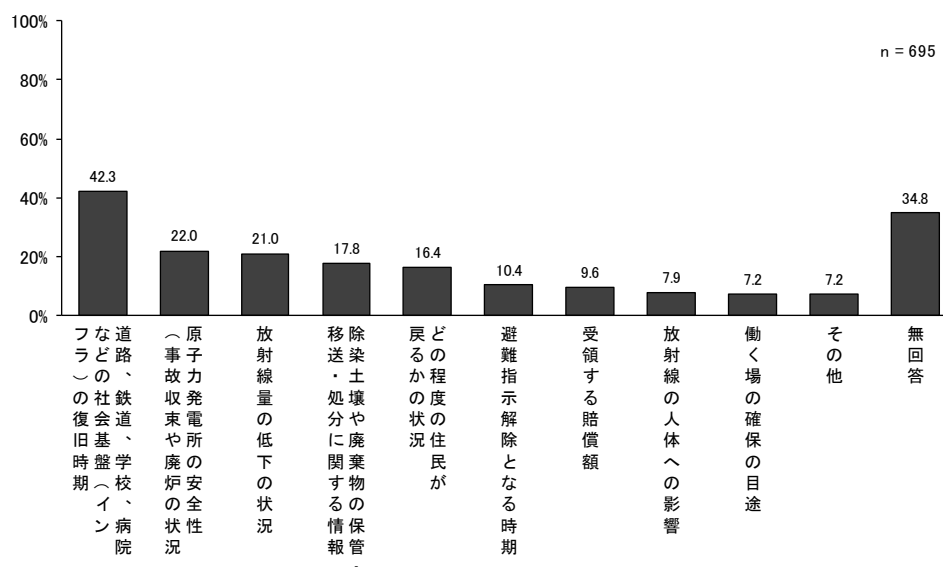
(2) 榑葉町への帰還を判断する上で考慮する情報のうち、重視するもの

【榑葉町への帰還について、条件が整えば戻る方（問12で「2」と回答した方）にうかがいます。】

問14(2) 上記(問14(1))で選んだ情報等のうち、特に重視するものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件が満たされたときに戻る予定ですか。具体的にお書きください。

榑葉町への帰還について「条件が整えば戻る」と回答した方が、榑葉町への帰還を判断する上で考慮する情報のうち、重視するものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期」（42.3%）が最も高く、次いで「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）」（22.0%）、「放射線量の低下の状況」（21.0%）となっている。

<図表3-3-5-4 榑葉町への帰還を判断する上で考慮する情報のうち、重視するもの（3つまで）>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

【道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期】

- 学校や病院ができれば。（10～20代）
- 小学校、中学校が榑葉町で再開。（30代）
- 小児科等の専門医療の充実、学校に通う子供の数。（30代）
- 病院及び介護施設の確保。（40代）
- まず病院とスーパー。（40代）
- 商店がもどり生活に必要な物が入手出来る事。（50代）
- 介護施設や夜間も受診受け入れ病院の復旧。（50代）
- 医療関係の充実（デイサービスなどを含む）。（50代）
- 買物できる商店や病院施設が充実してきたら（介護施設等も含めて）。（50代）
- インフラの中で特に商店が営業している事。（60代）
- 病院、スーパーマーケット等近くに出来てから。（60代）
- 緊急時、夜間等の医療体制が充実されるか。町内に金融機関・食料品等が調達出来ること。（70代以上）
- 道路、鉄道、病院がなくては。老人には必要。（70代以上）

Ⅲ 調査結果

[原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）]

- 汚染水の処理、原子炉内の安定した冷却、放射能もれなどすべての安定。(30代)
- 原発が安全だとみとめられた時。(40代)
- 今後通しての安全性確保と情報提供厳守。(50代)
- 廃炉になるまでにまた事故等がおきないかどうか。(50代)
- 炉の中の様子がもう少しわかること。(60代)
- 安全性はないので、はっきりと事故を開示すること。(60代)
- 事故収束、廃炉について具体的・現実的な科学的情報開示。(70代以上)
- 事故収束の見通しがはっきりし、それが確かなこと。(70代以上)

[放射線量の低下の状況]

- 人体に影響がなくなったら。(10～20代)
- 放射線量が今よりもっと低下する事。(30代)
- 細かい放射線量についての情報（山間部まで）。(40代)
- 放射線とどうやって向きあえば良いか、学ぶ機会が欲しい。(40代)
- 農地、山林の放射線量の状況。(50代)
- 放射線量が町全体で低下されたら。(60代)
- 山林、ダムの水、除染。(70代以上)

3-3-6 楡葉町への帰還を判断する上で参考とする情報

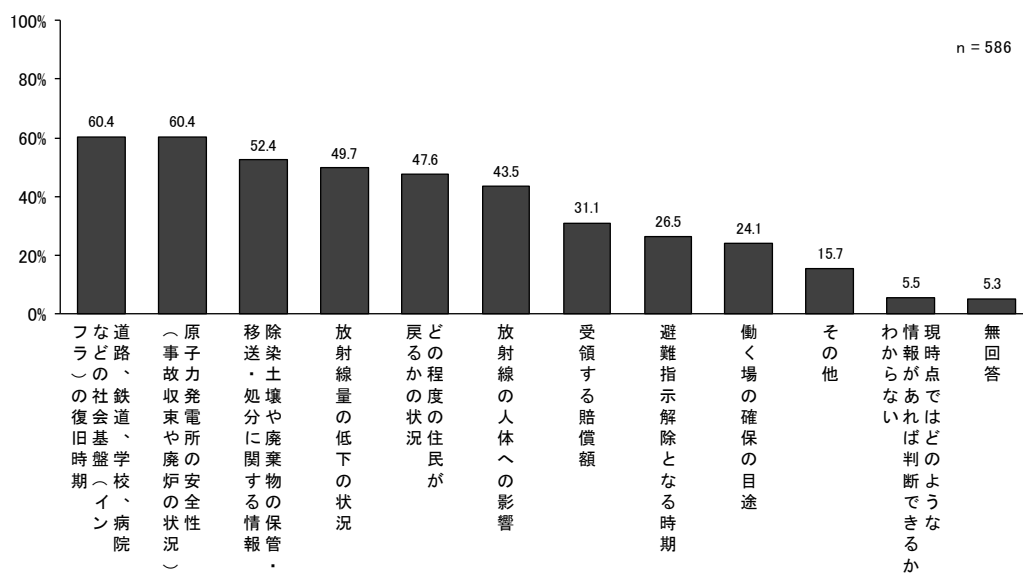
(1) 楡葉町への帰還を判断する上で参考とする情報

【楡葉町への帰還について、今はまだ判断ができない方（問12で「4」と回答した方）にうかがいます。】

問17(1) 楡葉町に戻るかどうかの判断をする際に、あなたが参考にする情報等について、あてはまるものをお選びください。（〇はいくつでも）

楡葉町への帰還について「今はまだ判断ができない」と回答した方が、楡葉町への帰還を判断する上で参考とする情報は、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期」（60.4%）、「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）」（60.4%）が最も高く、次いで「除染土壌や廃棄物の保管・移送・処分に関する情報」（52.4%）となっている。

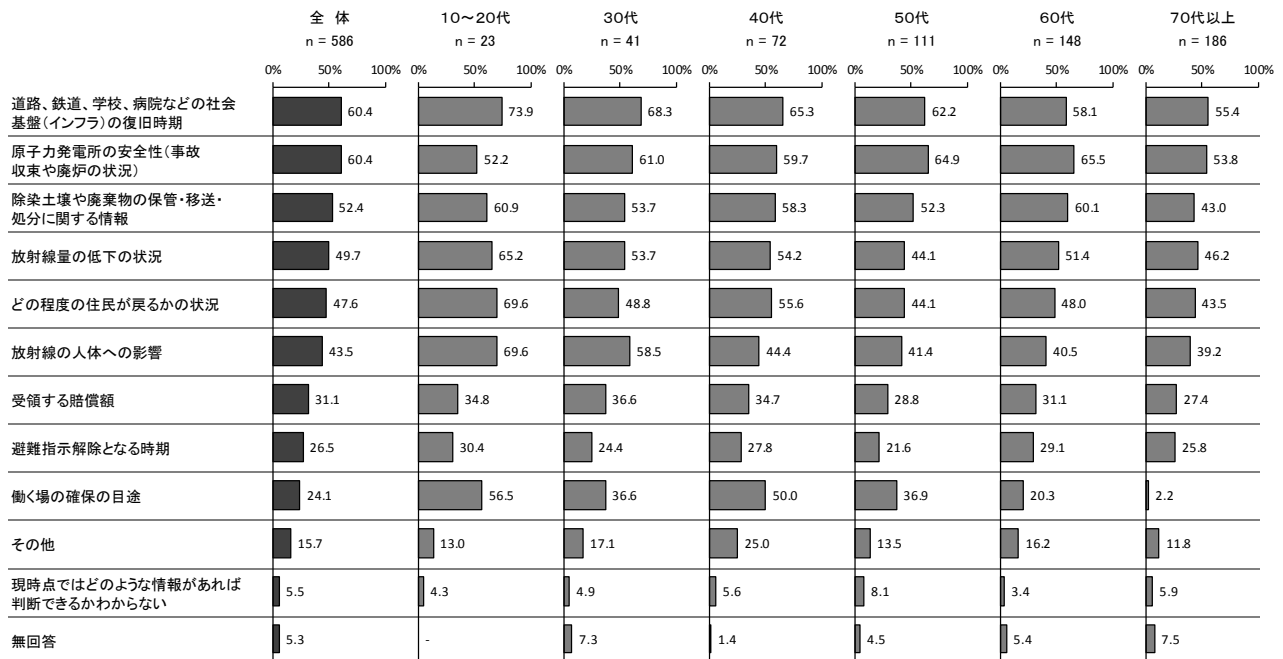
<図表3-3-6-1 楡葉町への帰還を判断する上で参考とする情報>



III 調査結果

回答者の年齢別でみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期」は30～50代で6割以上と割合が高くなっている。「働く場の確保の目的」では40代で5割以上となっており、他の年齢と比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-6-2 櫛葉町への帰還を判断する上で参考とする情報（年齢別）＞



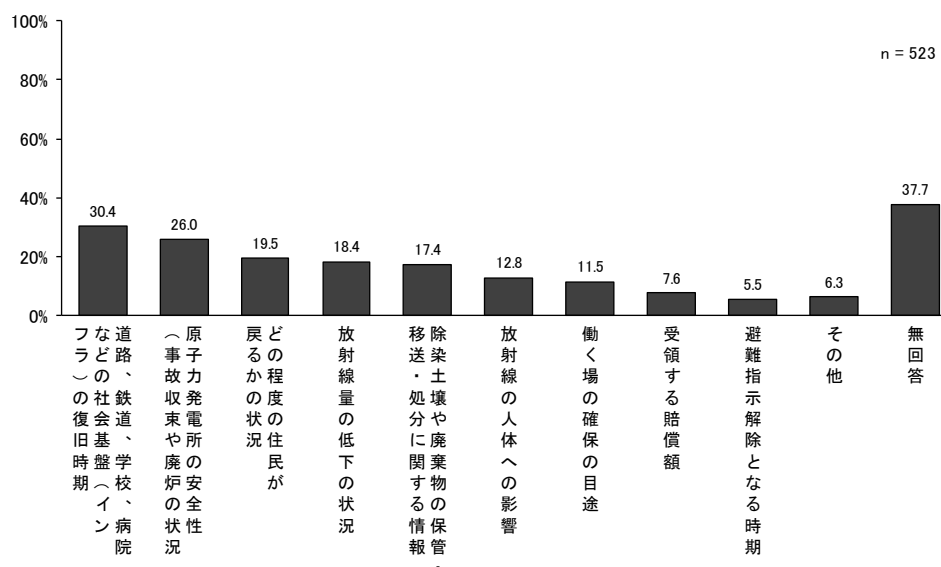
(2) 榑葉町への帰還を判断する上で参考とする情報のうち、重視するもの

【榑葉町への帰還について、今はまだ判断ができない方（問 12 で「4」と回答した方）にうかがいます。】

問 17 (2) 上記(問 17 (1))で選んだ情報等のうち、特に重視するものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件が満たされたときに戻りたいと考えますか。具体的に書きください。

榑葉町への帰還について「今はまだ判断ができない」と回答した方が、榑葉町への帰還を判断する上で参考とする情報のうち、重視するものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期」（30.4%）が最も高く、次いで「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）」（26.0%）、「どの程度の住民が戻るかの状況」（19.5%）となっている。

<図表 3-3-6-3 榑葉町への帰還を判断する上で参考とする情報のうち、重視するもの（3つまで）>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

[道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期]

- 将来子供ができた時に安心して暮らせる町か。（10～20代）
- 学校や病院が満足できる程度のもがあるか。（10～20代）
- 救急医療の行える医療設備のある病院、北方面への鉄道の開通、大型スーパー、ドラッグストアなど。（30代）
- 学校や病院に不便を感じないこと（小児科など完備してほしい）。（30代）
- 学校が再開しているか。（30代）
- インフラの早期復旧と、防犯対策の強化。（30代）
- 病院や商業施設など生活の基盤となるものが整ったら。（40代）
- 以前と同じく衣食住の調達が容易にできる位になれば。（40代）
- 榑葉町で生活する毎日の買物が近くで出来るか。（車が無い場合でも）。（50代）
- 医療、介護等の充実。（50代）
- 近くに総合病院ができる事。（60代）
- 常磐線（竜田以北）開通の時期。（70代以上）

Ⅲ 調査結果

[原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）]

- 今後の原発になにかあった時の事の対応策が知りたい。(10～20代)
- 小さい子供がいるので子供の身体的な影響が最優先。(30代)
- 再度地震が発生しても放射能がもれないという安全性の確保。(30代)
- 放射性物質の飛散や汚染水対策について解決し、安全に生活できる状態になること。(30代)
- 事故の完全収束。(40代)
- 基準値をあげる前の安全な数値まで戻れば。(40代)
- 正確ですみやかな情報公開。(50代)
- 原発の安全性の保障。(50代)
- 原子力発電所の安全が確保され放射線量が低下し人体への影響がなくなった時。(60代)
- 原子力発電所の安全性が見えてきたら。(70代以上)

[どの程度の住民が戻るかの状況]

- 若い人達が戻ってくる。(10～20代)
- 若い世代の戻ってくる数。(10～20代)
- 同じぐらいの年齢の人、子供の同級生が多く戻ってくる。(30代)
- 同世代の友人たちが戻ってくる時。(30代)
- 教育に十分な児童・生徒が戻る。(40代)
- 同じ子供をもつ世代の家庭がどの程度戻ってくるか。(40代)
- 戻ってくる人数が少ないと不安な生活になる。多ければ多いほど良い。(50代)

3-3-7 避難指示解除から帰還までの年数

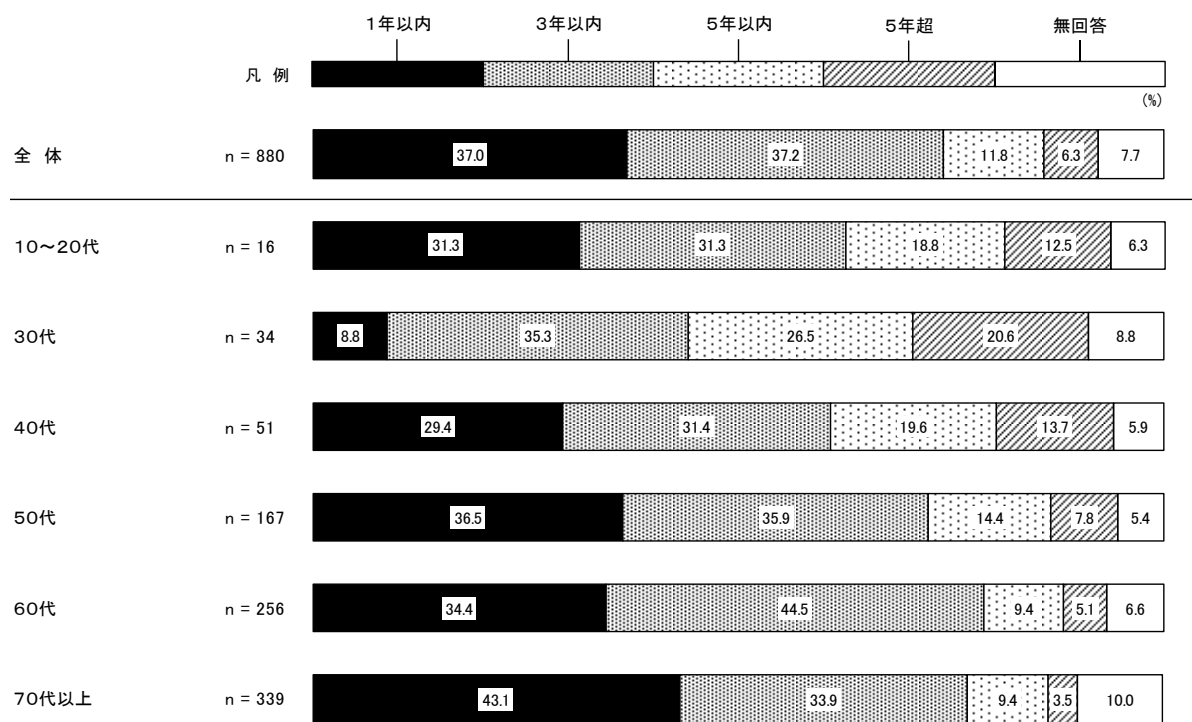
【榎葉町への帰還について、すぐに戻る方または条件が整えば戻る方（問12で「1」又は「2」と回答した方）にうかがいます。】

問15(1) 榎葉町に戻る場合、避難指示解除から何年以内に帰りたいとお考えですか。（〇は1つ）

避難指示解除から帰還までの年数については、「3年以内」（37.2%）が最も高く、次いで「1年以内」（37.0%）、「5年以内」（11.8%）となっている。

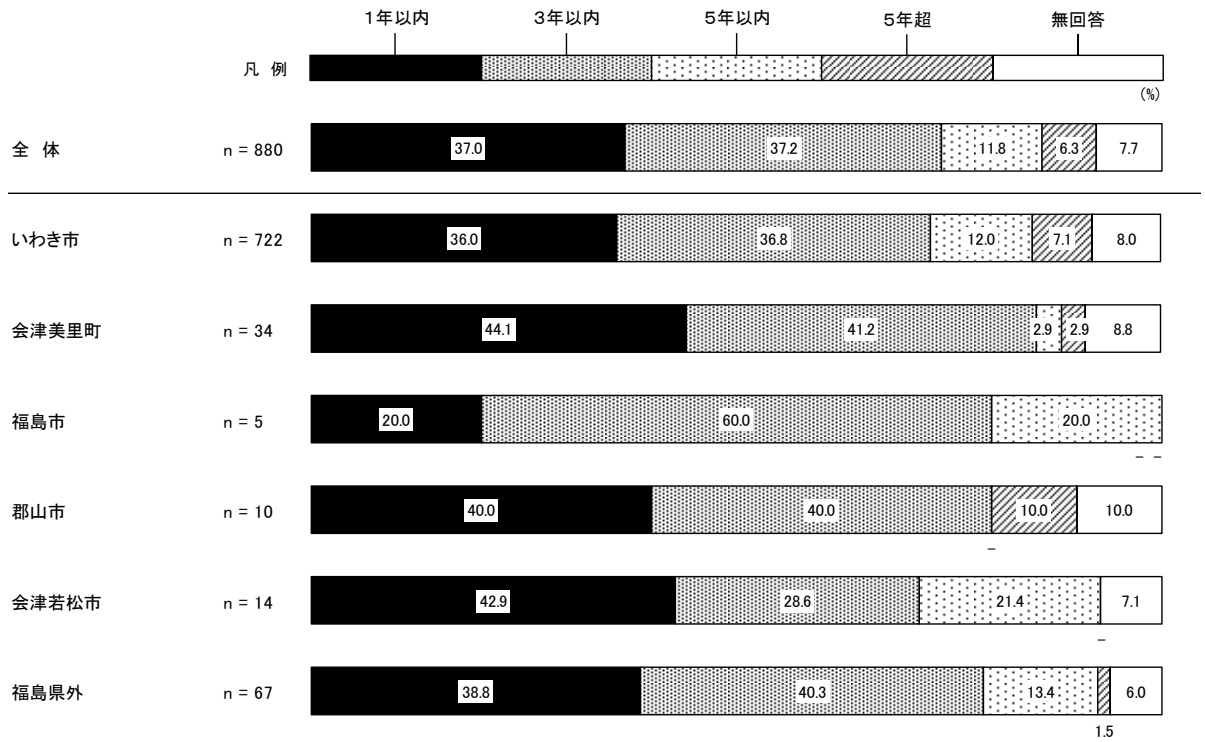
回答者の年齢別にみると、70代以上では「1年以内」（43.1%）が他の年齢に比べて割合が高くなっている。一方、30代では「5年以内」、「5年超」が他の年齢と比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-7-1 避難指示解除から帰還までの年数（年齢別）＞



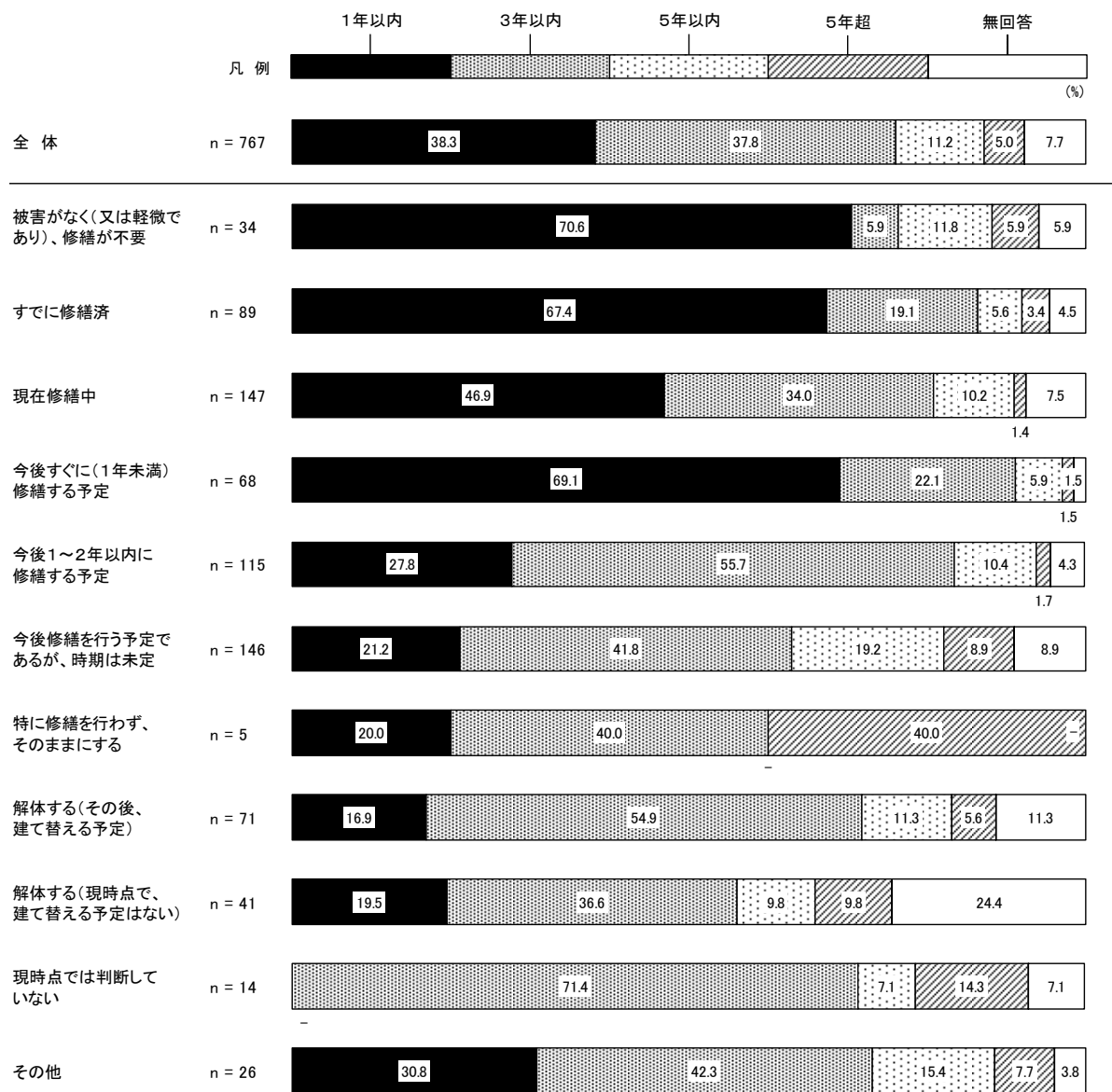
主な避難先自治体別にみると、会津美里町は「1年以内」(44.1%)と「3年以内」(41.2%)を合わせた割合が9割弱を占めており、他の主な避難先自治体と比べて高くなっている。

<図表3-3-7-2 避難指示解除から帰還までの年数(主な避難先自治体別)>



自宅修繕の進捗状況別にみると、「1年以内」は「被害がなく（又は軽微であり）、修繕が不要」（70.6%）、「すでに修繕済」（67.4%）、「今後すぐに（1年未満）修繕する予定」（69.1%）がそれぞれ約7割となっている。

<図表3-3-7-3 避難指示解除から帰還までの年数（自宅修繕の進捗状況別）>



3-3-8 帰還後の世帯構成

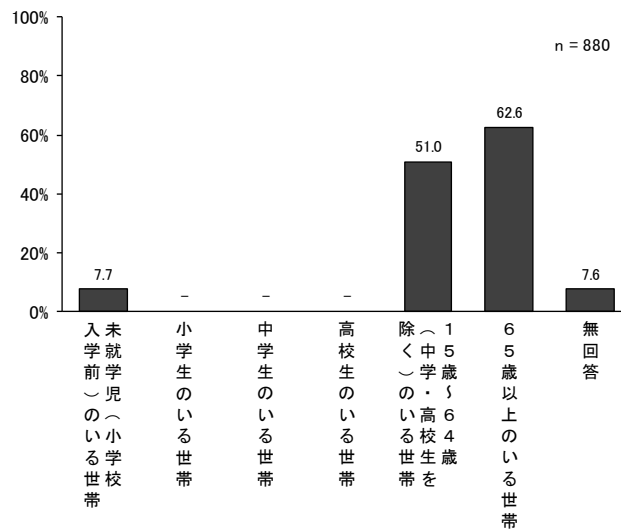
【檜葉町への帰還について、すぐに戻る方または条件が整えば戻る方（問12で「1」又は「2」と回答した方）にかかっています。】

問15（2） 檜葉町への帰還後、どのような世帯構成になると考えていますか。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

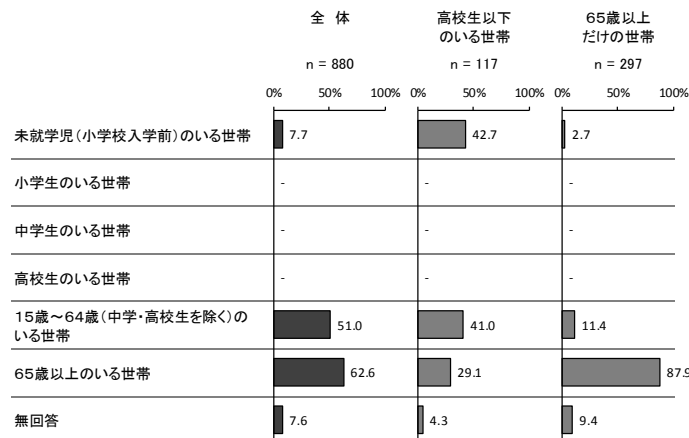
帰還後の世帯構成は、「65歳以上のいる世帯」が62.6%と最も高く、次いで「15歳～64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」が51.0%となっている。

世帯構成別に見ると、65歳以上だけの世帯では帰還後でも「65歳以上の方のいる世帯」（87.9%）が最も高くなっており、高齢層のみの世帯構成となる。

<図表3-3-8-1 帰還後の世帯構成>

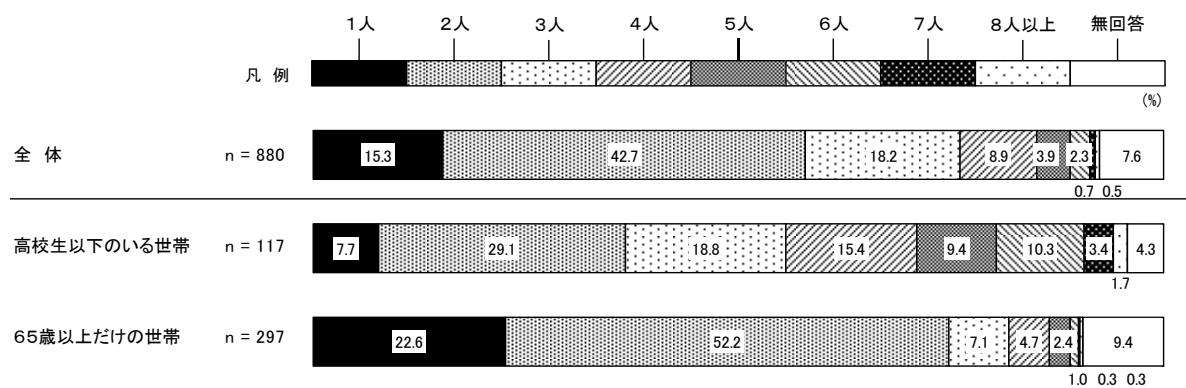


<図表3-3-8-2 帰還後の世帯構成(世帯構成別)>



帰還後の世帯人数を世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「1人」(22.6%)と「2人」(52.2%)をあわせた2人以下の割合が、7割以上と高くなっている。一方、高校生以下のいる世帯では「3人」(18.8%)、「4人」(15.4%)、「5人」(9.4%)、「6人」(10.3%)、と3人以上の割合がそれぞれ65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

<図表3-3-8-3 帰還後の世帯人数（世帯構成別）>



3-3-9 榑葉町へ帰還する場合の住居形態

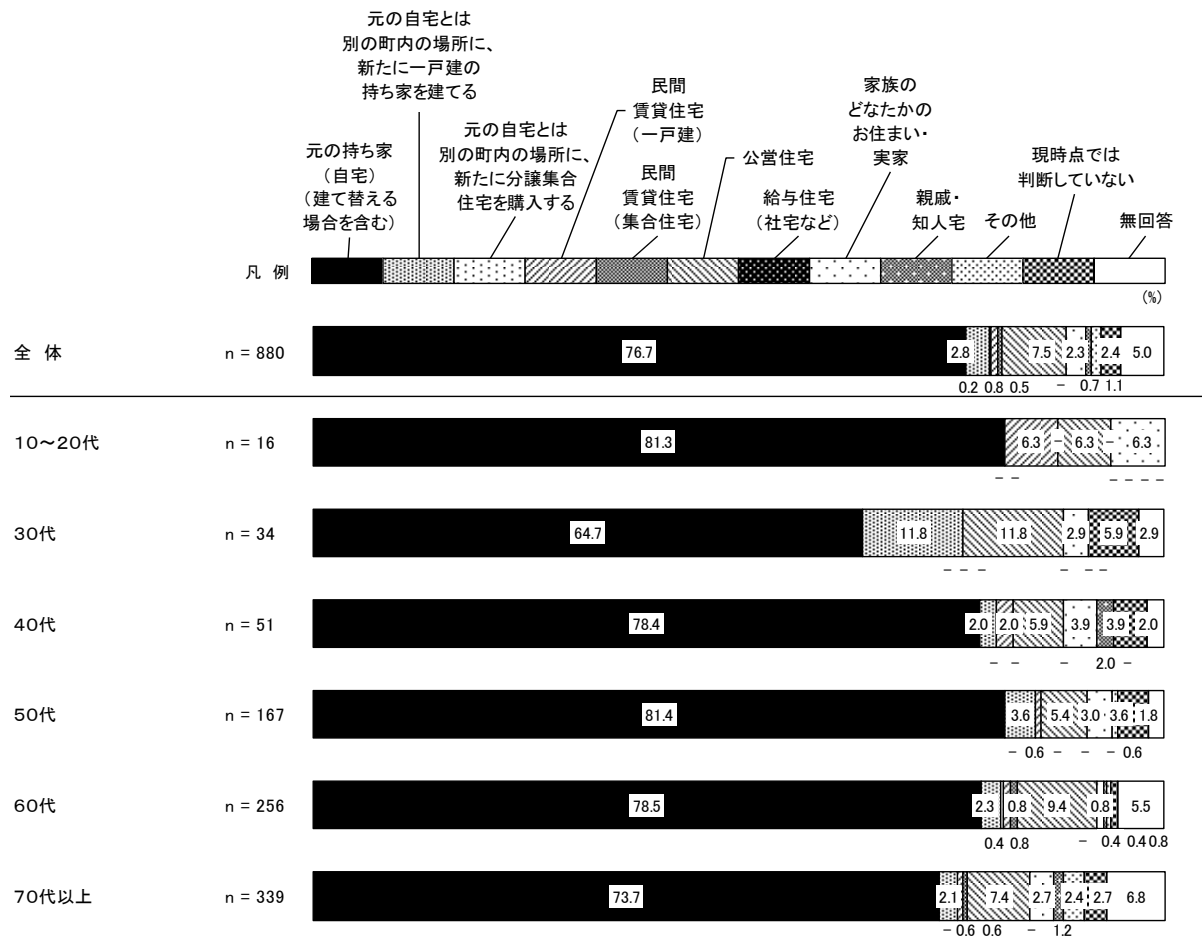
【榑葉町への帰還について、すぐに戻る方または条件が整えば戻る方（問12で「1」又は「2」と回答した方）にかがいます。】

問15(3) 榑葉町に帰還した場合のお住まいは、どのような形態を予定されていますか。(〇は1つ)

榑葉町に帰還した場合に、予定している住居形態については「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」(76.7%)が最も高く、次いで「公営住宅」(7.5%)、「元の自宅とは別の町内の場所に、新たに一戸建の持ち家を建てる」(2.8%)となっている。

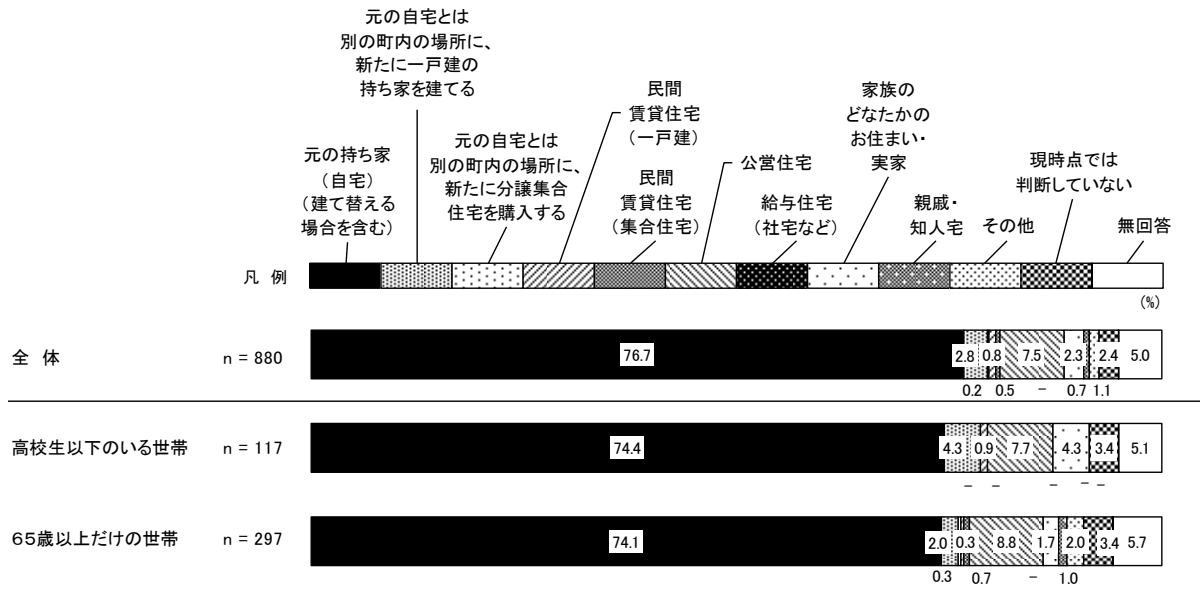
回答者の年齢別にみると、30代は「元の自宅とは別の町内の場所に、新たに一戸建の持ち家を建てる」(11.8%)が他の年齢と比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-9-1 榑葉町へ帰還する場合の住居形態（年齢別）＞



世帯構成別にみると、いずれの世帯構成においても「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が7割以上で最も高くなっている。

<図表3-3-9-2 榎葉町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）>



III 調査結果

震災発生当時の行政区別にみると、すべての行政区において「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」が最も高くなっている。

<図表3-3-9-3 櫛葉町へ帰還する場合の住居形態(震災発生当時の行政区別)>

		(%)											
	n	元の持ち家(自宅) (建て替える場合を含む)	元の自宅とは別の町内の 一戸建の持ち家を建てる 場所、新たに	元の自宅とは別の町内の 分譲集合住宅を購入する 場所、新たに	民間賃貸住宅(一戸建)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	公営住宅	給与住宅(社宅など)	家族のどなたかの お住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断して いない	無回答
全体	880	76.7	2.8	0.2	0.8	0.5	7.5	-	2.3	0.7	1.1	2.4	5.0
旭ヶ丘	5	40.0	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-	-	20.0
営団	46	69.6	2.2	-	-	2.2	23.9	-	-	-	-	2.2	-
乙次郎	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下井出	42	78.6	-	-	-	-	7.1	-	-	2.4	2.4	2.4	7.1
下小埜	119	82.4	-	-	-	0.8	7.6	-	2.5	0.8	2.5	1.7	1.7
下繁岡	32	81.3	-	-	-	-	3.1	-	3.1	-	-	-	12.5
山所布	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山田岡	124	81.5	0.8	-	1.6	-	11.3	-	-	-	-	0.8	4.0
山田浜	32	59.4	12.5	-	-	-	9.4	-	3.1	3.1	3.1	6.3	3.1
女平	8	62.5	-	-	-	-	12.5	-	25.0	-	-	-	-
松館	23	87.0	4.3	-	4.3	-	-	-	-	-	-	-	4.3
上井出	127	73.2	4.7	-	0.8	-	7.1	-	2.4	-	1.6	3.9	6.3
上小埜	54	83.3	-	-	1.9	-	1.9	-	1.9	1.9	1.9	3.7	3.7
上繁岡	44	77.3	6.8	-	-	-	2.3	-	4.5	-	-	4.5	4.5
前原	24	62.5	8.3	-	-	-	8.3	-	8.3	-	4.2	4.2	4.2
大坂	9	77.8	-	-	-	-	-	-	22.2	-	-	-	-
大谷	51	76.5	7.8	-	-	-	2.0	-	2.0	-	2.0	-	9.8
榎木下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
波倉	16	50.0	6.3	-	6.3	-	25.0	-	-	-	-	6.3	6.3
繁岡	31	77.4	-	-	-	3.2	3.2	-	3.2	3.2	-	3.2	6.5
北田	74	82.4	1.4	1.4	1.4	-	5.4	-	1.4	1.4	-	1.4	4.1
その他	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

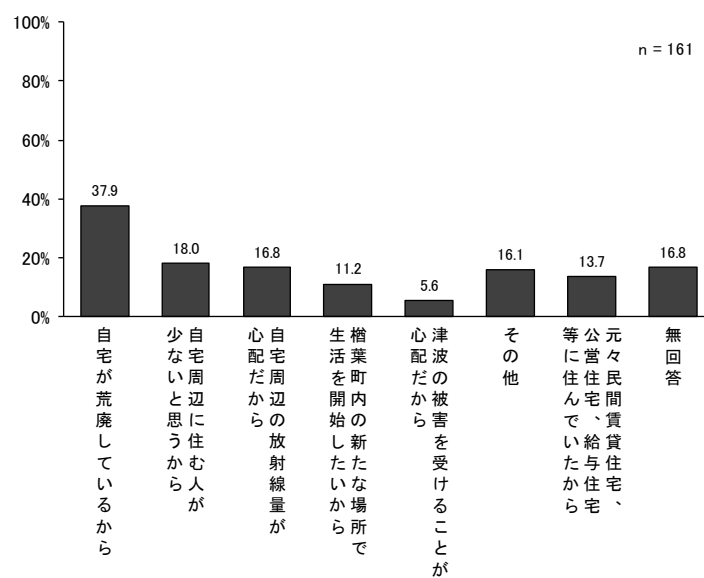
3-3-10 榑葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 15(3)で、「2」～「11」のいずれかを回答した方にうかがいます。】

問 15(4) 元の持ち家以外をお住まいとされる理由は、何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。
(〇はいくつでも)

榑葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「自宅が荒廃しているから」(37.9%)が最も高く、次いで「自宅周辺に住む人が少ないと思うから」(18.0%)、「自宅周辺の放射線量が心配だから」(16.8%)となっている。

<図表3-3-10-1 榑葉町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



3-3-11 檜葉町へ帰還する場合に利用したい民間事業者のサービス

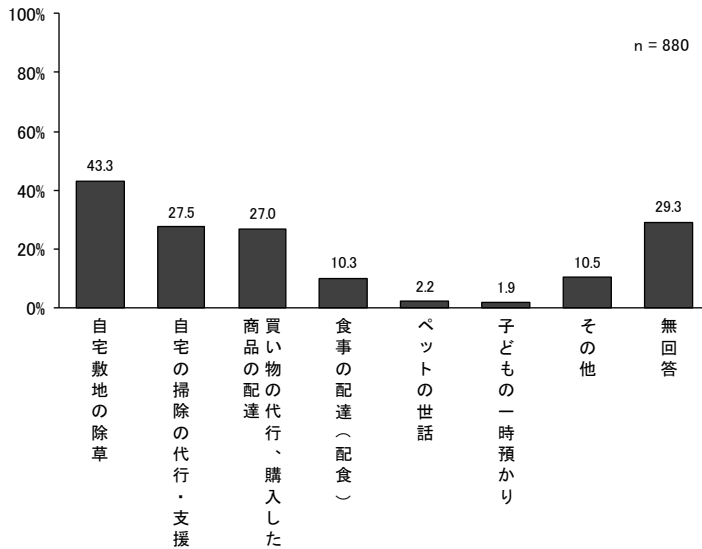
【檜葉町への帰還について、すぐに戻る方または条件が整えば戻る方（問12で「1」又は「2」と回答した方）にうかがいます。】

問15（5） 次のサービスの中から、民間事業者等が町内で実施する場合、利用したいと思うもの（利用者による費用負担あり）についてお選びください。（〇はいくつでも）

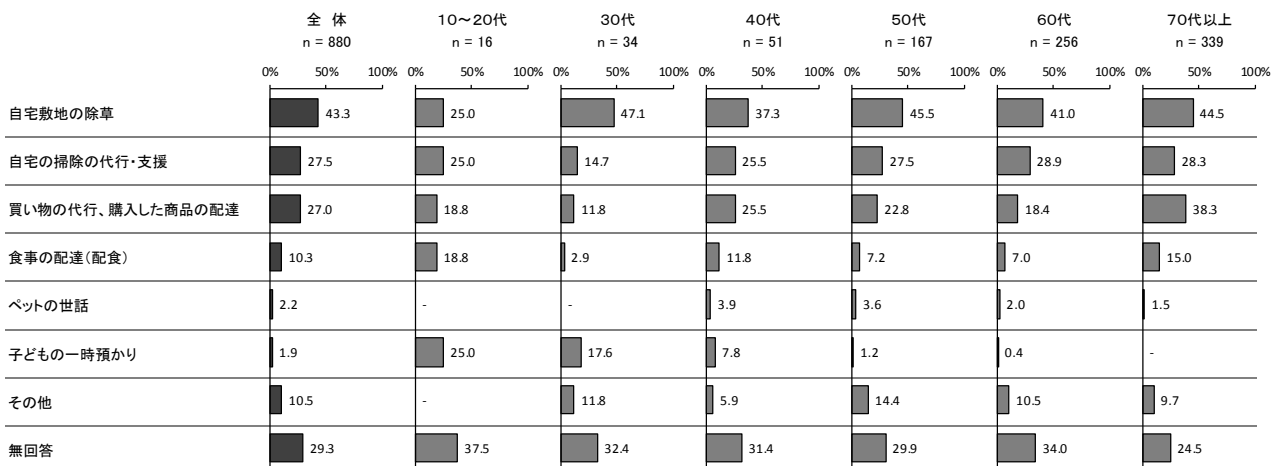
檜葉町への帰還について「すぐに戻る」または「条件が整えば戻る」と回答した方が、檜葉町へ帰還する場合に利用したい民間事業者のサービスについては、「自宅敷地の除草」（43.3%）が最も高く、次いで「自宅の掃除の代行・支援」（27.5%）、「買い物の代行、購入した商品の配達」（27.0%）となっている。

回答者の年齢別に見ると、「子どもの一時預かり」は30代（17.6%）が他の年齢と比べて割合が高くなっている。一方、「買い物の代行、購入した商品の配達」は70代以上（38.3%）が他の年齢と比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-11-1 檜葉町へ帰還する場合に利用したい民間事業者のサービス＞

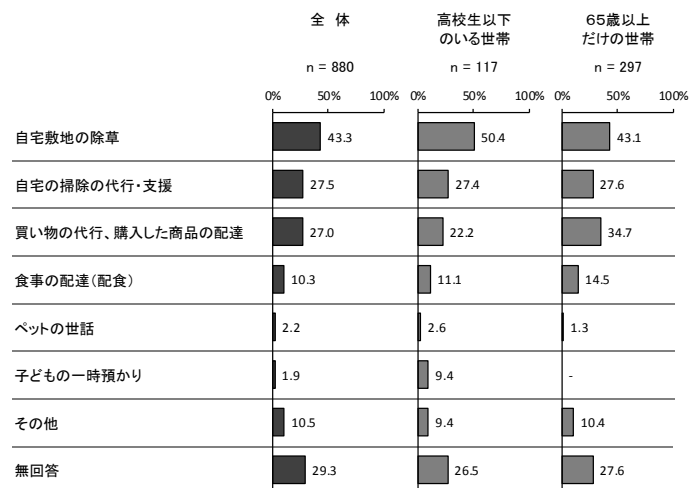


＜図表3-3-11-2 檜葉町へ帰還する場合に利用したい民間事業者のサービス（年齢別）＞



世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯は「自宅敷地の除草」が50.4%となっている。一方、65歳以上の世帯は「買い物の代行、購入した商品の配達」が34.7%と高校生以下のいる世帯と比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-11-3 榎葉町へ帰還する場合に利用したい民間事業者のサービス（世帯構成別）>



震災発生当時の行政区別にみると、概ね全ての行政区で「自宅敷地の除草」が最も高くなっている。

<図表3-3-11-4 檜葉町へ帰還する場合に利用したい民間事業者のサービス（震災発生当時の行政区別）>

		(%)							
	n	自宅敷地の除草	自宅の掃除の代行・支援	買った商品の代行・購入	食事の配達（配食）	ペットの世話	子どもの一時預かり	その他	無回答
全体	880	43.3	27.5	27.0	10.3	2.2	1.9	10.5	29.3
旭ヶ丘	5	60.0	20.0	60.0	20.0	20.0	20.0	-	20.0
営団	46	45.7	34.8	30.4	17.4	-	2.2	15.2	23.9
乙次郎	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
下井出	42	28.6	14.3	26.2	4.8	2.4	2.4	9.5	42.9
下小湍	119	42.0	34.5	20.2	4.2	4.2	4.2	11.8	31.9
下繁岡	32	46.9	31.3	28.1	9.4	-	-	12.5	25.0
山所布	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山田岡	124	41.9	17.7	20.2	14.5	0.8	2.4	8.9	30.6
山田浜	32	31.3	18.8	21.9	6.3	3.1	3.1	15.6	28.1
女平	8	50.0	50.0	62.5	37.5	-	-	12.5	12.5
松館	23	43.5	26.1	30.4	4.3	-	-	8.7	34.8
上井出	127	43.3	28.3	36.2	11.0	0.8	-	8.7	26.8
上小湍	54	55.6	38.9	25.9	14.8	5.6	-	9.3	25.9
上繁岡	44	40.9	27.3	31.8	6.8	2.3	-	11.4	20.5
前原	24	20.8	20.8	16.7	8.3	-	-	8.3	45.8
大坂	9	44.4	22.2	22.2	-	-	-	-	33.3
大谷	51	52.9	27.5	29.4	9.8	3.9	2.0	11.8	33.3
楢木下	-	-	-	-	-	-	-	-	-
波倉	16	12.5	12.5	25.0	25.0	6.3	-	12.5	56.3
繁岡	31	51.6	32.3	35.5	12.9	-	-	16.1	19.4
北田	74	50.0	31.1	25.7	10.8	1.4	5.4	9.5	23.0
その他	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-

3-3-12 現時点で戻らないと決めている理由

【榎葉町への帰還について、榎葉町には戻らない方（問12で「3」と回答した方）にうかがいます。】

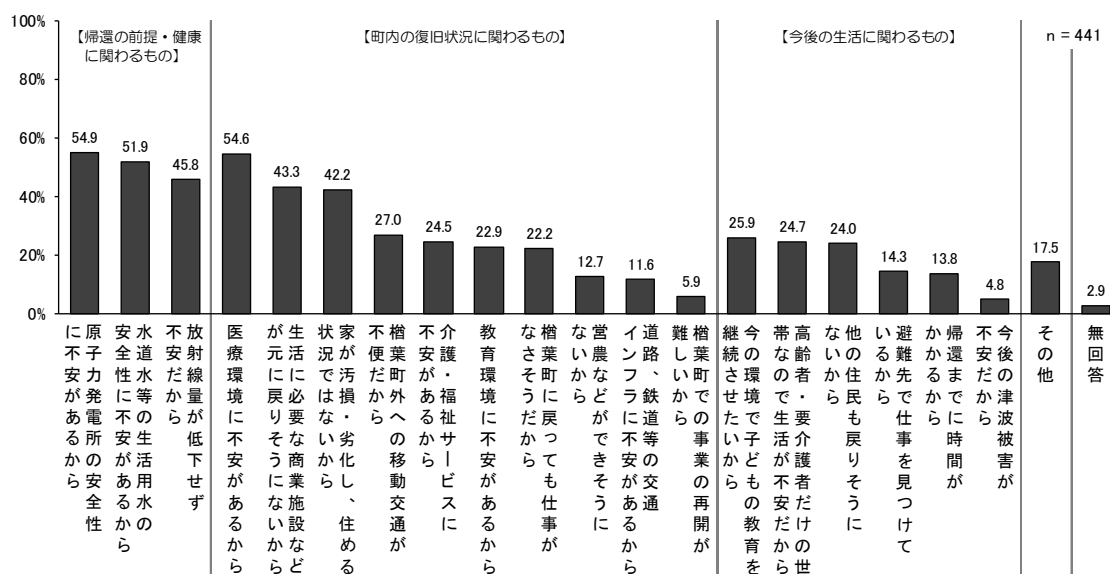
問16(1) 榎葉町に戻らないと決めている理由はどのようなことですか（〇はいくつでも）

現時点で戻らないと決めている理由について、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性に不安があるから」（54.9%）が最も高く、次いで、「水道水等の生活用水の安全性に不安があるから」（51.9%）となっている。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」（54.6%）が最も高く、次いで、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」（43.3%）、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」（42.2%）となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」（25.9%）が最も高く、次いで、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」（24.7%）、「他の住民も戻りそうにないから」（24.0%）となっている。

<図表3-3-12-1 現時点で戻らないと決めている理由>



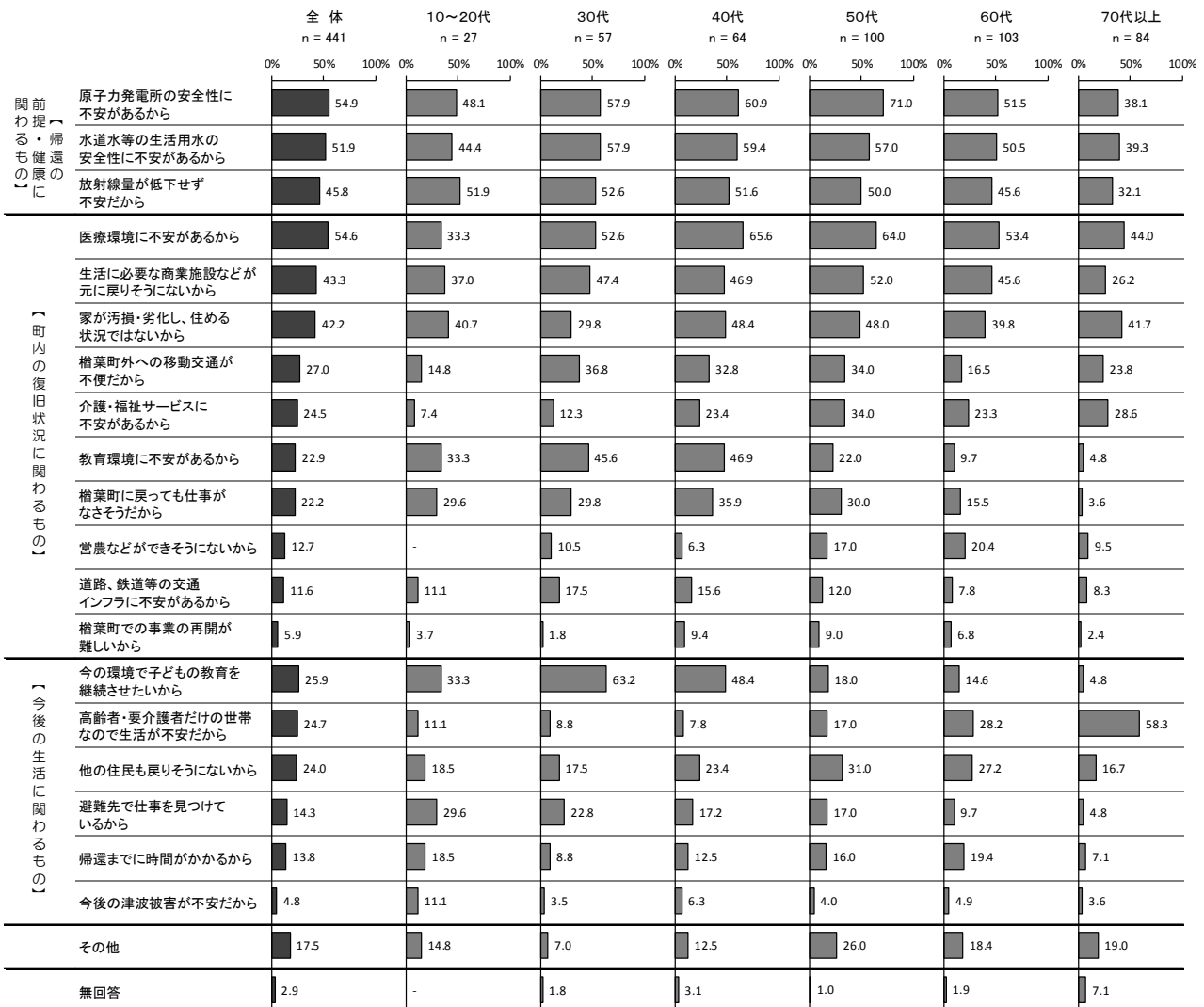
III 調査結果

回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が50代（71.0%）で他の年齢と比較して割合が高くなっている。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、「檜葉町外への移動交通が不便だから」が30代（36.8%）、40代（32.8%）、50代（34.0%）において他の年齢と比較して割合が高くなっている。また「檜葉町に戻っても仕事がなさそうだから」が30代～50代にかけて3割前後となっている。

【今後の生活に関わるもの】では「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」が30代（63.2%）、40代（48.4%）においてそれぞれの年齢で割合が高くなっている。一方、70代以上は「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」（58.3%）で他の年齢と比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-12-2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）>

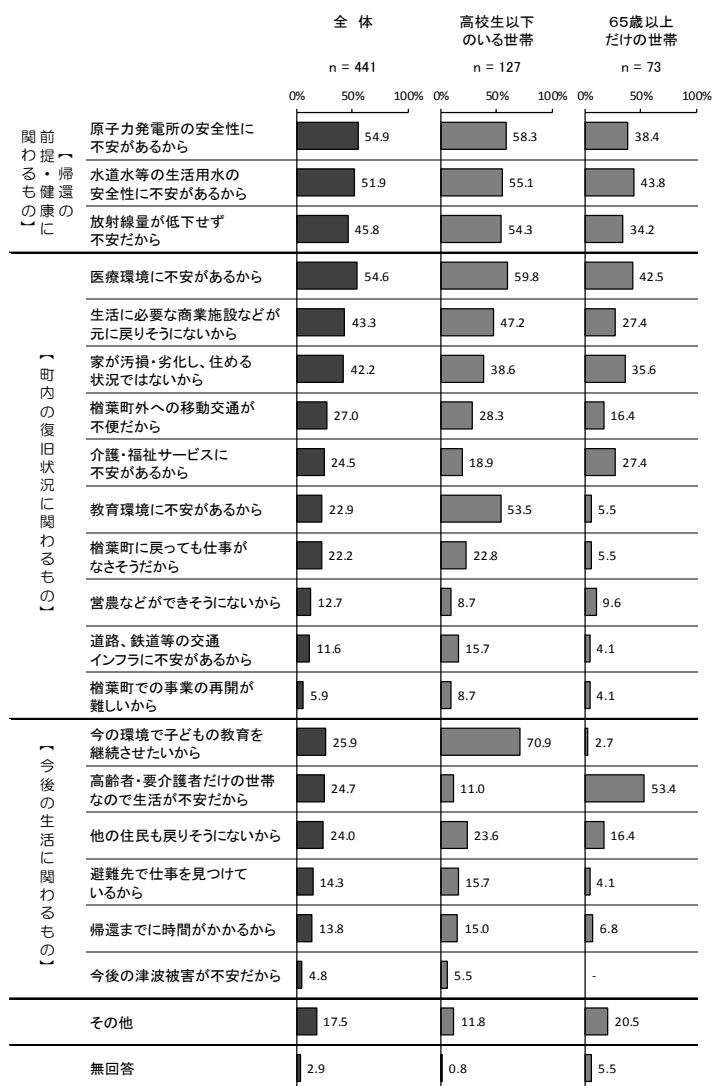


世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、高校生以下のいる世帯で「原子力発電所の安全性に不安があるから」(58.3%)、「水道水等の生活用水の安全性に不安があるから」(55.1%)、「放射線量が低下せず不安だから」(54.3%)がいずれも5割以上と高い。

【町内の復旧状況に関わるもの】では、高校生以下のいる世帯は、「医療環境に不安があるから」(59.8%)、「教育環境に不安があるから」(53.5%)がそれぞれ過半数を占めている。

【今後の生活に関わるもの】では高校生以下のいる世帯は「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」が70.9%と高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯は「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」が53.4%と高くなっている。

<図表3-3-12-3 現時点で戻らないと決めている理由(世帯構成別)>



3-3-13 帰還しない場合に居住したい自治体

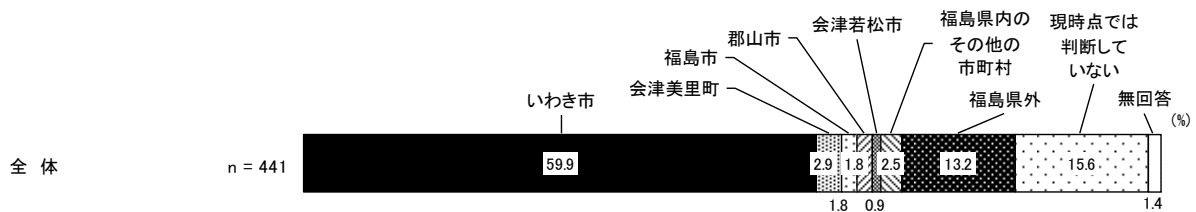
【榎葉町への帰還について、榎葉町には戻らない方（問12で「3」と回答した方）にうかがいます。】

問16(2) 榎葉町に戻らない場合、今後どの自治体で居住を予定されていますか（○は1つ）

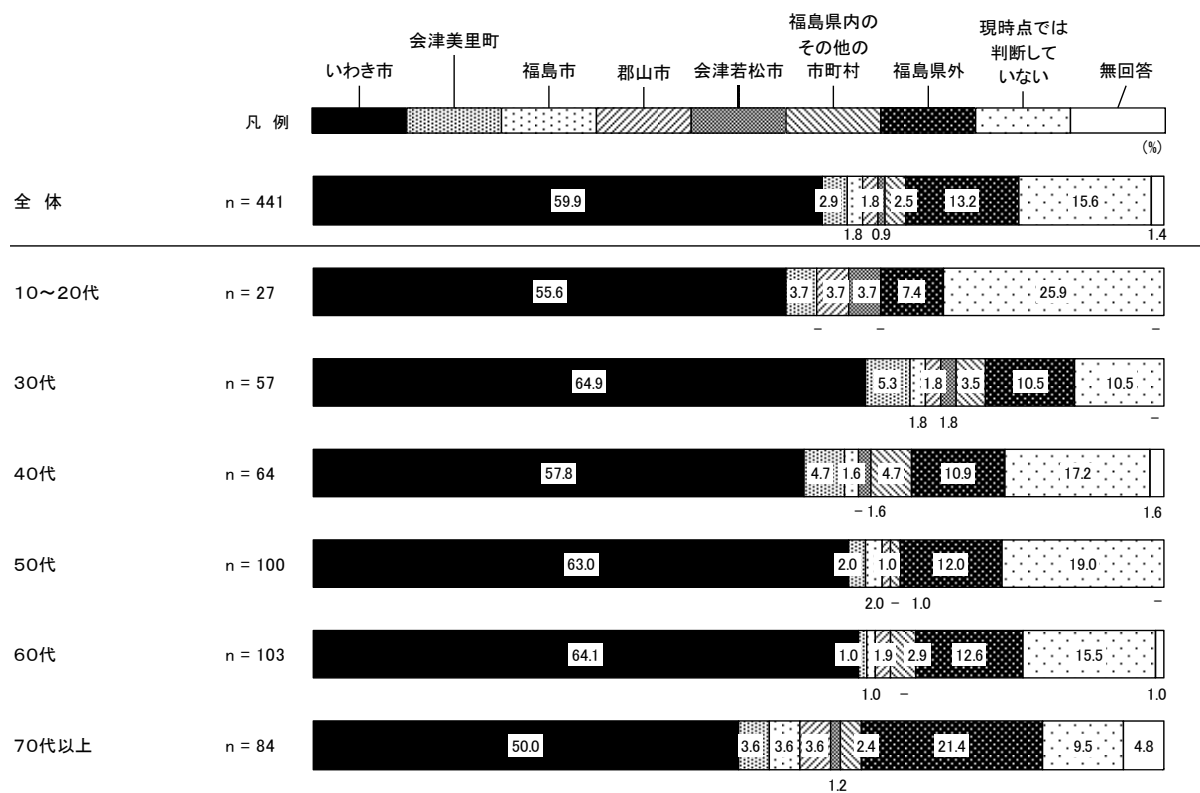
帰還しない場合に居住したい自治体については、「いわき市」（59.9%）が最も高く、次いで「現時点では判断していない」（15.6%）、「福島県外」（13.2%）となっている。

回答者の年齢別にみると、全ての年齢で「いわき市」が過半数を占めている。一方、70代以上は「福島県外」（21.4%）が他の年齢に比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-13-1 帰還しない場合に居住したい自治体>



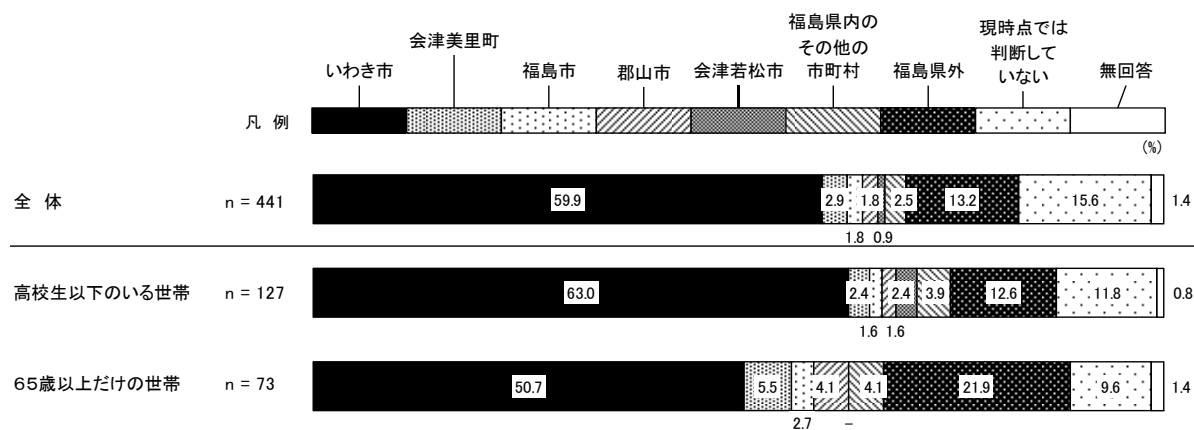
<図表3-3-13-2 帰還しない場合に居住したい自治体（年齢別）>



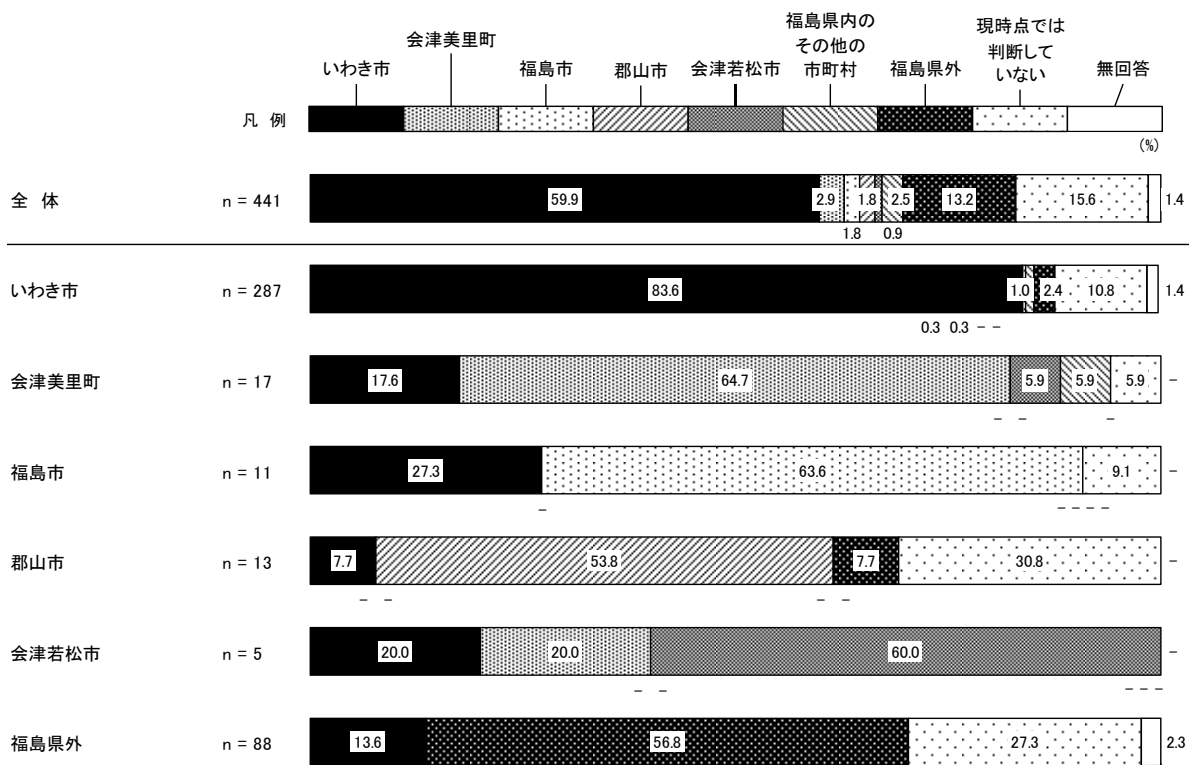
世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯は「福島県外」(21.9%)が高校生以下のいる世帯と比べて高くなっている。

主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも避難先の自治体に居住を希望する割合が高い。

<図表3-3-13-3 帰還しない場合に居住したい自治体(世帯構成別)>

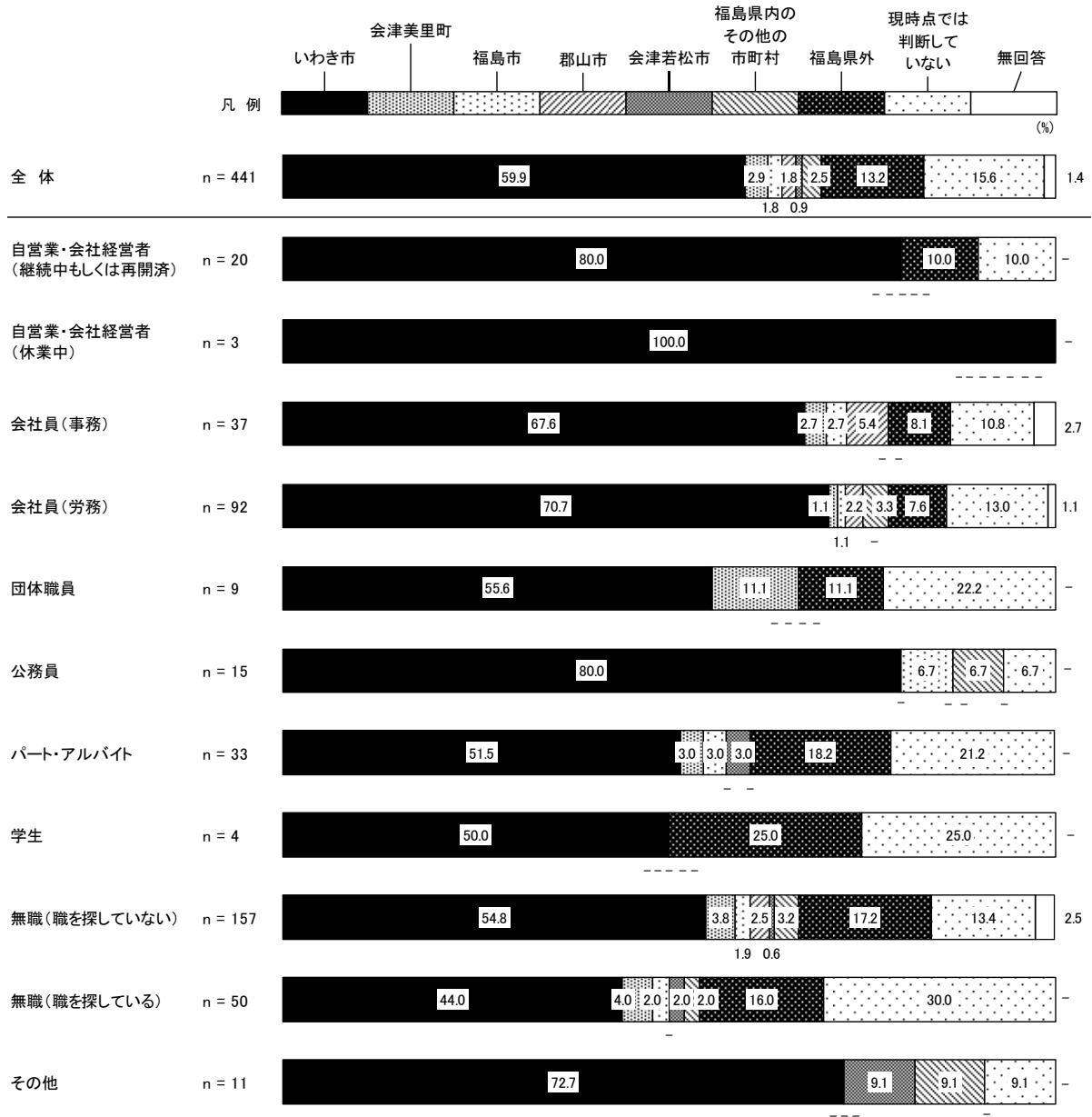


<図表3-3-13-4 帰還しない場合に居住したい自治体(主な避難先自治体別)>



職業別にみると、いずれの職業でも「いわき市」の割合が高くなっている。

<図表3-3-13-5 帰還しない場合に居住したい自治体（職業別）>



3-3-14 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態

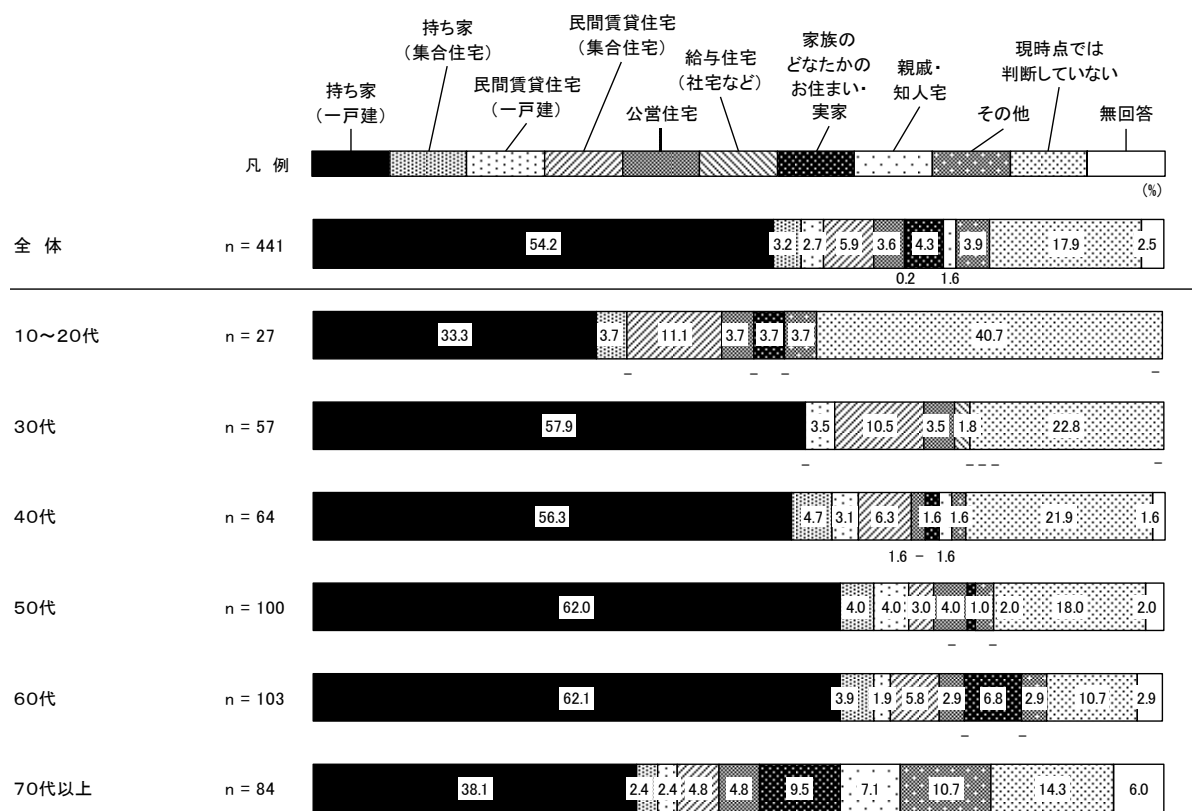
【榑葉町への帰還について、榑葉町には戻らない方（問12で「3」と回答した方）にうかがいます。】

問16（3） 今後居住する住宅はどのような形態（の予定）ですか。（〇は1つ）

榑葉町への帰還について「榑葉町には戻らない」と回答した方が、帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態については、「持ち家（一戸建）」（54.2%）が最も高く、次いで「現時点では判断していない」（17.9%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（5.9%）となっている。

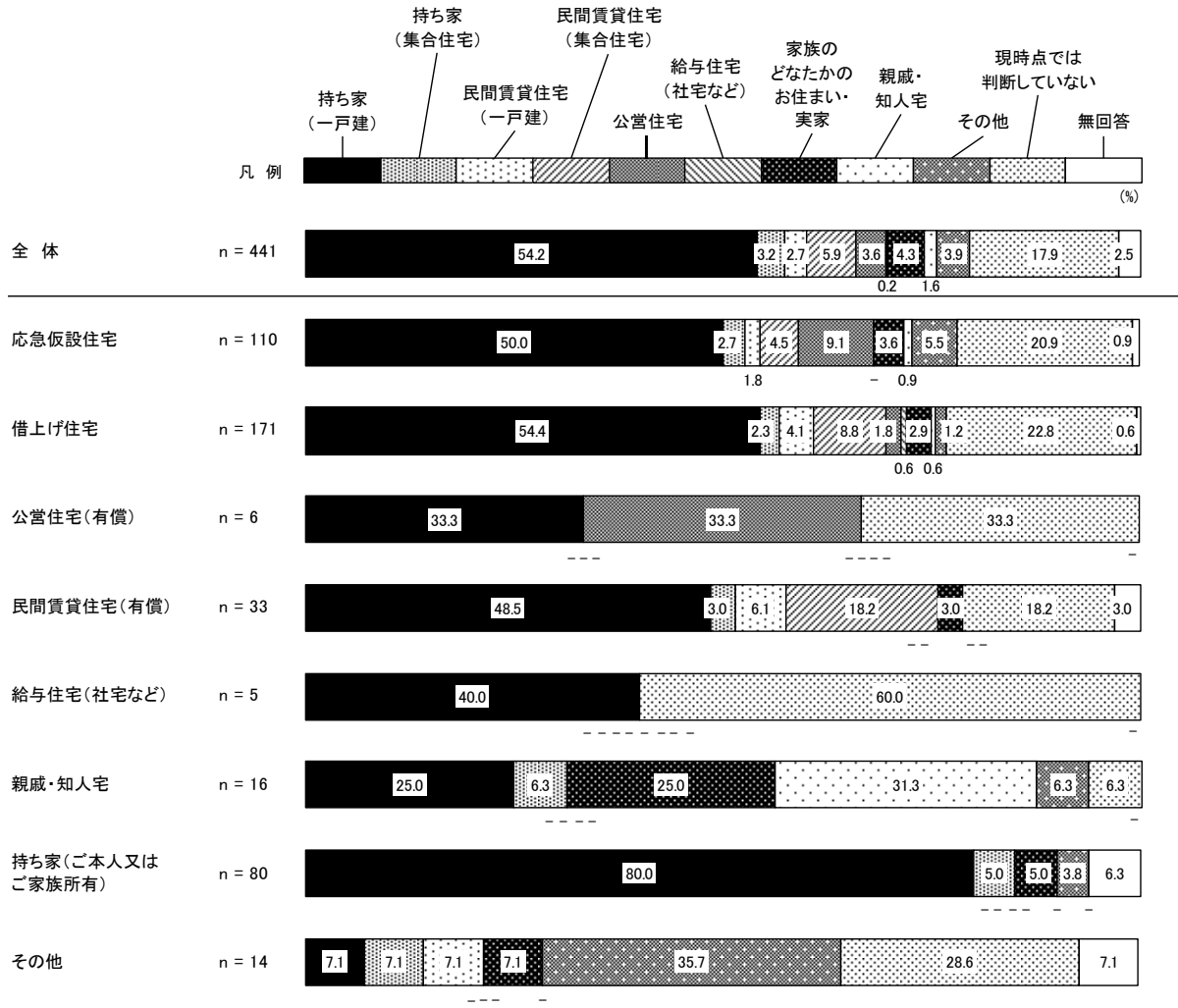
回答者の年齢別に見ると、30代は「民間賃貸住宅（集合住宅）」（10.5%）で他の年齢に比べて割合が高くなっている。一方、70代以上では「家族のどなたかのお住まい・実家」（9.5%）、「親戚・知人宅」（7.1%）が他の年齢に比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-14-1 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態（年齢別）＞



現在の居住形態別でみると、概ねいずれの居住形態でも「持ち家（一戸建）」の割合が高い。

<図表3-3-14-2 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態（現在の居住形態別）>



3-3-15 帰還しない場合に今後の生活において求める支援

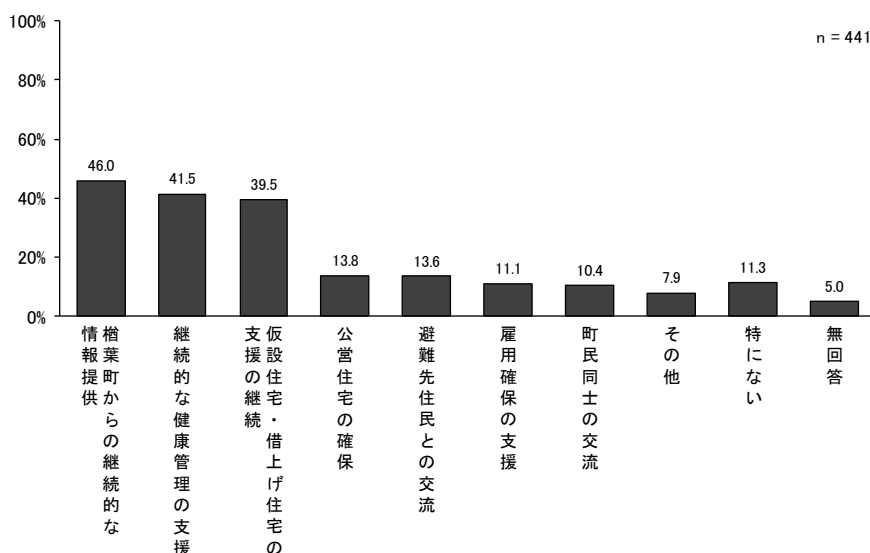
【榿葉町への帰還について、榿葉町には戻らない方（問12で「3」と回答した方）にうかがいます。】

問16（4） 今後の生活においてどのような支援を求めますか。（〇はいくつでも）

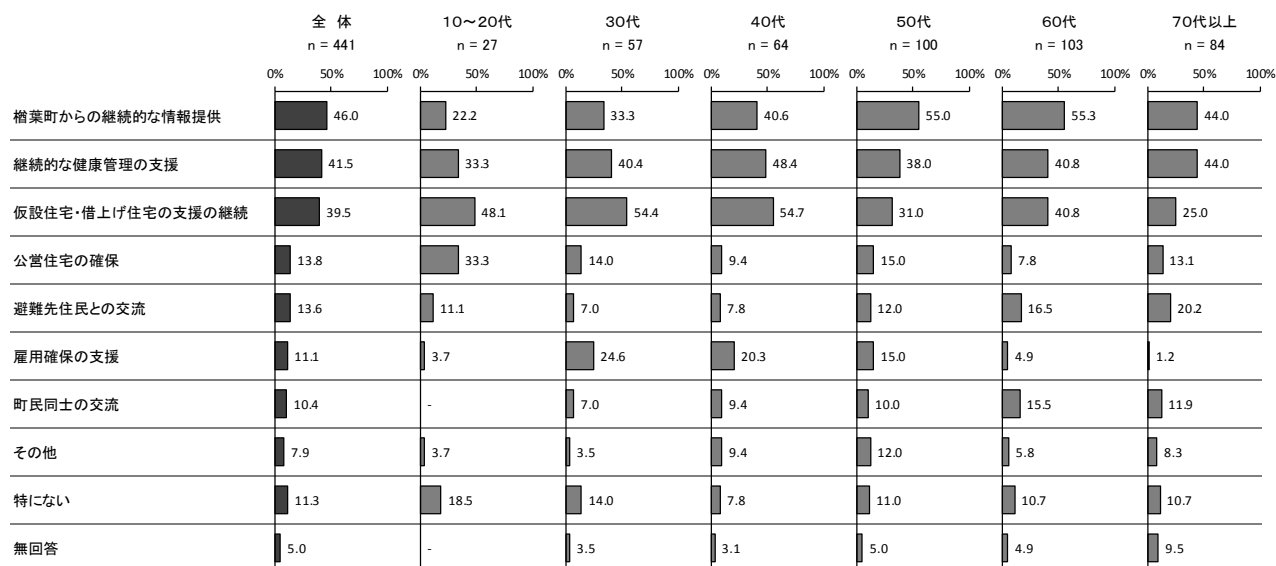
榿葉町への帰還について「榿葉町には戻らない」と回答した方が、帰還しない場合に今後の生活において求める支援は、「榿葉町からの継続的な情報提供」（46.0%）が最も高く、次いで「継続的な健康管理の支援」（41.5%）、「仮設住宅・借上げ住宅の支援の継続」（39.5%）となっている。

回答者の年齢別にみると、「仮設住宅・借上げ住宅の支援の継続」は30代（54.4%）、40代（54.7%）において他の年齢と比べて高くなっている。また、「雇用確保の支援」は30代（24.6%）、40代（20.3%）において高くなっている。

<図表3-3-15-1 帰還しない場合に今後の生活において求める支援>



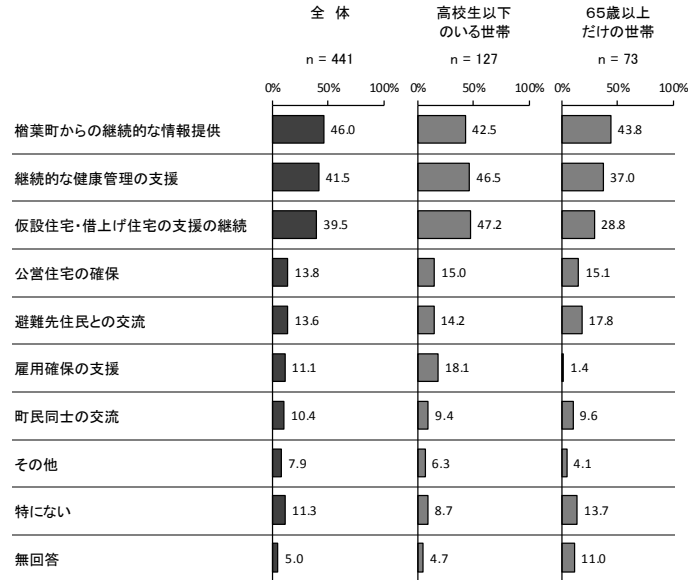
<図表3-3-15-2 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（年齢別）>



III 調査結果

世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「継続的な健康管理の支援」(46.5%)、「仮設住宅・借上げ住宅の支援の継続」(47.2%)がそれぞれ4割台半ばと高くなっている。

<図表3-3-15-3 帰還しない場合に今後の生活において求める支援(世帯構成別)>



3-4 意見・要望

問20 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、866世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・中間貯蔵施設について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・その他所有する住まい・土地に対する賠償について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

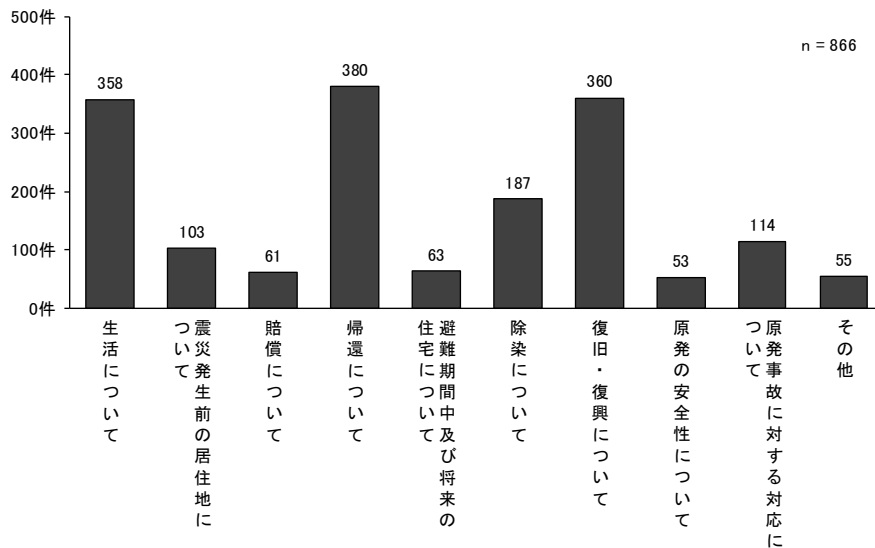
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「帰還について」が380件と最も多く、次いで、「復旧・復興について」が360件、「生活について」が358件などとなっている。

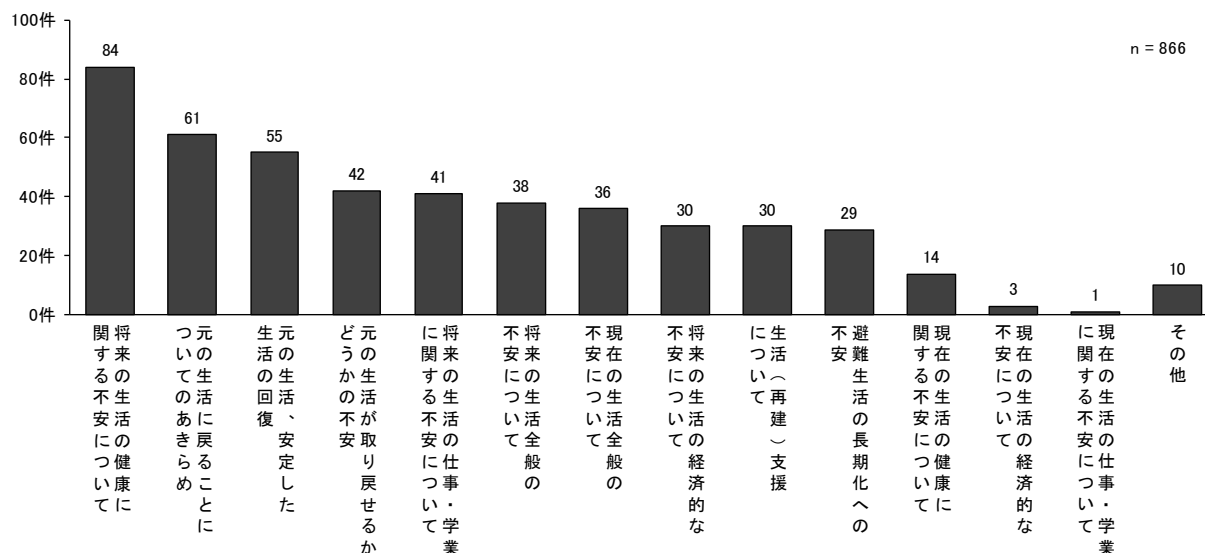
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「将来の生活の健康に関する不安について」が 84 件と最も多く、次いで「元の生活に戻ることにあきらめ」が 61 件、「元の生活、安定した生活の回復」が 55 件などとなっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[将来の生活の健康に関する不安について]

- 戻りたいけど戻れないんだろうな、という心境。櫛葉に帰りたいと思うが、放射線の降った土地で子どもを産んで、家族を築けるのか不安です。あきらめきれないもどかしさがあります。(10~20代)
- 放射性物質の飛散問題、汚染水問題、廃棄物の処理問題、処理施設の問題など、何一つ安全性が確認されてない中で、国や行政主導で住民を戻そうとしている。子供たちや学校を戻すことなど絶対にあってはならないことである。世界一安全な日本の中で、世界一危険な場所である第一原発事故の避難区域に学校や子供を戻すなど正気のことではない。学校の第一の条件は安全性である。その安全性が保証されていない場所に学校を戻すことはありえない。(30代)
- 櫛葉町の役場が戻り、近くで買物も出来、病院も、近所の方も戻り、放射線への安心があれば除々に戻りたいです。水道水の方は大丈夫なのでしょうか、心配です。(40代)

[元の生活に戻ることについてのあきらめ]

- 震災前の町に戻ることは、100%ないと思います。除染で出た土などが国道沿いにある風景を見ると残念でしょうがないです。この先、あれがどうなるかも分かっていません。何もかも中途半端に感じます。研究施設の誘致などをする前に、住んでいた人たちに対する支援をするべきではないでしょうか。(10~20代)
- 徹底した除染の実施が必要だと思います。その際、セシウムの線量だけではなく、その他の核種も測定し、町民へ告知する事も必要不可欠であると思います。また、町民が望むものは、早期の帰還ではなく安心、安全な町の姿に戻してからのものであると思うので慎重な帰町判断を望むものであると思います。もう震災前の健全な状態には戻れないのだから。(30代)
- 富岡以北の復興が進んでいない状況で、以前の商業施設、医療施設などが、利用できない檜葉町に帰町したとしても、なんの展望も見出せない。約4年の避難生活で、精神的、身体的にも、疲れ、町の復興に対し、関心もない。(50代)

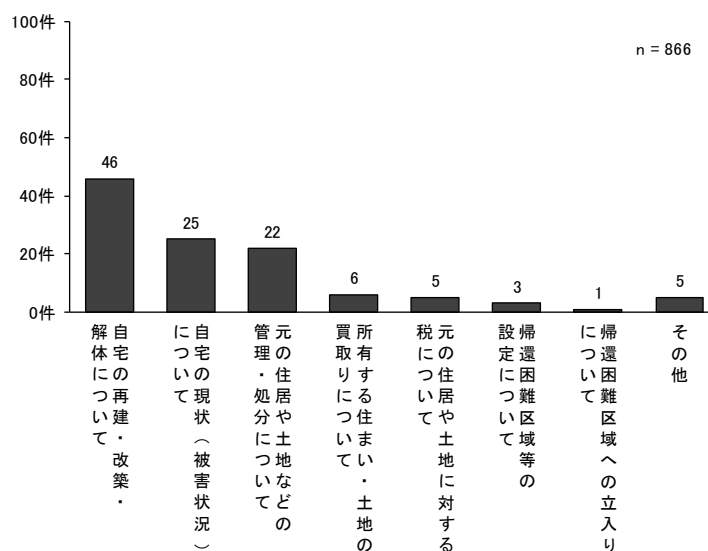
[元の生活、安定した生活の回復]

- きちんとした放射線（放射能）への情報、および対応をどうしていくのかを教えて欲しい。今まで無かった物が存在する町、環境で生活して本当に安全なのか、よく町民、若者の声にも耳を傾けて欲しい。今の状況、檜葉町が好きだったのでとても悔しいですが、安全に子供達が暮らせる町にしてほしい。(10~20代)
- とにかく住みやすい環境づくり。子供たちが安心して暮らせる環境づくり。みんなが戻りたいという町にしてほしい（震災前以上に）(30代)
- 将来、檜葉には戻るつもりだが、中・高生の子供達が今いるところでの生活を望むなら、すぐには戻れない。帰還はうれしいが、色々山積みの問題があるのでは…。解決するには、労力と時間がかかると思いますが、1日でも早く町に戻れ、元の生活とまでは行かなくとも、少しでも近づけるようお願いしたい。(40代)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の再建・改築・解体について」が46件と最も多く、次いで「自宅の現状（被害状況）について」が25件、「元の住居や土地などの管理・処分について」が22件などとなっている。

＜図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔自宅の再建・改築・解体について〕

- 自宅の再建を考えた場合、住宅ローンの残高と修理費、住める様にする為の負担が大きい。借入金が増えるし、榊町に戻れないのに、資産を所有するのに不安がある。子供の健康を考えると、榊町には戻れない。両親は榊に帰る考えを示し始めているが、両親の年齢を考えると近くに居ないと不安です。(30代)
- 家屋の修繕等、無知の方が多くいると思われまます。業者とのパイプ役が急務であると思えます。今後若い人々が戻るには原発の収束、放射能の知識（誤った知識でなく…）が必要。行政の方々も大変かと思いますが尚一層町民の為に尽力をお願いします。(50代)
- 解除になれば、私の家族も即戻りたい考えではあるが、屋根の修理、塀の補修、家のリフォームとこれからの課題が山積している現状である。従って住環境と相談しながらの帰還とならざるを得ない。息子たちの家族にも、ゆくゆくは榊町に戻ってきて欲しいと願ってはいるが、今しばらくは親は榊、息子たちはいわき市での生活になるのもやむを得ないと考えている。(60代)

〔自宅の現状（被害状況）について〕

- 三年以上も放置した家の傷み方がひどい。室内はカビ臭くて、ネズミ等の住み家になっている。(30代)
- 賠償金の件があって避難指示解除の時期がのびればのびる程、榊の自宅が廃墟化していくようで複雑な気持ちです。榊町に戻る事に放射線の不安、治安や金銭的な事、仕事の事、子供達の事、不安な事はたくさんありますが、1つずつ乗り越えて出来るだけ早い時期、榊町に帰りたいと考えてます。(40代)
- 榊町へ戻りたくても、自宅は住めない程に傷み、いわきの方へ住むことになると思えます。榊町へ住みたくても住めなくなってしまったことは東電や国にこれからもいろいろと責任をとってもらいたいと思えます。戻れない人にも必ず町としても戻る人と同じ様な扱いをしてほしい。(50代)

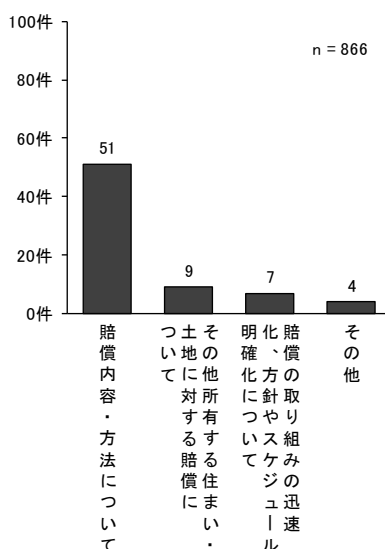
[元の住居や土地などの管理・処分について]

- 住む家のまわりだけが安全になりましたと言われても除染されたと言われても山、竹やぶ、田畑はどうなるのか。現実には家のまわりには山、竹やぶ、田畑を目の前にして住んでいる、生活している人々たちはたくさんいます。目先だけの話では本当に檜葉町の人々のことを親身になって考えているのか。(40代)
- 田、畑の耕作はやめるつもりだ。そこで耕作した物を食べたくない。出来れば田、畑の買取り希望。砂利の道路や、宅地を出来る限り舗装してほしい。(放射性物質の飛散防止) 家回りの植木、森林の伐採をしたいが、投棄場所の確保、および、支援がほしい。(50代)
- 震災後、農業をしていたが、今後は高齢のため容易でないので、農地を貸すか、委託に出したいので、その受け入れ先を町は考えて欲しい。(70代以上)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が51件と最も多く、次いで「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が9件、「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が7件などとなっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償の内容・方法について】

- 榑葉町は町としての賠償に対し消極的である。浪江町や富岡町のように双葉郡、一律にするよう強く訴えるべきである。せっかく榑葉町で起業しようと思っても、町が弱いと仕事が来ない。なので町長には強く意見を国に意見すべきだ。(30代)
- 賠償金の請求の時、東電が求める資料が、細かくて、嫌になる。解除になったら、賠償金も終了ではなく、家賃や家のローンの支援を継続して欲しい。原発事故があって、人生が変わった人が沢山いる。もっと誠意持って東電は対処すべきだと思う。(40代)
- 今後、榑葉以外で生活をしたいので、新たに家を持つための資金を東電に賠償として要求していただきたい。また、賠償額も、土地の面積や年数などで決めるのではなく、一定の額で家が持てる賠償をしていただきたい。(50代)

[その他所有する住まい・土地に対する賠償について]

- 震災後3年以上経過し、いまだ戻る時期もわからず大熊町・双葉町のように補償も楡葉町はいつ切れるかもわからない状態。中途半端で、家を楡葉以外に買った方がよいのか、予定は全くたたない。町は今の状態で本当に戻り生活できると思っていますか？それでも、全損にならない自宅、土地、納得できません。放射線量も年間1msv以下をきちんと守って下さい。(40代)
- 東電の賠償が地元へ戻る人よりも、移住する人の方が手厚くなっているようで納得がいかない。これでは移住する人が増えて町へ戻る人があまりいないのではないかと思います。人口が減れば町自体の存続も難しいと思います。町へ戻る意欲が出るような政策を期待します。(60代)
- 家屋は、三年半も過ぎて、とても人間が住める状態ではない。現在の一個人の精神的損害が月10万円と言うのが、あまりにも低すぎると思う。自然災害でなく、人的災害に対してあまりにも補償が低すぎる。事故の収束の状況もわからないまま、戻る戻らないの問題ではない。安心して住める事故前相当の家を提供するのが義務である。それぞれ個人個人が別の考え方があるので、それぞれの気持ちを尊重してもらいたい。(70代以上)

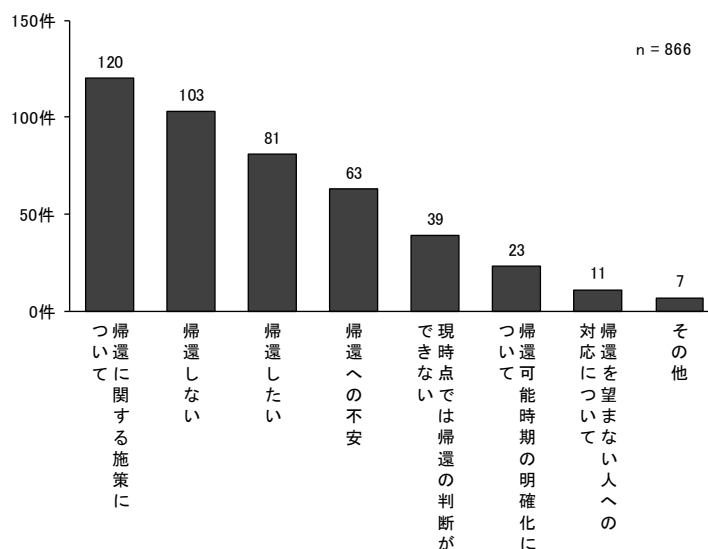
[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について]

- 町の復興を考えるだけのゆとりもなく、今は自分の精神面と体力を気力で補うので精一杯の毎日です。1日も早く賠償問題も解決して頂き、心おだやかな日々を送りたいです。(70代以上)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が120件と最も多く、次いで「帰還しない」が103件、「帰還したい」が81件などとなっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[帰還に関する施策について]

- 平成27年に避難指示を解除予定になっているが、本当に戻れるのか。以前自宅を除染してもらったが、雨どいなど線量が高い箇所がいくつかあった。早く帰りたい方もいるので解除時期も早いほうがいいのは分かるが、もっと全体的に見渡して判断してほしい。(10~20代)
- 現在屋外の除染しか実施していないが、屋内も確実に汚染されている。内部被ばくの恐れが有る状態で、帰町してはいけない。未成年者の今後が心配なので、安易に避難指示を解除すべきではない。(30代)
- 早く解除してください、遅れるほどに駄目になる。広野町には多くの宅地があり、住民（他からの）が定住している。ホテルなども整備されている。学校もできるだけ早く帰るべき。地元で伸び伸びと育てるべき。帰らない人よりも帰町する人を大きく支援してください。まずは帰る人です。(40代)

[帰還しない]

- 私自身は福島を離れていて、このまま戻らないつもりですが、戻れたとしても住む気になれるか分かりません。若い人はほとんど戻らないでしょう。私のまわり（同級生）も戻らないと思います。(10~20代)
- もう3年以上経っているので若い人は避難先で仕事をはじめている人が多いです。町に戻る人は仕事がないため、無職の人しか戻れないのではないのでしょうか。生まれ育った町ですので残念で仕方ないですが、これから先も戻るつもりはありません。除染は無駄かもしれません。それよりも、新しい生活の支援をして欲しいと思います。(30代)
- 仮置場の延長が決まり、戻れない状況が増えてしまった事、家の汚損や劣化、近隣住民も戻らない人がほとんどで部落として成り立たない。避難先での生活が便利だし、慣れてしまっている。第一原発がいつまた、避難する状況など起こるかもしれない不安をかかえ住めない。新たな地で生活した方がよいと考える。(40代)

Ⅲ 調査結果

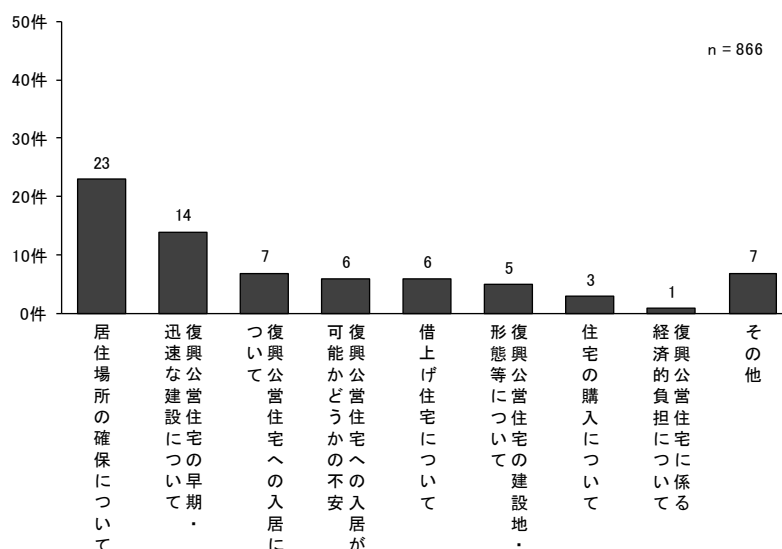
[帰還したい]

- ずいぶん長いこと避難しているので、いわき市にも多少は慣れてきましたが、やっぱり住みよいのは榎葉です。榎葉に戻ったら、両親の面倒をみて暮らしたいです。(10~20代)
- 避難してみて、榎葉町は本当に住みやすい町だと思いました。福祉や子育てにはとても力をいれてたのだと感じました。私達、家族は、未就園児2人います。今まで県外避難の方にも園料助成など補助があり助かってます。今すぐに帰れませんが、子供が成人したら榎葉町で暮らしたいと思ってます。榎葉町で生活をしてた事やこの様な事が起きた事など語り継ぎたいと思ってます。榎葉町の復興、復旧を願ってます。(30代)
- 仮設住宅の生活はもう限界です。早く榎葉に戻して下さい。家を建て替えるにも住宅メーカーは避難指示が解除されなければ、工事をしてくれません。そうすると、戻る時期がますます遅れるという状況です。こんな事では戻ろうとする気持ちもなえてしまいます。(40代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が23件と最も多く、次いで「復興公営住宅の早期・迅速な建設について」が14件、「復興公営住宅への入居について」が7件などとなっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- 住む場所がこの先どうなるのか分からず不安である。同じ20kmの中は、もう同じと考えてもいいのではないかと。戻っても、今までの生活になるまでには、時間が経過しすぎている様な感じがします。(30代)
- 町は頑張っていると思い感謝しております。しかし、帰る家がありません。仕事もありません。住民の中に入ると前進する気持ちがなくなるので嫌になります。だからといっていわき市にも住んでたくありません。(40代)
- 住む場所がなければ帰りたくても帰れないので、宅地整備をお願いします。除染で出た物の保管場所も決まってないので、学校を檜葉町で再開する時期は慎重に考えて下さい。(30代)

【復興公営住宅の早期・迅速な建設について】

- 震災により借りていた住宅が住めない状態により大家さんにより解体するとの事で、檜葉に戻るには町の復興住宅などの出来る事などのない限りどうにもなりません。家のない人のためにも暮らしの出来る生活が来る様をお願い申し上げます。(60代)
- やむなく持家を解体するしかなくなった住人がペットと一緒に生活出来る安い賃貸住宅等がせめて2DKの広さで整備されるならと思うが、今の所、そんな様子がないので、戻る事に判断出来ない。戻っても、今迄、近くにあった病院・デパートなどが、ガソリンも、時間もかかるようになると、避難先のいわきが便利だから、今だに広野の人も戻らない。それが当たり前だと思う。(50代)
- 復興が全々進んでないと思う。家の解体等も順番ではなく家を建てなおす人を優先したり、公営住宅を早く建てたりしないと、遅くなればなるほど檜葉からはなれる人が多くなると思います。(70代以上)

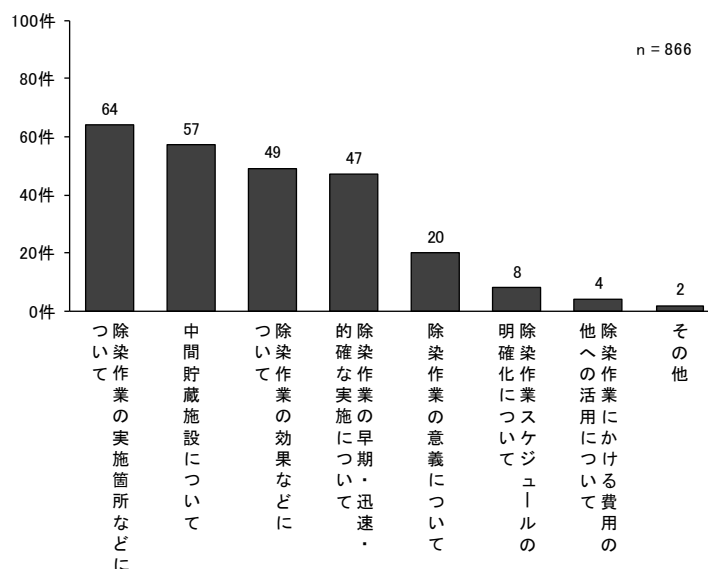
〔復興公営住宅への入居について〕

- 出来れば（子供に転校をさせる）生活環境の変化はさげたいので、同地区での公営住宅の手配や、借上げ住宅（県・町）の延長を考えて頂きたい。県の借上げ住宅が終了するのであれば、公営住宅の優先的な紹介を願いたい。給与が震災前より減ってしまったため、民間賃貸の支払いはちょっときびしい現状です。（10～20代）
- 実家住まいのため、これから先は住宅の確保に不安を感じてます。榊葉町に帰還するためには1人者に対しての住宅確保（公営住宅など）があれば戻ってもと考えています。（40代）
- 榊葉町に戻らない人もそれぞれ事情があって戻らないのではないかと思います。榊葉町民が災害公営住宅に入居するには、榊葉町に戻る選択を強いられる事になります。他町から比べても著しい不公平感が感じられます。（60代）

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の実施箇所などについて」が64件と最も多く、次いで「中間貯蔵施設について」が57件、「除染作業の効果などについて」が49件などとなっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[除染作業の実施箇所などについて]

- 木戸ダムの底の除染をしてもらいたい。飲み水が心配です。(40代)
- 持ち家の除染は済んでいるが道路脇の田んぼ等が未だ手付かずのままで町内除染終了に納得いかない。(50代)
- 立木の伐採、竹の伐採、除染を再度実施してほしい箇所がある。(60代)

[中間貯蔵施設について]

- 裏山の線量がまだ高い所もあり、仮置場にある汚染したフレコンパック他中間貯蔵施設への早急な移動をお願いします。中間貯蔵施設の早急な建設を要望致します。(60代)
- 中間貯蔵への運搬方法や交通手段に大不満。(70代以上)

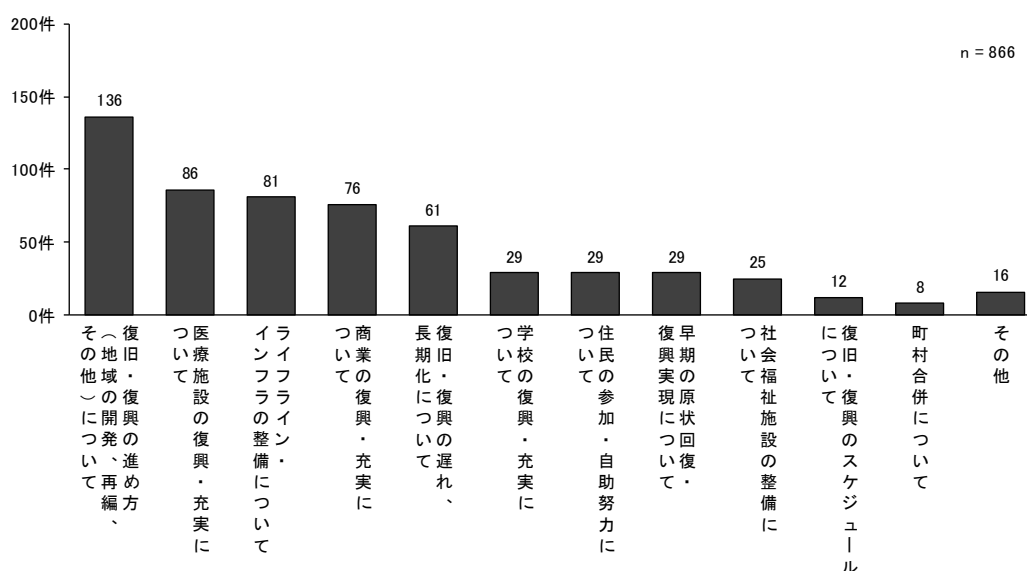
[除染作業の効果などについて]

- 町が復興に向かっているのは喜ばしい事だと思いますが、本当に安心して生活できる状況が整ってきているのか疑問に感じる事が多いです。喜ばしい出来事ばかりが大きくとりあげられ、あまりよくないと思われる、除染の効果があまりみられていない地域があるなどはあまり表面化してきていません。本当に解除して町民が以前の様に安心して不便を感じることなく生活できるのでしょうか。住み慣れた我が家へ帰りたいという意見もあるかとは思いますが、私は解除を手放して喜ぶ事は出来ません。色々な意見を汲み取って頂きたいと思います。(30代)
- 自宅の除染が終了してから約1年が経つが、部分的に線量が上がっている。フォローアップ除染の対象になるか不安。又、その後の除染はあるかどうか明確になっていない。月日が経つとまた線量が上がるので継続的除染が必要。森林部の除染は、20mまでの範囲であったが、今後は20m以上の範囲を実施すべきである。住宅周りの樹木の撤去も必要だと考える。ゴミの収集は常時実施して欲しい。自宅に戻りたいと考えて、片付け等してもゴミ(汚染物)を捨てられない。町は、ゴミはすべて汚染物と考えて処理すべきである。(50代)
- 除染土壌が町の中にたくさんあります。中間貯蔵庫が出来て搬出が終らなければ、子ども、若者は町内に戻る事が出来ないと思う。搬出の際にはダンプがたくさん走り、排気ガスが町内を舞う。体に影響がないとは思わない。又、原発事故今だに色々な事が有り、これからもっと大変な原発事故収束に動くと思う。その中で安全性に疑問を持ちます。(60代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが136件と最も多く、次いで「医療施設の復興・充実について」が86件、「ライフライン・インフラの整備について」が81件などとなっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 一部では、来春解除なんて話もありますが、どう考えても無理がある様に感じます。働ける場所がなければ、戻ってくる人は、なかなか居ない様にも思うし、大型スーパーや、入院できる病院、若い人に戻ってきて欲しいと思うのであれば産婦人科は、絶対に必要だと思う。解除は、その後でも、遅くないと思います。戻れるのなら戻りたいと思う人は少なからず、心のどこかに気持ちはあるけど、生活を考えると、なかなかと思う人もいます。（30代）
- 帰りたと思う人は帰るでいいと思います。「元の檜葉町にする」というのではなく「新しい檜葉町にする」というコンセプトで発想を自由にやっていくのがいいと今は感じます。若い人が帰って来ないことが悩みと聞いたりしますが、年寄だけの町でもいいじゃないですか。年寄が生き生きと暮らしていたら、若者も戻って来るかもしれません。はじめから、何でもと欲張らず出来ることから、時間がかかっても始めることが長い目で見れば檜葉町の未来に繋がる大切なことだと思います。（40代）

【医療施設の復興・充実について】

- 町にまた戻りたいと思うが、いまいち安心出来ません。親だけが、檜葉町に戻ると言っていますが、すぐに行ける距離に居ないと高齢になるにつれ心配になってしまう。医療施設の充実な環境でなければ万が一を考えると（帰還には）賛成できません。（10～20代）
- 病院、銀行、買い物をする所など隣町に行けばすんだのが今後はどのようになるのか見えない中で、判断することはとてもむずかしいです。今までと同じような生活はできず、不便になるのであれば、帰る判断はし辛いのが現状です。子供がいる家庭としては、線量や今後、子供達が戻るのかは、気になる所です。（40代）
- 福祉施設・医療機関の充実を望む。医療機関は、診療科目、眼科、皮フ科、整形外科、認知科（物忘れ）等、内科以外の充実が必要である。（50代）

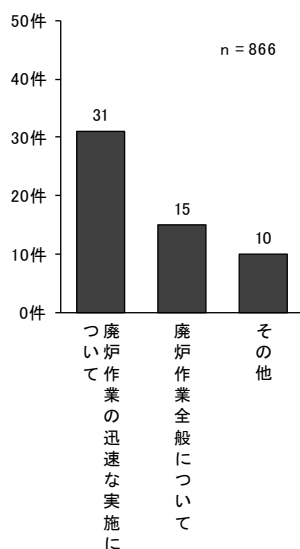
[ライフライン・インフラの整備について]

- まだまだ全く進んでいない状況。車の量やコンビニなどのお店は普通にやっているし、やや活発になってきている様には思える。でも、肝心のインフラの部分と環境の面で、まだまだ町民が安心して普通に戻れる状況ではないと思う。3年経ってもこの程度の進捗状況に、とてもがっかりする。(10～20代)
- これから、子どもを欲しいと考えてる。将来、檜葉という町で、子どもを育てたい。だけど、仮に今、子どもをさずかっても、檜葉には帰れないし、育てられない。一日も早く檜葉に帰り、檜葉で育てたい。インフラが、そろわないとそれもできない。色々な面で震災前に比べると不自由は、あると思います。それでも、仮設に居るよりは、檜葉に帰りたい。とにかく、檜葉という町が、好きです。(30代)
- インフラや町内の住居確保を整えてから解除すべきだと思います。(50代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が 31 件と最も多く、次いで「廃炉作業全般について」が 15 件などとなっている。

<図表3-4-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[廃炉作業の迅速な実施について]

- 原発本体は大丈夫なのでしょうか。楡葉町はとても近いです。次に何かあった時の事を考えると安心できないです。国よりも判断を早く出してくれた、楡葉町に感謝しています。(30代)
- 原発事故が収束し廃炉にならないと安心して生活ができないと思います。避難指示が解除になり帰町宣言をしても5～10年以上は町民全体が戻ることはないと思う。放射線は対する不安が解消されないかぎり戻れません。(50代)

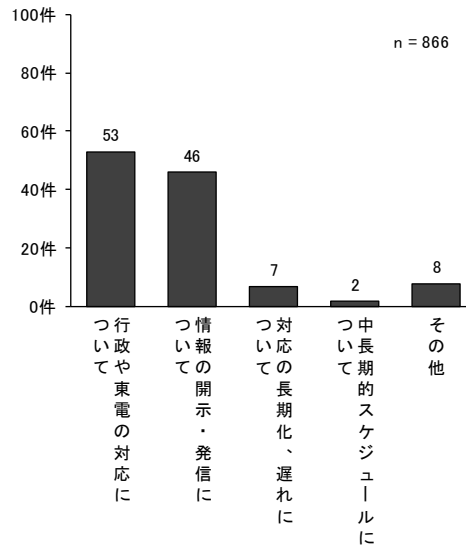
[廃炉作業全般について]

- 楡葉町は、1Fから20km圏内である。今後1F(2Fも)の廃炉作業において、重大な事故が発生の可能性のある以上、避難指示を解除すべきではない。(40代)
- 世界で初めてメルトダウンした核燃料を取り出すのに安全とは言えない。完全に原発が収束していないのにそのような危険な所に帰れというのはおかしい。(50代)
- 原発廃炉に関し放射性物質の飛散を招かないよう、東電に体制作りをするようしっかり申し入れすべきと思われる。また、デブリの取り出しまで30～40年かかるとはいえ、技術的な面で当然、この難題をクリアする知見を見出し、住民に安心感を与えねばならない使命を負っているものと思う。技術改革を優先させ、見通しを示すことが大事と考えますのでしっかりと申し入れをして頂きたい。全世界が今福島に注目している中、方向性を示すべき事が大事と思われる。(60代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が53件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が46件、「対応の長期化、遅れについて」が7件などとなっている。

＜図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 長い避難生活を返して欲しいです。こんなに長期になるのであれば1年目で前に進めたのに。東電社員に一件一件謝罪してほしい。楢葉町に本社を持って来て住んでみればこの状態がわかると思います。(10～20代)
- 国や行政が示す放射線の数値等がいまいち信用できない。除染しても追いつかず、黒い袋は被れて木の根など出てきていてもほったらかしになっている。(40代)
- 家族の放射線、土壌汚染に対する嫌悪感が強くあり、政府、行政の信頼度が低い事から、いくら線量は低く安全ですと言われてもすぐに戻る気にはなってもらえない。(50代)

【情報の開示・発信について】

- 私達家族は、1日も早く楢葉町に戻りたいと考えています。でも、子供の学校が楢葉町で再開されるまでは、帰れません。帰町宣言は2017年4月以降といわれていますが、帰町＝小学校・中学校の再開とならないうちは、東京の小学校に通わせざるをえません。転校の手続き等もありますので1日も早くそのへんの情報を公開して下さい。心からよろしくお願いします。(30代)
- 仮設住宅と借上住宅との情報の差を感じる。町の対応に理解はするが国や県の対応、マスコミ等の報道が消されていくのを感じるし、圧力に負けないで欲しい。(40代)
- 細かな生活の目度が立つ情報がほしい。(50代)

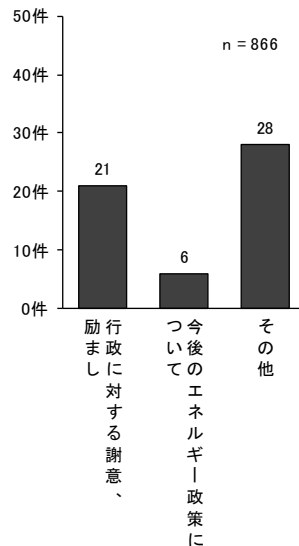
[対応の長期化・遅れについて]

- 義援金の支払いなど、他市町村に比べるとおそいと感じる。ホームページ上で東電の情報など他のところと比べると詳しい情報をあげていないと思う。健診等、県外に避難している人は大変不便な思いをしている。東電のいろんな説明会をいわきなどで開催されているが、県外の人はおいていかれてる感がある。会場での一問一答みたいな情報を送ってほしい。来年の春以降の帰還とか、どう考えてもむりだと思うので事故後5年以降として東電の財物賠償等を全損扱いにすべきだと思う。(50代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が21件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が6件などとなっている。

＜図表3-4-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[行政に対する謝意、励まし]

- 役場の方々には、いつもできうるかぎりの事をしていただいていると感じています。でも、子供達が小さいのと、元の家を取りこわす事が決まった時、もう戻れないのだなと思いました。今後は、檜葉町に似た町をさがし、移り住むことになるでしょう。自分を育ててくれた町を忘れたり是不可能的。離れても、檜葉町の復興に協力できることはしていきたい。(30代)
- 町長はじめ、職員の方々には、心から感謝を申し上げます。この状況の中での業務の困難さは、誰が見てもわかります。行政職員であっても、同じ避難者です。業務としては、町の復興は大切ですが、皆様、家庭人、檜葉町民としての本音も、国や県に、どんどん言うべきです。ガマンしないで、町として、どうしても無理なものは、国に言われても反対する位の意気込みで、頑張りましょう。同じ檜葉町民、双葉の仲間として、これからも力を合わせて、一緒に頑張りましょう。お身体大切にしてくださいね。(40代)
- 多方面において、復興に関係する方達のご苦労や頑張りにより、日々計画が一步一步力強く確実に進んでいる事に対し、大変感謝しております。長期化する複雑な気持ちでの避難生活に嬉しいニュースです。この事を支えにふるさとでの生活に思いをはせています。その日が一日も早い事を願いつつ。又、町民が檜葉の地に元気で帰る事ができる様に祈る毎日です。周りの方々にお世話になり乍ら、体に気をつけ、野菜や果物、花を作り育て、避難前に近い生活をする事を生きる原動力としています。多くは望みません。心安まるストレスの少ない生活です。思い通りになるかは不明ですが、そういう余生を送れたら幸いです。お手数でもご支援よろしくお願い致します。(60代)

[今後のエネルギー政策について]

- 檜葉町全体を買い取り又は貸すなどして、原発の研究と作業員の町に。富岡と檜葉に焼却施設を建てるなら、そう思います。空いている土地はソーラーパネルなど活用して電力を変える。全国でそう思っているのではないのでしょうか。(40代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

楡葉町 住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

- ▶ ご回答は、楡葉町住民の世帯の代表者の方をお願いいたします。
- ▶ 現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合には、それぞれの場所にお住まいの代表者の方にご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

- ▶ ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ▶ 前から順番に回答を進めてください。途中、「問〇〇へ」などと質問を飛ばすように指定がある場合には、それに従って回答を進めてください。
- ▶ 「その他」に○をされた場合は、()内に具体的な内容をご記入ください。
- ▶ の中に記入をお願いしている質問には、地名、数などを具体的に
ご記入ください。

※調査票はすべて無記名でお願いしております。

● ご提出方法

- ▶ ご記入済みの調査票は、10月17日(金)までに、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

楡葉町 福島県 復興庁

【お問い合わせ先】

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

■ 復興庁「住民意向調査」問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-966-279

[設置期間： 10月6日(月)～10月17日(金) 平日10時～17時]

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問1 性別（○は1つ）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

【すべての方にうかがいます。】

問2 あなたの現在の年齢（○は1つ）

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1 ~19歳 | 6 40~44歳 | 11 65~69歳 |
| 2 20~24歳 | 7 45~49歳 | 12 70~74歳 |
| 3 25~29歳 | 8 50~54歳 | 13 75~79歳 |
| 4 30~34歳 | 9 55~59歳 | 14 80歳以上 |
| 5 35~39歳 | 10 60~64歳 | |

東日本大震災発生当時のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問3 震災発生当時にお住まいだった地区を以下から教えてください。（○は1つ）

- | | | | |
|-------|--------|--------|------------------------------------|
| 1 旭ヶ丘 | 8 山田岡 | 15 前原 | 22 その他 |
| 2 菅団 | 9 山田浜 | 16 大坂 | ※わからない場合住所を
記載してください

() |
| 3 乙次郎 | 10 女平 | 17 大谷 | |
| 4 下井出 | 11 松館 | 18 榎木下 | |
| 5 下小埜 | 12 上井出 | 19 波倉 | |
| 6 下繁岡 | 13 上小埜 | 20 繁岡 | |
| 7 山所布 | 14 上繁岡 | 21 北田 | |

【すべての方にうかがいます。】

問4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。（○は1つ）

- | | |
|------------|---------------|
| 1 当時世帯主だった | 2 当時世帯主ではなかった |
|------------|---------------|

【すべての方にかがいます。】

問5 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64歳(中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65歳以上の方	人

現在のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問6 あなたが現在避難されている自治体名を教えてください。(○は1つ)

1 いわき市	6 福島県内のその他の市町村(具体的にご記入ください。)
2 会津美里町	→ <input type="text"/> (市・町・村)
3 福島市	7 福島県外(具体的にご記入ください。)
4 郡山市	→ <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区)
5 会津若松市	

【すべての方にかがいます。】

問7 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64歳(中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

問 8 震災発生当時ご一緒にお住まいであった家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1 世帯でまとまって避難（一人暮らし含む） | 3 合計3か所に分散 |
| 2 合計2か所に分散 | 4 合計4か所以上に分散 |

【すべての方にうかがいます。】

問 9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 応急仮設住宅 | 6 親戚・知人宅 |
| 2 借上げ住宅 | 7 持ち家（ご本人又はご家族所有） |
| 3 公営住宅（有償） | 8 その他 |
| 4 民間賃貸住宅（有償） | 〔具体的に〕 |
| 5 給与住宅（社宅など） | |

問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

【すべての方にうかがいます。】

問 10(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

- | | | |
|-----------------------------|----------------|---------|
| 1 自営業・会社経営者（継続中
もしくは再開済） | 7 パート・アルバイト | |
| 2 自営業・会社経営者（休業中） | 8 学生 | →問 11 へ |
| 3 会社員（事務） | 9 無職（職を探していない） | →問 11 へ |
| 4 会社員（労務） | 10 無職（職を探している） | →問 11 へ |
| 5 団体職員 | 11 その他 | |
| 6 公務員 | 〔具体的に〕 | |

【就業している方にうかがいます。】

問 10(2) 業種（○は1つ）

- | | | |
|-------------|------------------|--------|
| 1 農・林・漁・畜産業 | 6 運輸業 | 11 公務 |
| 2 建設業 | 7 卸・小売り・飲食・サービス業 | 12 その他 |
| 3 製造業 | 8 金融・保険業 | 〔具体的に〕 |
| 4 電気業 | 9 医療・福祉 | |
| 5 ガス・水道業 | 10 教育 | |

あなたの今後のご意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 11 今後の職業について、どのようにお考えですか。震災発生当時、自営業・会社経営者だった方はB、それ以外の方はAにお答えください。(○は1つ)

【A 震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外の方は下記にご回答ください】

- 1 震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働きたい
- 2 震災発生後に転職又は就職し、今後も現在の職場で働きたい
- 3 今後、檜葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい
- 4 今後、檜葉町以外*の職場で働きたい

※希望地があれば、具体的にご記入ください。

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

- 5 今後、働く予定はない
- 6 その他

具体的に

→問 12 へお進みください。

【B 震災発生当時の職業が自営業・会社経営者の方は下記にご回答ください】

- 1 現在仕事をしており、今後も働きたい
- 2 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が元の場所で見通しが立っている
- 3 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が元の場所以外*で見通しが立っている

※具体的にご記入ください。

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

- 4 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい
- 5 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所以外*で再開させたい

※希望地があれば、具体的にご記入ください。

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

- 6 今後、働く予定はない
- 7 その他

具体的に

→問 12 へお進みください。

【すべての方にかがいます。】

問 12 将来、檜葉町の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは檜葉町に戻りますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|-------------|---------|
| 1 | すぐに戻る | →問 13 へ |
| 2 | 条件が整えば戻る | →問 14 へ |
| 3 | 檜葉町には戻らない | →問 16 へ |
| 4 | 今はまだ判断ができない | →問 17 へ |

【 **問 13** は、問 12 で「1 すぐに戻る」と回答した方にかがいます。】

問 13(1) 避難指示が解除され檜葉町に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|-------------------|------|------------------------------------|
| 1 | 自宅再建、確保の支援 | 10 | きめ細かいモニタリングとその継続
(空間線量率、水、食料品等) |
| 2 | 公営住宅の整備 | 11 | 行政区等のコミュニティ活動への支援 |
| 3 | 継続的な健康管理の支援 | 12 | イノシシ・ネズミ等の駆除 |
| 4 | 雇用確保の支援 | 13 | 防災・防犯体制の強化 |
| 5 | 商店の再開 | 14 | その他 |
| 6 | 鉄道等の公共交通機関の再開 | 具体的に | |
| 7 | 医療機関・介護・福祉サービスの再開 | | |
| 8 | 学校や教育機関の再開 | | |
| 9 | 放射線に対する不安解消への取組 | | |

問 13(2) 檜葉町で豊かな日常生活や余暇を過ごすために、行ってみたい取組や参加したいと思う地域活動をお選びください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|---|--------------|------|-----------------------|
| 1 | 有志によるサークル活動 | 9 | 防災・防犯活動(地域パトロール、消防団等) |
| 2 | 趣味、ものづくり教室 | 10 | 仕事・労働 |
| 3 | 運動・スポーツ | 11 | 動物とのふれあい |
| 4 | 料理教室 | 12 | その他 |
| 5 | 学習セミナー、資格の取得 | 具体的に | |
| 6 | 家庭菜園、農作物の栽培 | | |
| 7 | お祭り、イベント | | |
| 8 | ボランティア活動 | | |

→問 15 へお進みください。

【問 14 は、問 12 で「2 条件が整えば戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 14(1) 檜葉町に戻るにあたり、あなたがその条件として考慮する情報等について、あてはまるものをお選びください。(○はいくつでも)

1 避難指示解除となる時期	7 放射線の人体への影響
2 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期	8 働く場の確保の目途
3 どの程度の住民が戻るかの状況	9 受領する賠償額
4 放射線量の低下の状況	10 その他
5 除染土壌や廃棄物の保管・移送・処分に関する情報	具体的
6 原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）	

問 14(2) 上記（問 14(1)）で選んだ情報等のうち、特に重視するものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件が満たされたときに戻る予定ですか。具体的にお書きください。

問 14(1)の 選択肢番号	具体的な条件の内容
(例) 3	檜葉町で近所に住んでいた人たちが戻ってくる

→問 15 へお進みください。

【問 15 は、問 12 で「1 すぐに戻る」又は「2 条件が整えば戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 15(1) 檜葉町に戻る場合、避難指示解除から何年以内に戻りたいとお考えですか。(○は1つ)

1 1年以内	2 3年以内	3 5年以内	4 5年超
--------	--------	--------	-------

問 15(2) 檜葉町への帰還後、どのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児 (小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳 (中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

問 15(3) 檜葉町に帰還した場合のお住まいは、どのような形態を予定されていますか。(○は1つ)

1 元の持ち家 (自宅) (建て替える場合を含む) →問 15(5)へ	6 公営住宅
2 元の自宅とは別の町内の場所に、新たに一戸建の持ち家を建てる	7 給与住宅 (社宅など)
3 元の自宅とは別の町内の場所に、新たに分譲集合住宅を購入する	8 家族のどなたかのお住まい・実家
4 民間賃貸住宅 (一戸建)	9 親戚・知人宅
5 民間賃貸住宅 (集合住宅)	10 その他
	11 現時点では判断していない

(具体的に)

【問 15(3)で、「2」～「11」のいずれかを回答した方にうかがいます。】

問 15(4) 元の持ち家以外をお住まいとされる理由は、何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 自宅が荒廃しているから	6 その他
2 自宅周辺の放射線量が心配だから	7 元々民間賃貸住宅、公営住宅、給与住宅等に住んでいたから
3 津波の被害を受けることが心配だから	
4 自宅周辺に住む人が少ないと思うから	
5 檜葉町内の新たな場所で生活を開始したいから	

(具体的に)

→問 15(5)へお進みください。

問 15(5) 次のサービスの中から、民間事業者等が町内で実施する場合、利用したいと思うもの（利用者による費用負担あり）についてお選びください。（○はいくつでも）

1	買い物の代行、購入した商品の配達	7	その他
2	自宅敷地の除草	具体的に	
3	自宅の掃除の代行・支援		
4	食事の配達（配食）		
5	子どもの一時的預かり		
6	ペットの世話		

→問 18 へお進みください。

【問 16 は、問 12 で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 16(1) 檜葉町に戻らないと決めている理由はどのようなことですか（○はいくつでも）

【帰還の前提・健康に関わるもの】

- 1 放射線量が低下せず不安だから
- 2 原子力発電所の安全性に不安があるから
- 3 水道水等の生活用水の安全性に不安があるから

【町内の復旧状況に関わるもの】

- 4 檜葉町に戻っても仕事がなさそうだから
- 5 檜葉町での事業の再開が難しいから
- 6 営農などができそうにないから
- 7 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
- 8 檜葉町外への移動交通が不便だから
- 9 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
- 10 医療環境に不安があるから
- 11 介護・福祉サービスに不安があるから
- 12 教育環境に不安があるから
- 13 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

- 14 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから
- 15 他の住民も戻りそうにないから
- 16 今後の津波被害が不安だから
- 17 帰還までに時間がかかるから
- 18 避難先で仕事を見つけているから
- 19 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
- 20 その他

（具体的に）

問 16(2) 檜葉町に戻らない場合、今後どの自治体で居住を予定されていますか（○は1つ）

- 1 いわき市
- 2 会津美里町 → (市・町・村)
- 3 福島市
- 4 郡山市
- 5 会津若松市 → (都・道・府・県) (市・町・村・区)
- 6 福島県内のその他の市町村（具体的にご記入ください。）
- 7 福島県外（具体的にご記入ください。）
- 8 現時点では判断していない

問 16(3) 今後居住する住宅はどのような形態（の予定）ですか。（○は1つ）

- 1 持ち家（一戸建）
- 2 持ち家（集合住宅）
- 3 民間賃貸住宅（一戸建）
- 4 民間賃貸住宅（集合住宅）
- 5 公営住宅
- 6 給与住宅（社宅など）
- 7 家族のどなたかのお住まい・実家
- 8 親戚・知人宅
- 9 その他
- 10 現時点では判断していない

（具体的に）

問 16(4) 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1 公営住宅の確保	7 避難先住民との交流
2 継続的な健康管理の支援	8 その他
3 雇用確保の支援	具体的に
4 仮設住宅・借上げ住宅の支援の継続	
5 檜葉町からの継続的な情報提供	
6 町民同士の交流	9 特にない

→問 18 へお進みください。

【問 17 は、問 12 で「4 今はまだ判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問 17(1) 檜葉町に戻るかどうかの判断をする際に、あなたが参考にする情報等について、あてはまるものをお選びください。(○はいくつでも)

1 避難指示解除となる時期	8 働く場の確保の目途
2 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期	9 受領する賠償額
3 どの程度の住民が戻るかの状況	10 その他
4 放射線量の低下の状況	具体的に
5 除染土壌や廃棄物の保管・移送・処分に関する情報	
6 原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）	
7 放射線の人体への影響	11 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない →問 18 へ

【問 17(1)で、「1」～「10」のいずれかを回答した方にうかがいます。】

問 17(2) 上記（問 17(1)）で選んだ情報等のうち、特に重視するものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件が満たされたときに戻りたいと考えますか。具体的にお書きください。

問 17(1)の 選択肢番号	具体的な条件の内容
(例) 3	檜葉町で近所に住んでいた人たちが戻ってくる

→問 18 へお進みください。

震災発生当時にお住まいだった住宅の状況について詳しく教えてください。

【すべての方にかがいます。】

問 18 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

1 持ち家（一戸建）		7 家族のどなたかのお住まい・実家	
2 持ち家（集合住宅）			→問 20 へ
3 民間賃貸住宅（一戸建）	→問 20 へ	8 親戚・知人宅	→問 20 へ
4 民間賃貸住宅（集合住宅）	→問 20 へ	9 その他	→問 20 へ
5 公営住宅	→問 20 へ	（具体的に	）
6 給与住宅（社宅など）	→問 20 へ		

【**問 19** は、問 18 で「1 持ち家（一戸建）」又は「2 持ち家（集合住宅）」と回答した方にかがいます。】

問 19 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）は、今後どのようにされる予定ですか。
(○は1つ)

1 被害がなく（又は軽微であり）、修繕が不要
2 すでに修繕済
3 現在修繕中
4 今後すぐに（1年未満）修繕する予定
5 今後1～2年以内に修繕する予定
6 今後修繕を行う予定であるが、時期は未定
7 特に修繕を行わず、そのままにする
8 解体する（その後、建て替える予定）
9 解体する（現時点で、建て替える予定はない）
10 現時点では判断していない
11 その他
（具体的に
）

→問 20 へお進みください。

【すべての方にうかがいます。】

問 20 町の復興に対して、日頃お感じになっているお気持ちや今後のあなたの展望などを自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。
調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送用封筒にご記入済みの調査票を入れて、
10月17日(金)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**楡葉町 住民意向調査
報告書**

平成27年3月

復興庁 福島県 楡葉町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

